大館市立総合病院年報

第10号

R2.4~R3.3



□大館市立総合病院の理念と基本方針□

理念

私たちは、患者さんが安心と満足を得られる医療を展開します。

基本方針

1. 患者さん中心の「医療」

患者さんとの信頼関係を大切にし、病める人への配慮を常に忘れず、心のこもった患者さん中心の医療を提供します。

2. 地域の中核病院としての「医療」

地域中核病院としての役割を担い、二次医療を中心に業務を遂行します。 常に医療の安全と医療水準の向上をめざし、診療機能の充実を図ります。 地域の医療、保健、福祉との連携を緊密にし、地域住民の健康を守りま す。

3.全職員参加の「医療」

全職員は、自己の業務を充分に理解し、他の医療職種との連携を図って チーム医療を推進し、自己に課せられた業務に意欲的に取組み、病院 機能の一層の充実を図ります。全職員は、病院運営に参加しているという 自覚を持ちます。

4.地域医療を担う「人材の育成」

臨床研修指定病院·各種学会認定研修施設·臨床実習病院として、 教育·研修体制の充実強化を図り、次世代の地域医療を担う人材を 育成します。

患者さんの権利

患者さんには次のような権利があります。

- 1.治療について充分な説明を受け、それを理解した上で、自らの選択と同意に基づく医療を受ける権利
- 2.必要な情報を得る権利
- 3.平等で最善の医療を受ける権利
- 4.プライバシーを尊重される権利

目 次

目汐	7
----	---

巻頭言 ······ 古原 秀 一	1
沿革·施設概要 ·····	2
建物配置図	4
組織図	5
役職員名簿 ······	6
職員数 ••••••	7
医師在職者数調 ·····	8
認定施設一覧 ·····	9
病院見学受入実績 ·····	10
I. 各診療科別の臨床統計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
1. 呼吸器・循環器内科 ************************************	12
2. 消化器·血液·腫瘍内科···································	15
2. 何亿品・血液・腫瘍内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
 4. 外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
4. 外科 5. 呼吸器外科 ************************************	28
5. 呼吸器外科 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2c
6. 釜形外科 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
7. മമ്മുള്ള വാര്യ	35
8. 小兄科 ······ · · · · · · · · · · · · · · ·	38
	42
10. 泌尿器科 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	47
11. 耳鼻咽喉科 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	51
12. 神経精神科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54
13. 麻酔科 ••••••••••••••••	58
14. 放射線科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
15. 歯科口腔外科・矯正歯科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63
Ⅱ. 部門別の臨床統計・研究実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66
1. 看護部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
2. 臨床検査科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	71
3. 神経精神科リハビリテーション室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	74
4. 薬剤科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	77
5. 栄養科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	79
6. 放射線科 •••••••	82
7. リハビリテーション科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	86
8. ME室 ······	88
9. 医療安全推進室 •••••••	91
10. 感染制御室 ••••••	93

Ⅲ. 各委員会等報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • •	• • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	95
院内委員会等機構図 ·····				96
1. 医療安全対策委員会 ••••••	97		がん拠点病院運用会議 ・・・・・・・・・	127
2. リスクマネジメント委員会 ・・・・・・・	99	23.	化学療法放射線治療委員会 ····	128
3. 医療機器安全管理委員会 •••••	101	24.	がん登録委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	129
4. 院内感染対策委員会 · · · · · · · · ·	102	25.	緩和ケア委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	130
5. ICT委員会 ······	104		NST委員会 ······	133
6. 臨床研修管理委員会 · · · · · · · · ·	106	27.	クリニカルパス委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	135
7. 卒前卒後研修委員会 ••••••	108		情報システム運用委員会・・・・・・・・	136
8. 医の倫理委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	109		薬事委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	137
9. DPC委員会······	111	30.	患者サービス委員会 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	138
10. 災害対策委員会 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	112	31.	地域医療連携推進委員会 ••••••	139
11. 衛生委員会 •••••	113	32.	医療器材管理委員会 ••••••	140
12. 放射線安全管理委員会 ······	114	33.	保険診療委員会 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	141
13. 医療廃棄物管理委員会 ······	115	34.	広報委員会 •••••	142
14. 医療ガス安全管理委員会 ・・・・・・	116	35.	救急室運営委員会 ************************************	143
15. 輸血療法委員会 ••••••	117	36.	図書室運営委員会 ************************************	144
16. 診療記録管理委員会 · · · · · · · · ·	118	37.	手術室運営委員会 ************************************	145
17. 褥瘡対策委員会 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	119		ME室運営委員会 ······	146
18. 臨床検査適正化委員会 ・・・・・・・	121		教育委員会 •••••	147
19. 栄養管理委員会	123	40.	機能評価委員会 · · · · · · · · · · · ·	148
20. 勤務医負担軽減対策委員会 •••	124	41.	排泄ケア委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	149
21. 透析液水質確保委員会 · · · · · ·	125	42.	呼吸ケアサポートチーム委員会・・	150
Ⅳ. 臨床統計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				151
1. 年度別患者数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	152	16	年齡別外来患者分析表 · · · · · · · ·	165
2. 科別外来患者数(新患·再来) · ·	153		診療科別•病棟別平均在院日数 •	166
3. 科別外来患者数(新患) ······	154		分娩件数 ······	167
4. 科別外来患者数(再来) ······	155		外来化学療法件数 ••••••	168
5. 科別時間外・休日受付入院患者数	156	20	年度別麻酔件数 ••••••	168
6. 科別時間外·休日受付外来患者数	157	20. 91	月別麻酔件数 ••••••	169
7. 科別入院患者取扱状況 ••••••	158		診療科別麻酔件数 ••••••	169
8. 科別入院患者取扱状況 ••••••	158		救急患者来院数 ••••••	170
9. 科別1日平均入院患者数 ••••••	159		救急車搬入件数及び転送件数・・・	171
10. 科別1日平均外来患者数 ••••••	159		来院方法別救急患者数 •••••••	172
11. 年度別外来紹介患者数•紹介率	160		人間ドック受診者数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	172
12. 紹介率•逆紹介率 •••••••	161	20.	診療情報開示請求件数 ••••••	$172 \\ 173$
13. 病棟稼働状況及び病床利用率・	162		診療科別疾病統計 ••••••	174
14. 年度別科別平均在院日数 •••••	163		原死因統計 ••••••	175
15. 年齡別入院患者分析表	164	29. 30.	看護必要度状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	175
V. 臨床指標 ······			•••••••••••	176
大館市立総合病院年報第10号編集にあた	こって			179



令和2年度 第10号大館市立総合病院年報発刊によせて

大館市病院事業管理者 吉 原 秀 一

本年報第10号は第1号の病院年報が平成25年に発刊され10年目の節目を迎えます。10年一昔と言いますが、この10年は当病院が一地域の中核病院の位置づけから全国に通用する標準機能をもつ中核病院へと改革を重ねてきた10年でした。ここ2年は新型コロナ感染症による診療の停滞があり、本来のあるべき業績から変更を余儀なくされましたが、この10年をふり返ると大きな変化が見られました。当初の平成24年度は医師数が49名(うち研修医3名)、令和2年度は66名(うち研修医16名)。また、病院機能評価は未取得でありDPCも電子カルテ運用も端緒についたばかりでした。また、現在整備を計画している救命救急センターの必要性さえ議論されていませんでした。特に研修病院としての役割は大きく変化し、ほとんど研修医が来なかった病院から常に県内でも1、2を争う研修病院へと変貌を遂げました。これからも教育研修病院としての機能を高めるため改革改善を進めて行くことができればと思います。

さて、令和2年度は新型コロナ感染症の流行に大きく影響されました。今年度は有効なワクチンも有効な薬もなくスタンダードプリコーションのみで戦った1年でした。そもそも新型コロナ感染症の全貌も不明で分からないことへの不安と恐怖の中、職員一丸となって対応していただきました。その甲斐あって1例の院内クラスターも、死亡例も出さなかったことは称賛されるべきことと思われます。また、この徹底したスタンダードプリコーションのため他の一般感染症も激減したことは、スタンダードプリコーションの有効性が改めて証明されたと考えます。来年度も新型コロナ感染症からなかなか開放されることはないと思いますが、その中でも職員一丸となって病院を発展、強化していければと考えます。

(令和4年2月1日 記)

沿革•施設概要

明治12年に、木村謙斎、川瀬玄探ら8氏の主唱により字馬喰町地内に私立大館病院として創設され、その後、明 治15年に50か町村連合による公立大館病院が成立。明治32年には字長倉地内に新築移転、更に、昭和2年字三ノ 丸地内に新築移転した。昭和28年4月の大火により全施設を消失し、昭和30年2月までに現在地(豊町)に新築移転 した。昭和39年からは公立大館総合病院となったが、財政事情の悪化により昭和41年2月12日に病院を運営する-部事務組合 公立大館総合病院事務組合(大館市、田代町、花矢町で組織)を解散し、翌13日に大館市が一切を継

承した大館市立総合病院として発足した。 財政再建を進めながら、昭和45年5月には本館棟、昭和55年3月には放射線棟、昭和56年10月には神経精神科 棟、昭和59年10月には新館棟、平成9年11月には新館棟屋上に教育実習棟が完成した。平成12年から平成21年に かけては、高層棟などの大規模な増改築事業を行った。

また、地域の中核病院としての役割を果たすため、平成24年度にDPC病院への移行と病院機能評価の認定、平成 25年度に臨床研修評価の認定、そして平成26年度には地域連携室の開設や電子カルテの導入などに取り組んでき た。さらに、平成28年度の地域包括ケア病棟導入と認知症疾患医療センター設置。平成30年度には鹿角地域の産 科機能の集約化から患者の受け入れ体制を強化した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応重点医療機 関として体制整備を行い、一層の診療機能の充実に努めている。

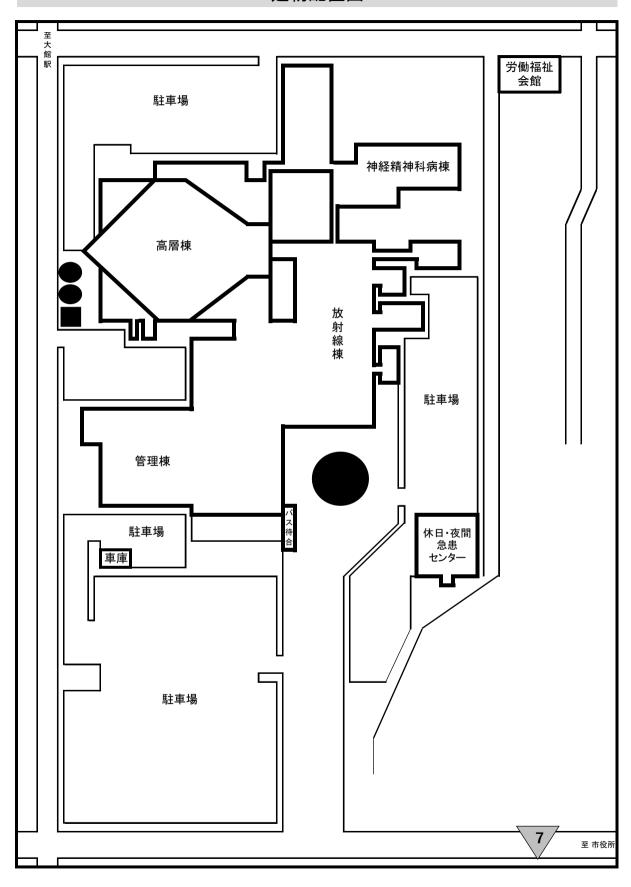
年表	
明治12年	「私立大館病院」として創設
15年	東大館町などの50か町村連合による「公立大館病院」が発足
32年	字長倉地内へ新築移転
昭和 2年	字三ノ丸地内へ新築移転
28年 4月	風呂屋町から発生した大火によって全施設を消失
30年 2月	現在地(豊町)に新築移転 許可病床数 一般147床、結核268床の計415床
4月	伝染病棟及び精神病棟完成 許可病床数 一般207床、結核268床、伝染36床、精神50床の
~12月	計561床
39年 4月	「公立大館総合病院」へ名称変更 許可病床数 一般219床、結核303床、精神180床、伝染28床
	計730床
41年 2月	極度の財政事情の悪化により「公立大館総合病院」を運営する一部事務組合は12日に解散。
	翌13日には大館市が一切を継承し「大館市立総合病院」として発足。許可病床数は、一般213床、
	結核207床、精神180床、伝染30床の計630床
	一部事務組合より継承した不良債務は3億7,400万円に上り、その解消を図るため、向後9カ年の
	財政再建計画を策定し、自治省より再建団体の指定を受ける
45年 5月	病院施設の近代化・立体化のため本館棟を改築(地下1階、地上6階、総事業費6億9,400万円)
	許可病床数は、一般290床、結核150床、精神180床、伝染30床の計650床(昭和46年3月時点)
44年~	医療需要の変化に対応した質的医療の充実を図るため、高度医療機器を導入するとともに医療
50年	技術スタッフの充足を図る(整備費総額3億3,760万円)
46年~	病床数の変更 昭和46年7月 646床、昭和47年1月 481床、昭和47年6月 一般325 床、結核70床、
47年	精神80床、伝染26床の計501床
49年	再建団体の指定解除
55年 3月	放射線棟を増築(事業費10億500万円)
10月	病床数の変更 一般325床、結核70床、精神110床、伝染26床の計531床
56年10月	神経精神科棟を全面改築(事業費5億3,735万円)
58年 7月	病床数の変更 一般375床、結核10床、精神110床、伝染10床の計505床
59年10月	新館棟を増築(総事業費13億3,797万円)
63年11月	豊町に医師住宅を建築(総事業費4億867万円)
平成 6年 3月	放射線棟MRI室の増築(総事業費2億1,423万円)
7年11月	昭和63年度頃から経営が悪化し、国の第四次病院事業経営健全化措置による病院健全化団体
	に指定される
9年 7月	積極的な経営健全化に努めた結果、病院健全化団体の指定解除
11月	新館棟屋上に教育実習棟を増築(総事業費2億2,926万円)
11年 4月	病床数の変更 一般375床、結核10床、精神110床、感染2床の計497床
12年~	地上11階建屋上へリポート設置の高層棟の増築(本館棟の解体)、管理棟(旧新館棟)及び放射
21年	線棟の一部改築などの増改築事業を実施(総事業費108億400万円) 許可病床数 一般375床、
	結核6床、精神110床、感染2床 計493床
20年 4月	地方公営企業法の全部適用により病院事業管理者を設置
12月	平成19年12月に国が示した「公立病院改革ガイドライン」に基づき、「病院事業経営改革プラン」
	を策定
21年 5月	7対1入院基本料施設基準の取得(一般・結核)

平成21年11月	弘前大学との間で「専門医養成ネットワークに関する協定」を締結
22年 6月	病院ロゴマークの制定
8月	病院広報誌「おおだて病院だより」を発行
23年 1月	院内保育所を開設(事業費1,942万円)
12月	人工透析室を拡張(事業費9,520万円)
24年 2月	「病院事業経営改革プラン」の見直し
4月	DPC対象病院となる
	病床数の変更 一般375床、結核6床、精神60床、感染2床 計443床
	診療科名の見直し(新設、廃止、名称変更により22科から24科へ)
10月	外来駐車場を50台分拡張(1,380㎡ 事業費1,282万円)
11月	売店をコンビニエンスストアとして新規開店
12月	看護師奨学金貸与条例を制定
25年 1月	病院機能評価(ver6.0)の認定を受ける
	「総合病院年報」第1号を発行
25年11月	高校生病院見学会開催
12月	弘前大学寄附講座によるフューチャードクターセミナー開催
26年 2月	臨床研修評価の認定を受ける
5月	地域連携室を開設
7月	あきたハートフルネットの利用開始。県内のネットワーク参加医療機関との間で情報の共有化が可
	能となる
11月	電子カルテを含む新医療情報システムが稼働。患者一人1カルテの運用体制が確立され、診療
	情報を共有するチーム医療の体制が整備される
27年 4月	呼吸器外科を新設。地域がん診療連携拠点病院として常勤医師2名の診療体制となる
28年 2月	臨床研修評価更新のため受審し、認定を受ける
. 8	地域がん診療連携拠点病院として平成32年3月まで4年間の指定更新を受ける
4月	地域包括ケア病棟を導入(59床)
10月	認知症疾患医療センターを設置
29年 3月	平成27年3月に国が示した「新公立病院改革ガイドライン」に基づき、「病院事業経営改革プラン」
- 0	を策定
5月 30年 1月	新たに「地域医療を担う人材の育成」を追加するなど、病院の理念・基本方針の見直しを行う
	病院機能評価(精神科病院を含む3rdG:Ver1.1)の認定を受ける
3月	臨床研修評価更新の認定を受ける
10月	鹿角地域の産科機能の集約化 院内保育所で病児保育を開始
31年 4月	院内保育所で病兄保育を開始 県北地域で唯一地域がん診療連携拠点病院として令和5年3月まで4年間の指定(更新)を受ける
51年 4月 令和元年10月	県北地域で唯一地域がん診療連携拠点病院として宣和5年3月まで4年间の指定(更新)を受ける 県より秋田DPAT病院の指定を受ける
〒和元年10月 2年	新型コロナウイルス対応重点医療機関としての体制整備を図る
4+	利王ニドノコルク刈心里は区域域としてソ中型金属を図り

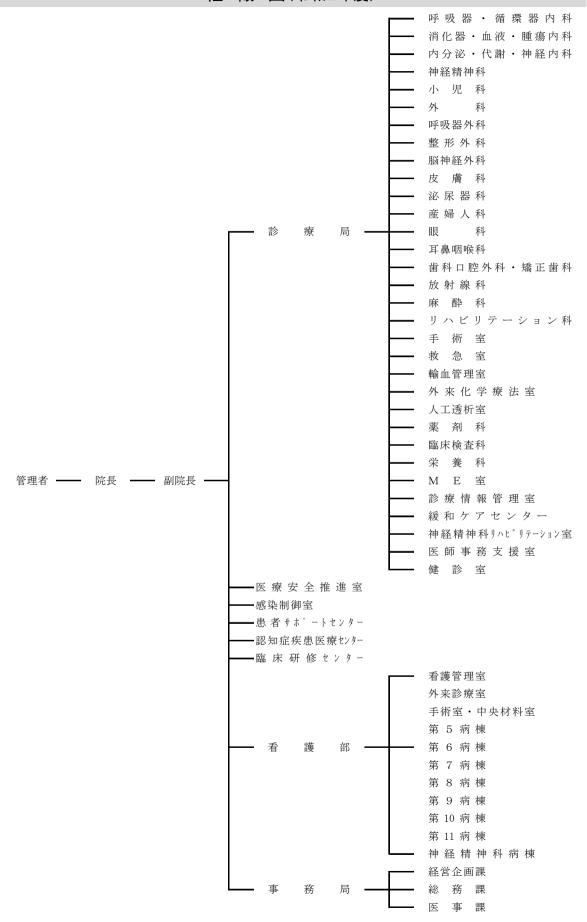
施設の概要

NE E	i又 √.	771491	女							
1	所	在	厗	大館市豊町3-1(TEL42-5370)						
2	敷		地	病院敷地 36,608㎡	公舎敷地	3,124 m²				
				病院(RC造11階建 他)		43,438.72 m²				
				職員宿舎(RC造 3階建)	4戸建1棟	431.81㎡(赤館)				
3	建		物	〃 (RC造 4階建)	16戸建1棟	2,491.95㎡(豊町)				
				" (木造モルタル造)	2戸	187.15㎡(桜町)				
				計		46,549.63 m²				
診	療	科	名	循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・血液内科・腫瘍内科・内分泌内科・代謝内科・神経内科精神科・小児科・外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・歯科・歯科口腔外科・矯正歯科計25科						
病阝	完の)性	格	計25科 対急告示病院・災害拠点病院・基幹型臨床研修病院・DPC対象病院 地域がん診療連携拠点病院・第二種感染症指定医療機関・エイズ治療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院・卒後臨床研修評価機構認定病院 大田県地域療育医療拠点施設(歯科診療部門)・精神科救急地域拠点病院 情神科救急身体合併症対応病院・秋田県地域周産期母子医療センター 仏前大学専門医養成ネットワークに関する協定病院・認知症疾患医療センター						

建物配置図



組織図(令和2年度)



役職員名簿

(令和3年3月31日)

管 理 者	佐々木 睦男
院長	吉 原 秀 一
副 院 長	橋 本 浩
副 院 長	大 石 晋
副院長兼診療局	長 成 田 知
副診療局長	盛岡元一郎
副診療局長	小 笠 原 仁
副診療局長	横山徹
副診療局長	篠原敦

外来化学療法室	室 長	小笠原仁
神経精神科リハビリテーション室	室 長	佐藤靖
リハビリテーション室	部 長	横山徹
人工透析室	室 長	成 田 知
放射線科	部 長	篠 原 敦
手術室	部 長	橋 本 浩
救急室	室 長	丹 代 諭
輸血管理室	室 長	小 笠 原 仁
ME室	室 長	成 田 知
医療安全推進室	室 長	成 田 知
感染制御室	室 長	池島進
診療情報管理室	室 長	大 石 晋
薬剤科	部 長	中 居 肇
患者サポートセンター	センター長	池島進
緩和ケアセンター	センター長	大 石 晋
認知症疾患医療センター	センター長	佐 藤 靖
医師事務支援室	室 長	成 田 知
卒後臨床研修センター	センター長	丹 代 諭
健診室	室 長	吉 原 綾 子
栄養科	部 長	池島進
絵印象検査科	部 長	盛 岡 元 一 郎
看護部	看護部長	石 田 和 子
事務局	事務局長	桜 庭 寿 志

職員数

(令和3年3月31日)

	所属	区分	職員数(人)
		管理者	1
		医師	48
		研修医	12
	薬剤科	薬剤師	18
	放射線科	放射線技師	14
	臨床検査科	臨床検査技師	21
	栄養科	栄養士	7
		理学療法士	12
診療局	リハビリテーション科	作業療法士	7
		言語聴覚士	2
		精神保健福祉士	2
	神経精神科	臨床心理士	3
		作業療法士	0
	認知症疾患医療センター	精神保健福祉士	1
	ME室	臨床工学技士	5
	眼科	視能訓練士	2
	医療安全推進室	副室長	1
		看護師	329
看護部		准看護師	1
		助手·技能員	1
	事務局	事務職員	32
	合計	•	519

医師•研修医在職者数

(単位:人)

														(単	位:人)
	診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
	吸器• 循環器内科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
	化器·血液· 腫瘍内科	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
内	分泌·代謝· 神経内科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
神	経精神科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
小	児 科	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0
外	科	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
呼	吸器外科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
整	形外科	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0
脳	神経外科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
皮	膚 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
泌	尿 器 科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
産	婦 人 科	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5.0
眼	科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
耳	鼻咽喉科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
歯	科口腔外科· 矯正歯科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
放	射 線 科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
麻	酔 科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
臨	床検査科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
臨	床研修医	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144	12.0
合	計	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720	60.0

認定施設一覧

(令和3年3月31日)

番号	学 会 名 等	認定施設名等
1	日本泌尿器化学会	日本泌尿器科学会専門医教育施設
2	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
3	日本消化器外科学会	日本消化器外科学会専門医修練施設
4	日本整形外科学会	日本整形外科学会専門医制度研修施設
5	日本内科学会	日本内科学会認定医制度教育関連病院
6	日本眼科学会	日本眼科学会専門医制度研修施設
7	日本脳神経外科学会	日本脳神経外科学会専門医制度連携施設
8	日本麻酔科学会	日本麻酔科学会認定麻酔科専門医研修施設
9	日本糖尿病学会	日本糖尿病学会認定教育施設
10	日本外科学会	日本外科学会外科専門医制度修練施設
11	日本がん治療認定医機構	日本がん治療認定医機構認定研修施設
12	日本臨床栄養代謝学会	日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設
13	日本精神神経学会	日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
14	日本消化器内視鏡学会	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
15	日本乳癌学会	日本乳癌学会関連施設
16	日本臨床腫瘍学会	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
17	秋田県医師会	秋田県医師会母体保護法指定医師研修機関
18	日本循環器学会	日本循環器学会循環器専門医研修関連施設
19	日本周産期・新生児医学会	日本周産期·新生児医学会周産期母体胎児専門医補完研修施設
20	1 平向座朔 - 初生九医于云	日本周産期•新生児医学会周産期新生児専門医補完研修施設
21	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ健診施設画像認定施設
22	日本病理学会	日本病理学会専門医制度研修施設
23	厚生労働省	がん診療連携拠点施設
24	日本産科婦人科内視鏡学会	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
25	日本消化器病学会	日本消化器病学会専門医制度認定施設
26	日本感染症学会	秋田県医師会母体保護法指定医師研修機関
27	日本医学放射線学会	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
28	日本理学療法士協会	日本理学療法士協会新人教育プログラム臨床指導施設
29	呼吸器外科専門医合同委員会	呼吸器外科専門医制度関連施設
30	日本消化器款学会	日本消化器官学会胃腸科指導施設
31	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定施設
32	薬学教育協議会	薬学生実務実習受入施設
33	日本輸血・細胞治療学会	日本輸血·細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A制度)認証施設
34		日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
35	日本医療薬学会	日本医療薬学会がん専門薬剤師制度がん専門薬剤師研修施設
36		日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度薬物療法専門薬剤師研修施設
37	肺がんCT検診認定機構	肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定施設
38	日本口腔外科学会	日本口腔外科学会准研修施設

病院見学等受入実績

・令和2年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため職場見学や職場訪問の受け入れ無し。

I. 各診療科別の臨床統計

1. 呼吸器•循環器内科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
59.5	14,461

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	710 Å	1	外来(再来)患者延数	13 749 Å
外来(新患)患者延数	719 人		外来(冉来)患者延数	13,742 人

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数平	2均	3	人/日
---	---	---	---	---	----	----	---	-----

(4)看護師数

看 護 帥 人 数 6 /	看	護	師	人	数		6	人
----------------	---	---	---	---	---	--	---	---

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	高血圧症	6	虚血性心疾患
2	心不全	7	気管支喘息
3	心房細動、心房粗動	8	房室ブロック
4	狭心症	9	慢性閉塞性肺疾患
5	洞不全症候群	10	間質性肺炎

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

心臓カテーテル検査	毎週水曜日、金曜日、午後
腎臓外来	毎週水曜日午前
呼吸器外来(大学病院DR)	毎週月、水曜日午前、毎月第3木曜日午後

(2)専門医の名称と人数

日本呼吸器学会呼吸器専門医	1 人
日本循環器学会循環器専門医	3 人
日本脳卒中学会脳卒中専門医	1 人
日本不整脈心電学会 整脈専門医	1 人
日本内科学会 総合内科専門医	1 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価
(人/日)	(日)	(円)
15.7	13.0	53,291

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

心不全	108	人
狭心症	41	人
肺炎	25	人
房室ブロック	17	人
ペースメーカー電池消耗	16	人
急性心筋梗塞	16	人
間質性肺炎	13	人
心室細動	13	人
脳梗塞	13	人
慢性虚血性心疾患	11	人
急性大動脈解離	10	人
慢性腎不全	8	人
不整脈	8	人
大動脈弁狭窄症	7	人
肺炎球菌性肺炎	6	人
誤嚥性肺炎	6	人
慢性閉塞性肺疾患	5	人
心膜炎	4	人
心筋症	4	人
総数	331	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 超音波検査	1,615
② 経食道心エコー	38
③ ホルター心電図	755
④ 心筋SPECT	20
⑤ 心臓カテーテル検査	97

(2)手術例

項目	例 数
① ペースメーカー移植術	25
② ジェネレーター交換術	11

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

令和3年10月より急性心筋梗塞に対して緊急での経皮的冠動脈形成術(PCI)が可能となりました。

(2)今後の課題

医師の増員、論文執筆

2. 消化器・血液・腫瘍内科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
113.3	37,960

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,216 人		外来(再来)患者延数	26,313 人
------------	---------	--	------------	----------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数平	均	6	人/日
---	---	---	---	---	----	---	---	-----

(4)看護師数

看 護 師 人 数	15 人
-----------	------

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	胃十二指腸潰瘍 逆流性食道炎	6	胆管癌 胆囊癌 膵癌
2	胃癌 大腸癌 大腸ポリープ	7	悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 骨髄異形成症候群
3	潰瘍性大腸炎 クローン病	8	急性及び慢性白血病
4	慢性肝炎 肝硬変 肝癌	9	慢性関節リウマチ 膠原病
5	総胆管結石 胆嚢結石	10	消化器がん検診の二次精査(内視鏡依頼)

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

膠原病外来 (予約制)	毎週金曜日
血液内科外来	毎週水曜日 木曜日

(2)専門医の名称と人数

総合内科専門医	3 人
消化器病専門医	3 人
消化器内視鏡専門医	3 人
がん治療認定医	2 人
プライマリケア指導医	2 人

肝臓専門医	1 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価
(人/日)	(日)	(円)
51.3	12.8	54,448

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

大腸ポリープ	333	人
胃癌	121	人
総胆管結石	91	人
膵癌	85	人
大腸癌	103	人
肝癌	50	人
食道癌	44	人
大腸憩室出血および憩室炎	40	人
悪性リンパ腫	59	人
急性膵炎	36	人
胆道癌	35	人
胃十二指腸	29	人
虚血性腸炎	24	人
胆管炎及び胆嚢炎	22	人
アルコール性肝疾患	17	人
誤嚥性肺炎	17	人
骨髄異形成症候群	17	人
その他	15	人
総数	1,138	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 上部消化管内視鏡検査	3,170
② 下部消化管内視鏡検査	1,675
③ 腹部超音波検査	972
④ 小腸内視鏡検査	23
⑤ カプセル内視鏡検査	20

(2)治療例

項目	例 数
① 外来化学療法	4,015
② 外来輸血療法	506
③ 放射線治療	28
④ 生物学的製剤自己注射指導	104
⑤ 腹腔穿刺(腹水除去)	78

(3)手術例

項目	例 数
① 内視鏡的大腸ポリープ切除	381
② 内視鏡的胆管ステント挿入	107
③ 胃ESD(粘膜下層剥離術)	50
④ 内視鏡的乳頭切開術	48
⑤ 上部消化管止血術	81

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

この数年の傾向である当地域の一次医療も担っていかざるを得ない状況にかわりはなく、更に同時に専門性を持った診療の継続をしている。今後も同様の状態が続くと思われる。したがって内科を志す研修医及び後期研修医にとっては多岐にわたる疾患を経験できるメリットがあることはまちがいない。また、認定資格取得を目指す看護師にとっても当科で消化器内視鏡技師、輸血認定看護師、リウマチ認定看護師、化学療法認定看護師などの資格取得が可能である。今後もこれら資格取得を目指す医師、看護師の増員を働き掛けていき、院内でもそのような機運が盛り上がることを期待したい。

(2)今後の課題

当地域内の一次医療機関が増えておらず、かつ施設入所の高齢者の増加にて一次診療及び施設入所高齢者の疾患対応に追われるとられる時間が年々長くなり日々の業務の終了も遅くなっている。向後数年以上は同様の傾向が続くと思われるので人材の確保を毎年の課題としている。

6. 学会発表等

(1)学会発表

ij	頁目	内 容
1	年月日	令和3年2月5日
2	学会名	第165回日本消化器内視鏡学会東北支部例会
3	開催地	Web開催
4	演題	SpyGlass DSを用いて診断加療しえた良性肝内胆管狭窄及び肝内結石の一例
(5)	発表者	中野咲季 高橋一徳 山居聖典 大川栞 小笠原仁

項目		内 容
1	年月日	令和3年2月6日
2	学会名	第210回の本消化器病学会東北支部例会
3	開催地	Web開催
4	演 題	当院における緩和医療での内視鏡的食道ステント留置術の成績と検討
(5)	発表者	山居聖典 大川栞 舘田哲幸 高橋一徳 小笠原仁

3. 内分泌•代謝•神経内科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価	
(人/目)	(円)	
98.3	10,753	

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数 552	人 外来	(再来)患者延数	23,328 人
----------------	------	----------	----------

(3)担当医師数

担 当 医 師 人 数 平均	3 人/日
----------------	-------

(4)看護師数

看 護 師 人	数	5 人
---------	---	-----

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	2型糖尿病	6	パーキンソン病
2	本態性高血圧	7	甲状腺機能低下症
3	甲状腺機能亢進症	8	妊娠糖尿病
4	脂質異常症	9	脳梗塞
5	1型糖尿病	10	肺炎

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

内分泌外来	毎週月・水曜日:午後
禁煙外来 (予約制)	毎週木曜日
神経内科外来 (予約制)	毎週水・木曜日:午後
フットケア外来 (予約制)	毎週火曜日

(2)専門医の名称と人数

総合内科専門医	1 人
糖尿病専門医•研修指導医	1 人
感染症専門医•指導医	1 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価	
(人/日)	(日)	(円)	
10.2	13.8	41,243	

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

2型糖尿病	81	人
肺炎	43	人
脳梗塞	13	人
尿路感染症	10	人
低ナトリウム血症	7	人
脱水	6	人
1型糖尿病	5	人
急性腎不全	5	人
横紋筋融解症	5	人
パーキンソン病	5	人
COVID-19	5	人
蘇生に成功した心停止	4	人
呼吸不全	2	人
低血糖発作	2	人
貧血	2	人
甲状腺機能低下症	2	人
総数	197	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 腹部超音波検査	50
② 甲状腺超音波	400

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科に糖尿病専門医・指導医1名が常勤している。県北地区の糖尿病診療の中核病院である。

入院糖尿病教室を午前、午後毎日開催している。日本糖尿病協会糖尿病療法指導士 (CDE-J)あるいは秋田糖尿病療法指導士(CDE-A)の資格を取得している栄養士、薬剤師、看護師と医師が、糖尿病教育を実践している。

大館地区の糖尿病医療連携パス構築し、診療所と連携をとりながら、診療を行っている。平成26年2月から始めた連携パスは、令和2年3月現在、累計約400名以上の糖尿病患者が連携パスを利用している。

糖尿病腎症からの人工透析を予防するため、チーム医療に取り組んでいる。院内及び健診 データから透析ハイリスク患者を抽出し、そこに行政とも連携をとりながら、チーム医療で総合的 に介入して透析を予防していく事業を開始している。今後も、行政、保険者、診療所(医師会)と より連携をとりながら、地域ぐるみでの透析予防を展開していきたいと考えている。

また、糖尿病壊疽などの足病変予防にもチーム医療で取り組んでいる。

(2)今後の課題

医療の進歩により糖尿病患者を含め寿命が延びているが、健康寿命を同時に延ばしていくことがより重要である。そのためには、糖尿病を含めた生活習慣病を改善していくことが重要であり、高齢化社会へ向けてのフレイル対策が重要である。現在、通院中患者のフレイル状況を調査し、その対策を検討中である。

高齢化社会、生活習慣の変化から、糖尿病患者は増加の一途をたどっている。糖尿病合併症は、失明に至る網膜症、透析に至る腎症、QOLを著しく低下させる神経症、心筋梗塞、脳梗塞、末梢動脈循環不全などをおこす動脈硬化疾患、易感染性による肺炎など多疾患にわたる。糖尿病患者はこれらの合併症を早期から予防する事が重要であり、今後当科の役割はますます重要になってくると思われる。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目		内 容
1	年月日	令和2年 6月12~16日(金~火)
2	学会名	AMERICAN DIABETES ASSOCIATION 80TH SCIENTIFIC SESSIONS
3	開催地	vertical meeting
4		Novel screening and management of fall-risk in type 2 diabetic patients with diabetic kidney disease
5	発表者	SHIN IKEJIMA

項	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年10月5日~16日(月~金)
2	学会名	第63回日本糖尿病学会年次学術集会
3	開催地	Web開催
4	演 題	大館市の糖尿病透析予防システム構築へ向けての取り組み報告
(5)	発表者	池島 進, 高橋 和久, 鷲田 啓資, 大門 眞

項目		内 容
1	年月日	令和2年8月19日(水)~8月21日(金)
2	学会名	第63回日本腎臟病学会学術総会
3	開催地	Web開催
4	演 題	高度腎機能障害患者指導加算による糖尿病性腎臓病の保存期腎不全への 取り組み
(5)	発表者	池島 進、平井 愛山

項目		内 容
1	年月日	令和3年2月20日(土)
2	学会名	日本慢性疾患重症化予防学会 第7回年次学術集会
3	開催地	Web開催
4		COVID-19感染拡大と糖尿病透析予防 ~腎機能・血糖コントロール・動態 評価を中心~
(5)	発表者	池島 進、平井 愛山

(2)講演·論文発表等

]	項目	内 容
1	年月日	令和2年9月10日(木)
2	講演会名	KOWA Web Conference
3	演 題	地域の総力戦 糖尿病重症化予防~大館市の取り組み~
4	発表者	池島進

	項目		内 容
I	1	年月日	令和2年9月29日(火)
	2	講演会名	With コロナ時代の地域医療を考える オンライン講演会
	3	演 題	大館市立総合病院におけるCOVID-19対策と糖尿病患者治療における注意点
	4	発表者	池島進

J	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年10月15日(木)
2	講演会名	STOP-DKD 連携セミナー 福島県郡山市 Web配信
3	演 題	地域の総力戦 糖尿病重症化予防~大館市の現状と課題~
4	発表者	池島進

J	頁 目	内容
1	年月日	令和2年10月23日(金)
2	講演会名	第3回白石・刈田地区 糖尿病性腎臓病重症化予防懇話会
3	演 題	地域で取り組む糖尿病重症化予防 ~大館市の現状と課題~
4	発表者	池島進

J	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年12月16日(水)
2	講演会名	第9回大館・北秋田糖尿病研究会
3	演 題	大館糖尿病連携パス 7年目の現状報告
4	発表者	池島進

項目		内 容
1	年月日	令和2年12月22日(火)
② 請	靖演会名	糖尿病 Expert Meeting in はちのへ
3	演 題	地域の総力戦 ~大館市の糖尿病重症化予防への取り組み~
4	発表者	池島進

	項目	内 容
1	年月日	令和3年1月28日(木)
2	講演会名	鹿角市リモート講演会
3	演題	地域の総力戦 大館市の糖尿病重症化予防への取り組み ~SGLT-2阻害薬の有用性も含めて~
4	発表者	池島進

J	項 目	内 容
1	年月日	令和3年2月5日(金)
2	講演会名	秋田県薬剤師会 大曲仙北支部 第5回生涯教育
3	演 題	地域の総力戦! 大館市の糖尿病重症化予防への取り組み ~透析予防からフレイル予防、糖尿病薬物療法を踏まえて~
4	発表者	池島進

J	頁 目	内 容
1	年月日	令和3年3月27日(土)
2	講演会名	第13回東北糖尿病看護スキルアップセミナー
3	演 題	歯周病対策とオーラルフレイル対策について
4	発表者	池島進

7. その他

(社会的活動他)

J	項 目	内 容
1	年月日	令和2年10月20日(火)
2	活動内容	令和2年度 糖尿病重症化予防事業市民公開講座 中央公民館
3	実施者	池島進

4. 外科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
52.3	20,487

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数 691	人 外来(再来)患者延数	12,026 人
----------------	--------------	----------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数平	均	6	人/日
---	---	---	---	---	----	---	---	-----

(4)看護師数

看 護 師 人	数 7 人	
---------	-------	--

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	胃癌	6	腸閉塞
2	大腸癌	7	ヘルニア
3	乳癌	8	虫垂炎, 憩室炎, 腸炎等の炎症性疾患
4	肝胆膵悪性腫瘍	9	甲状腺腫瘍(癌, その他)
5	胆石症, 胆囊炎	10	直腸肛門疾患(痔核,痔瘻等)

2. 専門外来

(1)専門外来名・開設日

(2) (1) (1) (1) (1)	
ストーマ外来 (予約制)	毎週水曜日
心臟血管外科 (予約制)	毎週火・金曜日:午後
乳腺エコー (予約制)	毎月第1・3水曜日:午後
緩和ケア外来	毎週月·水曜日

(2)専門医の名称と人数

外科専門医	5 人
消化器外科専門医	4 人
消化器病専門医	1 人
消化器内視鏡専門医	1 人
がん治療認定医	2 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
30.1	14.5	59,072

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

腸閉塞	71	人
乳癌	70	人
大腸癌	69	人
そけいヘルニア	62	人
直腸癌	56	人
胆石症	53	人
胃癌	51	人
虫垂炎	34	人
膵癌	8	人
腹膜炎	8	人
胆囊炎	8	人
肛門直腸疾患	12	人
食道癌	6	人
誤嚥性肺炎	6	人
肝癌	5	人
総数	519	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)手術例(令和2年1月~12月)

項 目	例 数
① 胃癌	42
② 結腸癌	62
③ 直腸癌	26
④ 乳癌	38
⑤ 胆嚢癌・胆管癌	2
⑥ 肝癌(原発・転移)	9
⑦ 膵癌	3
⑧ 胆石症	57
⑨ 甲状腺腫瘍	6
⑩ ヘルニア	74
全身麻酔手術	350
脊椎麻酔手術	63
局所麻酔手術	188

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

コロナ禍で昨年の全身麻酔下手術件数は1割ほど減少しました。しかしながら麻酔科が常勤している当院は北秋田市や鹿角市からの緊急手術要請に対応する状況はこれまでと変わっておりません。消化器疾患だけでなく乳癌の検診・診断・治療には市立秋田総合病院や弘前大学医学部の乳腺専門医の協力で継続していきます。手術患者だけでなく高齢者が肺炎、廃用で入院する機会も増えており治療はもとより、退院後の生活を支持するため訪問看護ステーション、介護や福祉のスタッフとの連携を構築して当地域の医療介護を支える一助になれるよう関わっていきたいと考えております。また緩和ケアチームとして関わった患者さんで在宅療養を希望される方には可能な限り訪問診療を実施して行きます。

(2) 今後の課題

臓器別に診療を分けている病院が多い中、当科は一般外科として外科医全員が全ての癌診療に携わっています。80歳以上のいわゆる超高齢者の手術の割合が増えガイドラインに準じた標準治療が困難な場合もありますが、患者さんの背景を考慮した個別的な集学的治療も重要と考えています。

緩和ケア病棟が無い県北地域では可能な限り患者さんや家族の意向に沿った終末期医療を 行っていけるよう緩和ケアチームと協力して診療を行っていきます。

在宅緩和ケアや訪問診療についても訪問看護ステーションや介護事業所と連携をとりながら構築していきます。

6. 学会発表等

(1)講演·論文発表等

項	目	内 容
1	年月日	令和2年12月1日
3	掲載誌	癌と化学療法
4	演 題	幽門側胃切除後の膵癌に対しICG蛍光法を用いて残胃温存膵体尾部切除 術を行った1例
5	発表者	小笠原健太ほか

5. 呼吸器外科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
15.5	45,411

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数 155	人 外来(再来)患者	延数 3,604 人
----------------	------------	------------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数 平均	J 2	人/日
---	---	---	---	---	------	-----	-----

(4)看護師数

看 護 師 人	数 7	人
---------	-----	---

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	肺癌	6	膿胸・胸膜炎
2	胸部異常陰影	7	外傷性血気胸
3	気胸	8	肺膿瘍
4	転移性肺腫瘍		
5	縦隔腫瘍		

2. 専門医の名称と人数

外科専門医	1 人
呼吸器外科専門医	1 人
がん治療認定医	1 人
肺がんCT検診認定医	1 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価	
(人/目)	(日)	(円)	
9.8	7.3	82,675	

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

肺癌(診断や化学療法・放射線治療)	206	人
肺癌(手術)	40	人
肺癌(緩和ケア)	70	人
転移性肺腫瘍	18	人
縦隔腫瘍	17	人
気胸	16	人
膿胸•胸膜炎	12	人
外傷性血気胸	11	人
肺炎など	21	人
総数	411	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 気管支鏡検査	60

(2)治療例

項目	例 数
① 胸腔ドレナージ	50

(3)手術例

項目	例 数
① 肺癌	35
② 転移性肺腫瘍	13
③ 気胸	8
④ 縦隔腫瘍	2
⑤ 膿胸など	8

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科は肺癌を中心に縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、気胸、膿胸、さらに外傷性血気胸といった呼吸器疾患の治療を行っている。肺癌は、手術だけでなく気管支鏡による診断や化学療法・放射線治療などの内科的な治療も行っており、集学的な治療を実践している。肺癌の化学療法では分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤など新しい薬剤も積極的に取り入れ、遺伝子変異検索などを行い個別化治療を実践している。

肺癌の手術に最も重点を置いており、手術件数の6~7割は肺癌の根治手術である。低侵襲な胸腔鏡手術を積極的に取り入れ、秋田大学胸部外科と連携し専門的医療を実践している。 大館市を中心に北秋田地区や鹿角地区のほか、弘前市からも患者を受け入れている。

(2)今後の課題

日本の肺癌罹患率・死亡率はともに年々増加しており、大舘地区の肺癌患者数も増加している。 高齢化社会のためか高齢で見つかる肺癌患者も増えており、また心疾患や呼吸器疾患など併存疾患を持つ患者も多く、根治手術や化学放射線併用療法といった侵襲の高い治療だけではなく、負担が少ない治療も選択できるように取り組んでいく必要性を感じている。

肺癌は進行期で発見される患者が多く、最も重要な早期発見・早期治療を行えるように検診やドックの肺癌CT検診などの啓蒙活動も推進している。

6. 整形外科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
111.2	6,760

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数 1,078 人	外来(再来))患者延数	25,952 人
----------------------	--------	-------	----------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数	平均	4 人/日
---	---	---	---	---	---	----	-------

(4)看護師数

看 護 師 人 数	5	人
-----------	---	---

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	骨粗鬆性椎体骨折	6	頚椎症性脊髄症
2	橈骨遠位端骨折	7	頚椎後縦靭帯骨化症
3	変形性膝関節症	8	腰椎椎間板ヘルニア
4	腰部脊柱管狭窄症	9	肩腱板損傷
5	変形性股関節症	10	足関節骨折

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

スポーツ外来 (予約制)	第1金曜日
手外科外来(予約制)	毎週金曜日
小児リハビリテーション専門外来	月1回火曜日

2. 専門医の名称と人数

整形外科専門医	3 人
脊椎脊髄外科指導医	2 人
脊椎脊髄病医	2 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
46.9	26.8	44,190

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

大腿骨骨折	99	人
椎体骨折、骨盤骨折	63	人
下腿骨折、足関節骨折	49	人
前腕の骨折	36	人
上腕の骨折	29	人
腰部脊柱管狭窄症、頚椎症性脊髄症	31	人
総数	307	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 選択的神経根造影	30
② 末梢神経伝導速度検査	20
③ 経皮的針生検	15
④ 脊髄誘発電位検査	10

(2)治療例

項目	例 数
① 骨粗鬆症性椎体骨折の保存的治療	40
② 選択的神経根ブロック	30
③ 硬膜外チューブ療法	5

(3)手術例

項目	例 数
① 大腿骨骨折骨接合術	48
② 大腿人工骨頭置換術	19
③ 腰椎後方除圧術	15

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

脊椎の手術では術中モニタリングを併用し、より安全な手術をおこなえる環境で実施している。

人工膝関節の手術ではナビゲーションシステムを使用することにより、正確なアライメントでの 人工関節設置が可能となっている。

高齢化によりニーズが高い、骨粗鬆症性椎体骨折や骨盤骨折に対して、入院によるリハビリテーションや装具療法、薬物療法を積極的におこなっている。

(2)今後の課題

外来の1日平均患者数が111人と多く、病棟業務や手術業務を圧迫する状態が継続している。病状の安定した外来患者さんの逆紹介と病診連携をより進めていく必要がある。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年4月16日~18日
2	学会名	第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会
3	開催地	名古屋市
4		MRI STIR像を用いた傍脊椎軟部組織損傷の新しいGrading法による非骨傷性頚髄損傷の予後予測
(5)	発表者	油川広太郎、横山徹、竹内和成、沼沢拓也、大塚博徳、石橋恭太

(2)講演·論文発表等

項目		内 容
1	年月日	令和2年
2	掲載誌名	Eur J Orthop Surg Traumatol, Vol 27, Number 6, p 1349-1357, 2020.
3	掲載誌	Eur J Orthop Surg Traumatol.
4	演題	Improvement in the results of the simple-foot-tapping test and cross- sectional area of the dural sac in patients with C5 palsy after posterior cervical spine surgery
5	発表者	Takeuchi K., Yokoyama T., Wada K., Kumagai G., Kudo H., Tanaka S., Asari T., Sasaki E., Fujita T., Fukutoku T., Koyama K., Ichinohe M., Ishibashi Y.

	項目	内 容
1	年月日	令和2年
2	掲載誌名	Eur J Orthop Surg Traumatol, Published online 27, 2020
3	掲載誌	Eur J Orthop Surg Traumatol.
4	演 題	Can prophylactic C4/5 foraminotomy prevent C5 palsy after cervical laminoplasty with and without posterior instrumented fusion with maximal expansion?
5	発表者	Yamasaki Y., Takeuchi K., Numasawa T., Wada K., Itabashi T., Kumagai G., Kudo H., Tanaka S., Asari T., Yokoyama T., Ishibashi Y.

7. 脳神経外科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価	
(人/目)	(円)	
24.0	7,206	

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	532 人		外来(再来)患者延数	5,296 人
------------	-------	--	------------	---------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数 平均	J 2	人/日
---	---	---	---	---	------	-----	-----

(4)看護師数

看 護 師 人 数 2	人	
-------------	---	--

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	脳梗塞
2	脳出血
3	くも膜下出血
4	症候性でんかん
5	頭部外傷

2. 専門医の名称と人数

脳神経外科専門医	2 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
20.5	15.0	48,386

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

脳梗塞	159	人
脳出血	93	人
慢性硬膜下血腫	40	人
頭部外傷	30	人
くも膜下出血	25	人
症候性てんかん	11	人
一過性脳虚血発作	9	人
脳腫瘍	2	人
総数	369	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 脳血管撮影	2

(2)手術例

項目	例 数
① 脳動脈瘤クリッピング術	7
② 開頭血腫除去術	3
③ 穿頭血腫除去術	42
④ シャント術	1
⑤ その他	3

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

専門医2人での診療体制で、日々の診療(外来、病棟、救急)や指導(研修医、学生)をこなしております。脳卒中連携に関しましては、大湯リハビリ温泉病院、秋田労災病院と引き続き、円滑な回復期リハへの移行に取り組んでいきます。また、リハビリテーションが困難な患者さんにつきましても、急性期の治療が終了後は、大館市立扇田病院、大館記念病院で今後の管理を頂いております。ただ、近年、入院患者は増加傾向で、ベッドコントロールがままならない状態ではあります。救急診療で、脳卒中は避けて通れない分野ですので、研修医、医学生などへの教育にも取り組んでいきたいと思います。

(2)今後の課題		
脳卒中の一次予防		

8. 小児科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価	
(人/目)	(円)	
40.7	16,333	

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数 2,241 /		外来(再来)患者延数	7,653 人
--------------------	--	------------	---------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数 平均	4 人/日
---	---	---	---	---	------	-------

(4)看護師数

看 護 師 人	数	5 人
---------	---	-----

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	先天性心疾患	6	注意欠陥多動性障害
2	骨形成不全症	7	自閉症スペクトラム障害
3	フェニルアラニン代謝異常症	8	ネフローゼ症候群
4	難治性てんかん	9	甲状腺疾患
5	糖尿病	10	周期性失調症

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

小児心臓外来 (予約制)	月1回月曜日:午後 第1金曜日:午前
小児神経外来	毎週水曜日:午前
慢性疾患·発達外来	毎週水曜日:午後
小児腎臓外来	毎週月曜日:午前

(2)専門医の名称と人数

小児科専門医	3 人
日本プライマリケア学会認定指導医	1 人
こどものこころ相談医	1 人
健康スポーツ医	1 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価
(人/日)	(日)	(円)
3.8	5.8	47,536

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

新生児疾患	106	人
急性咽頭炎(アデノ、伝染性単核球症含む)	20	人
アレルギー(食物負荷試験含む)	15	人
てんかん	13	人
急性胃腸炎(ロタウイルス感染、食中毒など)	11	人
熱性けいれん	8	人
尿路感染症	8	人
気管支肺炎(RS、マイコプラズマ、喘息含む)	7	人
成長ホルモン分泌負荷試験	6	人
急性中耳炎	5	人
精神疾患	5	人
レスパイト	4	人
川崎病	3	人
急性脳炎、脳症	2	人
IgA血管炎	1	人
周期性失調症	1	人
カルニチン欠乏症	1	人
肺動静脈瘻	1	人
その他	3	人
総数	220	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 心臓超音波検査	約100
② 腎臓超音波検査	約100
③ 膀胱造影検査	約20
④ 股関節超音波検査	約300

5. 診療に係る評価及び今後の課題

- (1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)
- ・外来トリアージシステムを導入し、緊急度順に診察しています。
- ・ホームページから24時間ワクチン予約可能。
- ・4か月健診で股関節超音波検査を施行し、股関節脱臼の見逃しがないようダブルチェックしています。
- ・地域周産期母子医療センター認定。
- ・こどものこころ相談医1名。
- ・小児の言語リハビリ可能。
- ・先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の病型診断可能。
- ・ 骨形成不全症の骨折予防治療可能。
- ・桂城小学校、成章小学校、第一中学校、成章中学校、比内中学校の学校医をしています。学校医1名は健康スポーツ医です。
- ・田代保育園、扇田保育園、十二所保育園などの園医をしています。
- ・ひまわり園の健診を通して、連携を強化しています。
- ・死因究明および今後の医療貢献のため、小児の死後画像検査(オートプシーイメージング)を行っています(研修終了医1名)。
- ・看護福祉大学で小児科の講義をしています。
- ・満5歳すてっぷ相談に協力しています。

(2)今後の課題

救急医療体制の改善。

幼稚園等への出向き講座の推進。

病棟保育士の設置。

6. 学会発表等

(1)講演·論文発表等

項	[目	内容
1	年月日	令和2年11月12日
2	演 題	子どもの発達とメディアが及ぼす影響
3	発表者	久保かほり

I	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年12月8日
2	講演会名	子育てサポーター新規養成講習会
3	演 題	小児の成長発達
4	発表者	澤田朋啓

7. その他

(社会的活動他)

]	項 目	内 容
1	年月日	令和2年9月7日
2	活動内容	睡眠について講話(小坂高校)
3	実施者	丹代 諭

9. 産婦人科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
67.3	7,815

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	2,086 人		外来(再来)患者延数	14,263 人
------------	---------	--	------------	----------

(3)担当医師数

担当医師人数	平均 5 人/日
--------	----------

(4)看護師数

看護師人数	7 人
-------	-----

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	子宮体癌	6	良性卵巣腫瘍
2	子宮頸癌	7	子宮脱
3	卵巣癌·腹膜癌·腟外陰癌	8	月経困難症、月経不順
4	子宮筋腫	9	妊娠・分娩・産褥およびその異常
5	子宮腺筋症、子宮内膜症	10	不妊症

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

助産師外来 (予約制)	毎週月~水曜日:午後
母乳外来 (予約制)	

(2)専門医の名称と人数

産婦人科専門医	4 人
母体保護法指定医	2 人
日本がん治療認定医機構 認定医	2 人
日本内分泌学会内分泌代謝専門医	1 人
スポーツドクター	2 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価
(人/目)	(日)	(円)
21.7	5.7	65,020

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

自然分娩	290	人	
妊娠糖尿病	89	人	
卵巣癌	77	人	延べ
子宮体癌	54	人	延べ
子宮筋腫	47	人	
卵巣嚢腫	34	人	
稽留流産	26	人	
子宮頸部CIN3	14	人	
性器脱	14	人	
帝王切開分娩	73	人	
総数	718	人	

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 子宮卵管造影	29

(2)治療例

項目	例 数
① 中心静脈ポート挿入術	9
② 化学療法(症例数)	46

(3) 手術例

項目	例 数
① 婦人科悪性腫瘍手術	22
② 腹腔鏡下子宮全摘術	36
③ 腹式子宮全摘術	17
④ 腹腔鏡下付属器手術	33
⑤ 腹腔鏡下子宮筋腫核出術	10
⑥ 子宮脱手術	15
⑦ 円錐切除術	16
⑧ 帝王切開術	73

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

日常的な婦人科疾患や検診事業から、婦人科悪性疾患まで幅広く診療を行っています。産 科は合併症を有する症例にも対応し、妊娠・分娩管理を行っています。不妊症は人工授精まで の治療に対応しています。

(2)今後の課題

隣接する医療圏での分娩数の減少に伴う、医療資源の枯渇により、緊急時などの対応が増加傾向となっている。また、産科業務の統廃合が今後も続くと考えられ、その中での中核病院としての役割が重要となると考えられる。また、高齢化に伴う疾患構造の変化にも対応を続ける必要がある。

6. 学会発表等

(1)学会発表

項	目	内 容
1	年月日	令和2年11月9日
2	学会名	第43回日本産婦人科手術学会腹腔鏡ハンズオンセミナー
3	開催地	Web開催
4	演 題	ドライボックストレーニングの環境を整えよう
5	発表者	田村良介

Ą	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年12月14日
2	学会名	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会ワークショップ2
3	開催地	Web開催
4		地区を越えて、お互いの頑張りを"見える化"する!~北海道/東北合同若手腹腔鏡縫合セミナー~
(5)	発表者	田村良介

項目		内 容
1	年月日	令和2年12月14日
2	学会名	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
3	開催地	Web開催
4	演題	手動真空吸引法による流産手術にて子宮穿孔をきたしたものの、腹腔鏡下手術にて修復しえた1例
(5)	発表者	當麻絢子、田村良介、水沼槙人

Ą	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年12月14日
2	学会名	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
3	開催地	Web開催
4	演題	変位腎を有する子宮腺筋症症例に対し、腹腔鏡下子宮全摘術を施行し得た 1例
(5)	発表者	柿沼麗於奈、田村良介、金森正紘、平川威夫、水沼槙人、佐藤麻希子

項目		内 容
1	年月日	令和2年12月14日
2	学会名	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
3	開催地	Web開催
4	演題	術前の画像診断では卵巣腫瘍を認めず、腹腔鏡下手術後に初めて性索間 質性腫瘍の診断に至った1例
(5)	発表者	平川威夫、田村良介、金森正紘、水沼槙人、佐藤麻希子

項目		内 容
1	年月日	令和2年12月14日
2	学会名	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
3	開催地	Web開催
4	演題	初期研修医が取り組んだドライボックストレーニング
5	発表者	水沼槙人、竹ノ子健一、田口朋子、柿沼麗於奈、沼尾苑佳、田村良介

項	頁 目	内 容
1	年月日	令和3年2月6日
2	学会名	第42回東北骨代謝•骨粗鬆症研究会
3	開催地	Web開催
4	演 題	青森県内の女子高校生陸上競技選手を対象とした健康調査
(5)	発表者	水沼槙人、藤田有記(弘前大学整形外科)

項目		内 容
1	年月日	令和2年10月22~24日
2	学会名	第58回癌治療学会
3	開催地	Web開催
4		eromucinous carcinoma of the ovaryとSeromucinous borderline tumor of the ovaryのMRIにおける経時的変化の違い
(5)	発表者	水沼槙人、平川威夫、田村良介、佐藤麻希子、篠原敦、松本一仁

(2)講演·論文発表等

	項目	内 容
1	掲載誌名	秋田県産婦人科学会誌 2020, vol.25: 55-60
2	発表者	田村良介、金森正紘、平川威夫、水沼槙人、佐藤麻希子

Į	頁 目	内 容
1	掲載誌名	秋田県産科婦人科学会誌 2020, vol.25:31-36
2	演 題	腹腔鏡下に診断し、治療も行い得た卵巣妊娠の1例
3	発表者	金森正紘、田村良介、平川威夫、水沼槙人、佐藤麻希子

	項目	内 容
1	掲載誌名	青森県臨床産婦人科医会誌 vol.35(2),2020
2	演題	血球減少をきたし診断に至った膠原病合併妊娠の2例
3	発表者	水沼槙人、金森正紘、平川威夫、田村良介、佐藤麻希子

]	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年10月7日
2	講演会名	ノーベルファーマ株式会社 社内研修会 講師
3	演 題	月経困難症
4	発表者	佐藤麻希子

7. その他

(社会的活動他)

	Į	頁 目	内 容
ĺ	1	年月日	通年
I	2	活動内容	秋田看護医療福祉大学 講義
I	3	実施者	佐藤、田村(良)、田村(大)、水沼

項	目	内容
① 年	月日	令和2年7月15~16日、12月2日
② 活動	動内容	性教育講座(4校)
③	施者	佐藤麻希子

10. 泌尿器科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
110.0	24,636

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	416 人		外来(再来)患者延数	26,321 人
------------	-------	--	------------	----------

(3)担当医師数

担当医師人数	平均 3 人/日
--------	----------

(4)看護師数

看 護 師 人 数 4	看	4	人
-------------	---	---	---

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	前立腺肥大症	6	前立腺癌
2	過活動膀胱	7	膀胱癌
3	神経因性膀胱	8	腎細胞癌
4	慢性腎不全	9	精巣腫瘍
5	腎•尿管•膀胱結石	10	尿路感染症

2. 専門医の名称と人数

泌尿器科専門医	3 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)	
18.1	10.3	56,760	

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

大腿骨骨折	99 人
椎体骨折、骨盤骨折	63 人
下腿骨折、足関節骨折	49 人
前腕の骨折	36 人
上腕の骨折	29 人
腰部脊柱管狭窄症、頚椎症性脊髄症	31 人
総数	307 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 前立腺針生検	55

(2)治療例

項目	例 数
① 中心静脈ポート挿入術	31

(3)手術例

項目	例 数
① 経尿道的膀胱腫瘍切除術	58
② 経尿道的前立腺切除術	7
③ 腹腔鏡下腎摘除術	9
④ 前立腺全摘術	2
⑤ 膀胱全摘術	2

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

秋田県北地域の中核病院として、一般泌尿器科疾患及び血液浄化療法に関しては、ほとんどの患者さんに対応できる体制であるが、より高度な医療を希望される方には、弘前大学や秋田大学などに紹介している。

また、弘前大学及び秋田大学の泌尿器専門研修プログラムに参加しており、泌尿器科専門医を目指す研修医も勤務できる体制を整えている。

(2) 今後の課題

当院での体腔鏡下手術は、弘前大学から派遣された認定医師が行っているが、早期に認定医師の常勤化を目指したい。

6. 学会発表等

(1)学会発表

٠.							
	項目		内容				
	1	年月日	令和 2 年 10 月 15 日				
	2	学会名	第27回排尿機能学会				
	3	開催地	東京都				
	4	演 題	同一地域一般住民におけるフレイルと下部尿路症状(LUTS)との関連				
	(5)	発表者	相馬理				

項目		内 容
1	年月日	令和 2 年 10 月 23 日
2	学会名	第58回日本癌治療学会
3	開催地	京都市
4		根治切除不能尿路上皮癌に対する2nd lineとしてのPembrolizumabと化学療法の治療効果
(5)	発表者	成田琢磨、得居範子

	項目		内容
(1)	年月日	令和 2 年 12 月 23 日
(2	学会名	第108回日本泌尿器科学会総会
(3	開催地	神戸市
(4	演 題	転移性ホルモン未治療前立腺癌における非去勢抵抗性期間と予後の関係
(5	発表者	得居範子

(2)講演·論文発表等

項目		内 容
1	年月日	令和 2 年 12 月
2	講演会名 または掲 載誌名	
3	掲載誌	Int J Urol.2020 Dec 27(12):1095-1100
4	演 題	Efficacy and safety of first-line nivolumab plus ipilimumab in patients with metastatic renal cell carcinoma: A multicenter retrospective study
5	発表者	Toshikazu Tanaka,Shingo Hatakeyama, Kazuyuki Numakura, Koichi Kido, Daisuke Noro, Masaki Oikawa, Shogo Hosogoe, Noriko Tokui et al.

11. 耳鼻咽喉科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
29.0	12,671

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	703 人		外来(再来)患者延数	6,353 人
------------	-------	--	------------	---------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数 平均	J 2	人/日
---	---	---	---	---	------	-----	-----

(4)看護師数

看 護 師 人 数	3	人
-----------	---	---

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	睡眠時無呼吸症候群	6	頭頸部悪性腫瘍
2	めまい	7	感音難聴
3	副鼻腔炎	8	急性·慢性中耳炎
4	アレルギー性鼻炎	9	顔面神経麻痺
5	耳下腺·顎下腺腫瘍	10	鼻出血症

2. 専門外来

(1)専門外来名・開設日

(1) 41 1) 1 1/1 1/1 1/1 1/1 1/1 1/1 1/1 1/1 1		
補聴器外来 (予約制)	月・木曜日(指定日あり):午後	
睡眠時無呼吸外来 (予約制)	第2•第4月曜日:午後	

(2)専門医の名称と人数

耳鼻咽喉科専門医	1 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価
(人/日)	(日)	(円)
6.5	7.8	63,083

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

西郊西州馬肯	4.5	Į.
頭頸部悪性腫瘍	45	人
めまい	40	人
睡眠時無呼吸症候群	32	人
慢性副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎	28	人
慢性扁桃炎	12	人
耳下腺•顎下腺疾患	12	人
急性感音難聴	7	人
先天性耳瘻孔	7	人
喉頭蓋嚢胞	6	人
鼻中隔弯曲症	6	人
顔面神経麻痺	6	人
急性喉頭蓋炎	5	人
滲出性中耳炎	5	人
鼻腔良性腫瘍	5	人
中耳炎	5	人
総数	221	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① 喉頭ファイバー	803
② 標準純音聴力検査	623
③ 頭位及び頭位変換眼振検査	252
④ 超音波検査	175
⑤ 嚥下機能評価	93

(2)治療例

項目	例 数
① CPAP治療	492件(56人)
② 外来化学療法	91件
③ 放射線治療	21件(19人)

(3) 手術例

項目	例 数
① 鼻中隔矯正術	22
② 内視鏡下鼻•副鼻腔手術	20
③ 鼓膜チューブ挿入術	17
④ 口蓋扁桃摘出術	13
⑤ 耳下腺腫瘍摘出術	10

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当院は、秋田県北部では数少ない耳鼻咽喉科を専門とする医師が常勤する医療機関です。 耳鼻咽喉科領域の炎症性疾患、先天性疾患、良性疾患、悪性疾患など幅広く行なっております。一般外来診療のみならず、手術治療や悪性腫瘍に対する放射線療法や化学療法なども積極的に行なっております。近隣病院や大学病院とも連携をとりながら、安全かつ最新の医療を提供できる様に努力しております。

(2)今後の課題

前任医師退職により、甲状腺疾患の検査・治療が不十分となり、内分泌代謝神経内科や外科に診察をお願いすることが増えています。

12. 神経精神科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価	
(人/目)	(円)	
65.2	6,741	

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	238 人		外来(再来)患者延数	25,952 人
------------	-------	--	------------	----------

(3)担当医師数

(4)看護師数

看 護 師 人 数	3 人
-----------	-----

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	統合失調症
2	神経症性障害
3	うつ病
4	アルツハイマー型認知症
5	てんかん

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

認知症疾患医療センター新患	毎週火曜

(2)専門医の名称と人数

精神科専門医	2 人
精神保健指定医	2 人
臨床神経精神薬理学専門医	

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
25.1	50.7	20,206

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

統合失調症(妄想性障害含)	43	人
アルツハイマー型認知症	25	人
アルコール依存症	24	人
うつ病	16	人
双極性感情障害	9	人
知的障害	8	人
解離性障害	7	人
適応障害	6	人
レビー小体型認知症	5	人
せん妄	5	人
脳器質性精神障害	4	人
妄想性障害	4	人
てんかん	4	人
その他の認知症	4	人
薬物依存	2	人
自閉症スペクトラム障害	2	人
血管性認知症	2	人
急性一過性精神病性障害	2	人
その他	17	人
総数	189	人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1)検査例

	項	目	例 数
① 心理検査			74

(2)治療例

項目	例 数
① カウンセリング	520

(3) 手術例

項目	例 数
① 電気けいれん療法	10

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科は、県北地区における数少ない精神科入院病床を要する総合病院の精神科(他に能代厚生医療センター精神科)であり、また、大館・鹿角精神科救急医療圏にある精神科救急対応を行っている唯一の精神科でもある。入院病床を持たない市内精神科クリニックや他院精神科と連帯の上、転院・入院など紹介、逆紹介など病診連携・病病連携を行っている。

令和2年度は、3名の精神科医および応援医師で、急性期から慢性期の様々な精神疾患を持つ方々の診療に当たった。地域の精神科救急拠点および総合病院精神科としてのリエゾン・コンサルテーション拠点として機能しつつ、精神科訪問看護及び精神科デイケア、断酒会など精神科リハビリ部門などの充実を図り、地域密着型の精神科医療を目指している。60床の閉鎖病棟を有して、統合失調症、気分障害、依存症、認知症の周辺症状などの急性期治療を行い、入院中は、作業療法士による作業療法やSST、PSWによる精神保健福祉に関する相談も行っている。院内内科各科の協力のもと、難治性統合失調症治療に対するクロザリル治療も施行している。認知症サポートチームや緩和ケアチームでの精神科医としての関わりを期待されており、臨床精神医学の限界を踏まえたうえで、患者と家族のより良いQOLに貢献していけるように研鑽をしていきたい。コロナ禍の中、感染対策の上、院内デイケアを継続したが、幸い、院内感染は発生しなかった。

(2) 今後の課題

令和2年度は、医師三名および応援医師の体制とマンパワー的には若干減少したが、3名全てが指定医 資格を有していた。医師確保は当科に限った問題ではないが、弘前大学や秋田大学の精神科と連帯の 上、安定した精神科医師数を確保していくことが引き続き重要と思われた。当院は在院日数や再入院など の診療報酬上の制限を持つ急性期病棟として運営されているが、本来急性期病棟が対象とした統合失調 症や気分障害の入院割合が減り、地域の高齢化を背景としたBPSDや生活破綻を呈した認知症、依存 症、改善しきれず慢性化する身体合併症を伴う精神疾患患者など入院が長期化の可能性が高い患者層 の入院割合が増加している。従来の薬物治療中心の急性期治療モデルは、これらの認知症や依存症に 当てはめるのは難しく、精神科医及びPSWなどスタッフの多職種連帯の上、医学-心理-社会モデルによる ケースフォーミュレーションや動機づけ面接など効率的な見立て・治療の上、PSWや他施設などと連帯し なければ、在院日数増加、診療報酬算定基準超過を生じて、現在の保険診療体制維持が困難となると思 われた。ただ、地域の高齢化速度を考えると、適切な努力をしても、いずれ、状況を鑑み、柔軟な対応をし ていく必要が出てくる可能性が高いと思われた。現在も、転院などで市内の今井病院、東台病院、北秋田 市の鷹巣病院、弘前愛成会病院や弘前大学医学部付属病院神経精神科などの関係各所の助力を得て いるが、当科として各病院に対してもできることを模索して行き、今後、相互協力関係を推進していく必要 があると思われた。当科は秋田大学及び弘前大学の専門医プログラム双方に所属して、関連書籍や症例 の蓄積など若手医師の研鑽を効率的に行える体制を整え、魅力的な精神科初期研修病院を目指してい る。まずは、秋田大学より最初の1人の若手医師を受け入れ、実績を作り、問題点を把握・修正して、今後 に生かしていく必要があるが、まだ、その機会は来ていない。

6. 学会発表等

(1)講演・論文発表等

J	項 目	内 容	
1	年月日	令和2年7月1日	
2	講演会名 または掲 載誌名	ルネッサンスガーデンプラザ杉の子	
3	掲載誌		
4	演 題	精神神経科で処方する漢方薬について	
(5)	発表者	佐藤 靖	

7. その他

(社会的活動ほか)

	項 目	内 容
1	年月日	令和2年4月~5月
2	活動内容	秋田看護福祉大学 看護福祉学部 看護福祉科 講義 計6回
3	実施者	佐藤 靖

13. 麻酔科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
0.6	

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	2 人		外来(再来)患者延数	140 人
------------	-----	--	------------	-------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数 平均	J 2	人/日
---	---	---	---	---	------	-----	-----

(4)看護師数

看 護 師 人	数	1 人
---------	---	-----

2. 専門医の名称と人数

日本麻酔科学会認定麻酔科専門医	1 人
日本集中治療医学会専門医	1 人

3. 入院

(麻酔科単科としての入院診療統計はなし)

4. 手術例(主なもの)

項目	例 数
① 全身麻酔症例(硬膜外麻酔併用症例含む)	911
② ①のうち硬膜外麻酔併用症例	15
3	
4	
(5)	

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

秋田県北地域においては、麻酔科医が常勤で勤務しているのは、当院のみである。常勤麻酔科医(弘前大学から派遣)は現在2人のみであり、定年後の非常勤医師1人と弘前大学の非常勤医師1人(日替わり)の計4人体制で何とか日々の業務をこなしている。現実的には4人の常勤医が望ましい。

高齢化社会の進行に伴い、ますます高齢者の全身麻酔症例が増加しており、90歳以上もまれではなくなった。高齢者は、種々の合併症があり、麻酔管理も難しい。合併症がある患者は、適切な術前評価を行い、より安全な麻酔管理ができるように努めている。必要時は、適宜、高次医療機関に紹介している。

平成26年11月から電子カルテシステムが導入されて、令和3年11月に更新された。手術室もIT化が進んでいるが、経済的負担があまりにも大きいので、麻酔記録の自動化は断念して、従来の紙の記録をスキャンして対応している。自動記録の費用を考慮したとき、もっとほかの医療機器に投資すべきと考えたからである。平成27年4月から、呼吸器外科の手術が始まり、週1例から3例のペースで徐々に症例を増やしてきている。呼吸器外科の管理には、分離肺換気や硬膜外鎮痛法および持続静注鎮痛法などを行って、より高度な麻酔管理に取り組んでいる。腹腔鏡下の手術も増えてきたので、胸腔鏡下と腹腔鏡下を合わせて3列同時の手術が行えるよう整備した。また、平成31年1月から、歯科口腔外科の手術が増えており、気道に関与する手術なので、慎重に全身管理を行っている。ただ、気管切開が必要になるような症例は、秋田大学にお願いしている。

(2)今後の課題

秋田県北地域では、常勤麻酔科医がいるのは当院だけである。当院の規模からみれば、常勤麻酔科医は4人が望ましい。現在、常勤医2人と、定年後の非常勤医師1人(月~木、午後勤務)、弘前大学からの非常勤医師1人(月~金、午後勤務)の計4人体制ではあるが、現実問題として、定年後の非常勤医師にいつまでも頼るわけにはいかないだろう。将来的には、麻酔科医として緩和医療やペインクリニックへも関わっていかなければならないだろう。

平成19年に病院が増改築されて以来、麻酔器や患者監視装置、手術台の老朽化が進んでいる。安全な患者管理のために、機器の更新が急務となっている。使用開始から15年以上20年未満を目処に更新したいと考えている。

6. 学会発表等

(1)講演·論文発表等

	項 目	内 容
1	年月日	令和2年 10月6日
2	講演会名 または掲 載誌名	ivナース研修会
3	掲載誌	
4	演 題	基礎IV(静脈注射と体液管理)
5	発表者	橋本浩

Į	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年 11月16日~18日
2	講演会名 または掲 載誌名	挿管介助研修
3	掲載誌	
4	演 題	挿管介助実技指導
5	発表者	橋本浩、豊岡憲太郎、村川德昭、手術室看護師

7. その他

(社会的活動ほか)

I	頁 目	内容
1	年月日	令和2年4月~令和3年3月
2	活動内容	大館市立総合病院 気管挿管実習(大館、北秋田、鹿角消防署 救急救命士 16人、のべ135症例)
3	実施者	橋本浩、豊岡憲太郎

14. 放射線科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
13.6	9,790

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数 112 /		外来(再来)患者延数	3,188 人
------------------	--	------------	---------

(3)担当医師数

担 当 医 師 人 数 平均 1 人	担	当日	医師	人	数 平均	1 人/日
--------------------	---	----	----	---	------	-------

(4)看護師数

看	護	師	人	数	5	人	

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	乳癌	6	肝細胞癌
2	前立腺癌		
3	食道癌		
4	肺癌		
5	転移性骨腫瘍		

2. 専門医の名称と人数

日本医学放射線学会 放射線診断専門医	1 人
日本IVR学会専門医	1 人

3. 入院

(放射線科単科としての入院診療統計はなし)

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1)検査例

項目	例 数
① CT検査	13,778
② MRI検査	4,539
③ RI検査	670
④ CTガイド下生検	1

(2)治療例

項目	例 数
① 乳癌	34
② 前立腺癌	26
③ 頭頸部癌	17
④ 肺·気管·縦隔	11

(3) 手術例

項目	例 数
① 腹部•骨盤部動脈塞栓術	36

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

2022年6月稼働開始の 256列CT 導入により、より効率的に CT検査を進めることができる様になる予定である。上記 CT 稼働に先立ち、CT 予約枠を1時間4枠から6枠に増やしたことにより、CT撮像予約の待ち時間を低減させるなど、診療科からのリクエストになるべく応えてきた。

(2) 今後の課題

診療科の要望に応えられる画像の撮像、提供をより利便性の高いものとしたい。とりわけ救急症例の迅速な撮影とサーバーへの迅速な書き込みを徹底し、臨床医が閲覧可能になるまでの時間をなるべく短くするようにしたい。

15. 歯科口腔外科・矯正歯科

1. 外来

(1)診療実績

平均患者数	診療単価
(人/目)	(円)
32.1	6,928

(2)患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数 979	人 外来(再来)患者	延数 6,808 人
----------------	------------	------------

(3)担当医師数

担	当	医	師	人	数	平均	1 人/目	1
---	---	---	---	---	---	----	-------	---

(4)看護師数

看	護	師	人	数	2	人	歯科衛生士人数 3	人
歯	科 技	工	士人	数	0	人		

(5)外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	埋伏智歯	6	骨吸収抑制薬関連顎骨壊死
2	顎骨嚢胞	7	口腔粘膜疾患
3	周術期口腔機能管理	8	顎関節症
4	口唇口蓋裂		
5	口腔癌		

2. 専門外来

(1)専門外来名・開設日

矯正歯科外来	火曜日

(2)専門医の名称と人数

日本有病者歯科医療学会専門医	1 人

3. 入院

(1)診療実績

平均患者数	平均在院日数	診療単価
(人/日)	(日)	(円)
1.6	6.4	67,771

(2)入院疾患名(重要な疾患名を記載)

顎骨嚢胞	31 人
埋伏智歯	18 人
骨吸収抑制顎骨壊死	8 人
口腔癌	5 人
唾液腺疾患	3 人
口蓋裂	1 人
その他	14 人
総数	80 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 手術例

項目	例 数
① 埋伏歯抜歯	725
② 嚢胞摘出	138

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

衛生士が実質1名増員となったことにより、衛生士主導で周術期口腔機能管理をスムーズに 行えるようになった。

コロナ禍により、良性疾患を主とする当科の入院手術症例についてはなかなか増加につながらなかったものの、麻酔科の協力も得られ、高侵襲、高難度の手術なども行うなど口腔外科としての幅も広がってきている。

(2)今後の課題

上記の様に周術期口腔機能管理の件数は増加したものの、周術期口腔機能管理対象疾患以外については本来対応が必要であるが、対象となる患者数を考慮すると当科のみでの対応には限界があり、患者サポートセンターなどの他部門や、歯科医師会等への協力体制の強化が必要と思われる。

6. 学会発表等

(1)講演・論文発表等

]	項 目	内容
1	年月日	令和2年 12月 4日
2	講演会名	社内研修会
3	演題	口腔について
4	発表者	大渕 真彦

7. その他

(社会的活動他)

J	項 目	内 容
1	年月日	令和2年11月~12月
2	活動内容	秋田看護福祉大 講義
3	実施者	大渕 真彦

Ⅱ. 部門別の臨床統計・研究実績

1. 看護部

1. 臨床統計

令和2年度 専門資格取得者	
認定看護管理者	1名
医療クオリティーマネジャー 更新	1名
がん化学療法看護認定看護師 更新	1名
認知症看護認定看護師 更新	1名
臨床輸血看護師	1名

令和2年度 主な院外研修修了者	
認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	3名
ECMO講習会	2名
感染対策担当者セミナー	1名
医療安全管理者認定実務講座	1名

令和2年度 院内研修修了	者
クリニカルラダーレベル I	14名
クリニカルラダーレベル Ⅱ	13名
クリニカルラダーレベルⅢ	13名
クリニカルラダーレベルIV	13名
がん看護研修 I	48名
がん看護研修Ⅱ	12名
がん看護研修Ⅲ	3名
ivナース研修(基礎)	21名
ivナース研修応用(化学療法)	33名
ivナース研修応用(輸血)	35名
ivナース研修応用(CVポート)	37名
ivナース研修応用(造影剤)	41名

令和2年度 指導管理料算定例	井数
がん患者指導管理料1	245件
がん患者指導管理料2	23件
糖尿病合併症管理料	27件
排尿自立指導料	247件
認知症ケア加算1 (14日以内 身体拘束なし)	670件
認知症ケア加算1 (14日以内 身体拘束あり)	584件

令和2年度 看護学実習生 延	Eベ人数
秋田看護福祉大学	1,775名
弘前学院大学	2名
弘前医療福祉大学	17名
弘前大学	25名
東北福祉看護学校	2名

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

令和2年度は感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ体制を整えることに重点を置いた。看護職員全員を対象としたスタンダードプリコーションの周知徹底や看護部全体説明会を5回開催。職員の感染予防と不安軽減を図った。また、感染症対応病棟での勤務が可能かアンケート調査を実施し、個々の職員の状況を考慮した配置を行った。新型コロナウイルス感染症を発症した妊産婦、透析患者、精神疾患を有する患者が入院することも想定し、部署単位でのゾーニングの確認や対応マニュアルを作成した。合計8名の入院患者を受け入れ、院内感染を発症することなく対応できた。

一般診療に係る評価としては、外来からの患者支援体制の強化として患者サポートセンターに看護師を増員した。病棟職員との情報共有や患者、家族への丁寧な説明の場を設けることで、退院困難患者への早期介入に繋がっている。人材育成においては、看護管理者教育としてマネジメント研修を開始し、延べ187名が参加。マネジメントに関する意識の向上の場となった。また、医師の業務負担軽減や患者へのタイムリーな医療・看護の介入を図るため、2名の職員が秋田大学大学院診療看護師コースに入学し、診療看護師(NP)の資格取得を目指している。

(2)今後の課題

新型コロナウイルスを含む感染症に対する感予防対策の継続と、職員のメンタルヘルス対策、 感染管理認定看護師の業務負担軽減、一般診療を提供しつつ感染症に関わる人材をどう確保 するかが今後の課題となる。また、外来での地域住民に対する感染予防対策への支援、感染を 疑う患者や濃厚接触者への対応、検査体制、ワクチン接種など、病院組織を超えた医療職として の介入支援が求められている。研修においても、外部研修に参加できない状況が続き、Web開 催に変更するケースが増えた。院内研修の在り方も検討し、感染対策を行いながら知識技術の 向上に向けた学習環境を維持していく必要がある。

また、看護職員の定年前の退職者が7名。管理職の早期退職が増えてきたことが懸念され、主任以上の役職者に対し、マネジメント研修を通して、自己肯定感を高める工夫や日常の悩みを表出できる環境の構築など、サポート体制の強化が必要である。今後、当院の地域における役割が増す中、NPの導入など看護師が医行為の一部を担うことを想定した環境整備、人材の確保と育成が最重要課題と言える。

3. 学会発表等

(1)学会発表

ij	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年11月10日
2	学会名	秋田県看護学会
3	開催地	Web開催
4	演 題	「血液透析療法における人口血管穿刺ミス減少への取り組み ~ 穿刺マップの活用~」
(5)	発表者	清田真由美

項	頁 目	内 容	
1	年月日	令和2年11月5日~6日	
2	学会名	日本看護学会	
3	開催地	Web開催	
4	演題	「実習指導のチーム化の有効性と課題 ~A病棟における実習指導チームの立ち上げ前後での比較検討~」	
(5)	発表者	阿部芳孝	

(2)講演·論文発表等

J	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年10月13日
2	講演会名	第4回秋田県薬剤師会大館北秋田支部生涯教育講演会
3	演 題	「当院における自己注射指導について」
4	発表者	大森純子

J	頁 目	内容
1	年月日	令和2年11月24日
2	講演会名	大館市糖尿病サポーター養成講座基礎コース
3	演 題	「糖尿病の生活指導について」
4	発表者	畠山晴美

4. その他

(社会的活動他)

項目		内 容
1	年月日	①令和2年10月14日 ②令和2年9月10日
2		①秋田県看護協会介護福祉施設研修講師派遣事業 講師 西大館病院職員対象「拘縮予防のためのポジショニング」 ②社会福祉法人花輪ふくし会 褥瘡対策研修会 講師 地域生活支援拠点おおだて職員対象「褥瘡予防のための正しいおむ つの使い方」
3	実施者	安保明子

)	項 目	内 容
1	年月日	令和2年9月7日
2		秋田県看護協会事業「看護の出前授業」 講話・体験学習講師 大館市立東中学校2学年対象「命の大切さ、こころとからだの話、看護職の仕 事、看護職への道、簡単な看護技術の体験」
3	実施者	小井土雅子 遠藤文香 角田栞 貝森祐美子

	項目	内 容
(1	年月日	令和2年11月15日
2	活動内容	日本救急医学会公認ICLSコース 講師
(3	実施者	松宮さやか

	項目	内 容
1	年月日	①令和2年12月8日 ②令和2年12月15日
2	活動内容	秋田看護福祉大学「がん看護学 化学療法時の看護」 ゲストスピーカー
3	実施者	①浪岡恭子 ②木次谷七恵

	項目	内 容
(1	年月日	令和2年11月2日
2)活動内容	秋田看護福祉大学「精神看護方法論Ⅱ 認知症患者の看護」 ゲストスピーカー
(3	実施者	鈴木和

項目		内容
1	年月日	①令和2年12月17日 ②令和2年12月24日
2	活動内容	秋田看護福祉大学 ゲストスピーカー ①「病院・医療組織」 ②「医療と福祉のマネジメント 退院時における地域連携の取り組み」
3	実施者	①石田和子 ②斎藤厚子

項目		内 容
1	年月日	令和2年11月4日
2	活動内容	秋田県看護協会一般研修 非常勤講師 「非がん患者の意思決定支援~その人らしく生きるを支えるために~」講義
3	実施者	高杉純子

項目		頁 目	内 容
	1	年月日	令和2年5月8日~6月9日
	2	活動内容	秋田看護福祉大学 「看護マネジメント論」 非常勤講師
	3	実施者	石田和子

2. 臨床検査科

1. 臨床統計

区分	R2年度	R元年度	比較増減	1日平均	増減の理由
微生物	19,239	23,117	▲ 3,878	79.2	
一般	43,069	42,485	584	177.2	尿沈渣、便中ヒトヘモグロビン、胸水一般、蛋白定量増加。
血液	131,622	134,671	▲ 3,049	541.7	昨年度よりの件数が減少したが、金額は増額した。
生化学	905,775	869,846	35,929	3,727.5	全体的に件数増加。
生理	24,674	25,227	▲ 553	101.5	
免疫	149,462	137,586	11,876	615.1	件数増加。新型コロナ抗原検査、PCT増収。
病理	16,307	16,258	49	67.1	免疫抗体4種の算定条件となる疾患が増えたため。
輸血	9,978	9,605	373	41.1	血液ガスの件数が増加。
聴力	1,051	1,374	▲ 323	4.3	
採血	66,644	66,107	537	274.3	
計	1,367,821	1,326,276	41,545	5,628.9	

|--|

保険点数に含まれない業務 (臨床検査科検査件数調に含まれない業務)

レジオネラ環境検査	10	透析導入予測患者のリストアップ(内代神より依頼)	0
栄養科・タクト給食従事者検便	607	糖尿病療養指導	57
食品(惣菜)自主的衛生検査(総合·扇田)	2	不規則抗体同定検査	63
透析水質検査	241	検査説明(輸血部門)	0
褥瘡対策委員会用資料作成	12	剖検(標本作製含む)	3
MRSA月報作成	12	臓器写真撮影	630
JANISサーベイランスデータ送信	5,187	手術標本切り出し立会い	98
DOTS用資料作成	12	入院時の病理組織免疫染色(DPCに含まれた分)	395
ASTカンファランス	53	病理組織特殊染色	651
薬剤科用分離菌頻度資料作成	53	細胞診ゲフリール(体腔液以外のスタンプ標本など)	0
月別耐性菌リスト作成	12	細胞診の免疫染色	15
抗生物質委員会用資料作成	1	細胞診のセルブロック	44
MRSA·緑膿菌週報作成	53	学会発表用のマクロ・ミクロ撮影	
アプト試験	4	術後患者に配布する臓器写真印刷(産婦人科)	154
胸水穿刺液検査(採取料に含まれる)	36	外注(SRL)提出標本作製	103
腹水穿刺液検査(採取料に含まれる)	8	外注(LSI) READ提出検体処理	19
関節液検査(採取料に含まれる)	120	再採血依頼	61
薬物検査(トライエージ)	11	パニック値報告	1,747
PSG検査(電極装着)	32		

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

臨床検査室以外の職員向けの、臨床検査科マニュアル「ようこそ臨床検査科へ」第8版を発行した。各部門の内容修正や追加を行った。病理解剖時の手順を統一した。

臨床検査科情報誌「ラボ・インフォ」20号・21号を発刊した。「血小板しんとう機が新しくなり、温度管理が可能となった。」「またプロカルシトニンが院内検査項目となった。」「PCR検査と抗原検査の違い。」などについて紹介した。

新型コロナウイルス検査は外注検査で対応していたが、結果が出るまで2~3日掛かっていた。 新たに機器や試薬を購入し、新型コロナウイルスPCR検査(判定まで60分)、抗原定量検査(判定まで40分)の院内検査を開始する。休日のトリアージ外来で出た検査にも、当番で対応している。 医師からの要望により、プロカルシトニン、カルプロテクチンの院内検査を始める。

病理検査では外注検査の遺伝子検査が増えてきているため、ゲノム診療用病理組織検体取扱い規定に則り、摘出臓器の固定前プロセスや固定時間・脱灰液等にも留意し標本作成を行っている。

毎朝ミーティングを行い情報伝達や、各部署の担当を決めている。休暇者や宿直明けには、複数部署を担当出来る技師を増やす事により対応している。

(2)今後の課題

生化学検査のアルカリホスファターゼ(ALP)及び乳酸脱水素酵素(LD)の測定法が、一般社団法人日本臨床化学会が定めた測定法(JSCC法)から国際臨床化学連合の測定法(JFCC法)へ変更になる。2021年4月1日より、秋田県内の病院と連携し変更する。

外注の長時間滞在型集荷スタッフ常駐体制終了により、当科技師が引き継いでいる。しかし外来のある午前中に問い合わせが集中するため、通常業務も行う技師の対応では時間がかかっている。

超音波検査の件数は年々増加している。超音波検査業務の出来る技師の育成を行い、医師の 業務軽減につなげて行きたい。

他部門との連携や、各委員会参加により臨床検査科が貢献出来る様にしたい。

3. 学会発表等

(1)講演·論文発表等

J	頁 目	内 容
1	年月日	令和3年2月22日から1ヶ月間
2	講演会名	第23回秋田県合同輸血療法委員会
4	演 題	秋田県下における小規模医療機関での輸血実態について
5	発表者	小塚源儀

	項目	内 容
1	年月日	令和3年3月13日から1ヶ月間
2	講演会名	小規模医療機関向けオンデマンド講演会
4	演題	秋田県下における小規模医療機関での輸血実態について
(5)	発表者	小塚源儀

4. その他

	項目	内 容
1	年月日	令和2年4月10、14、16、22日
2	活動内容	看護師向け心電図講習会(外来)
3	実施者	遠藤令子、魚住美保子、花田綾子、山本聡子、白鳥裕樹、前田さゆり

3. 神経精神科リハビリテーション室

1. 臨床統計

(1) スタッフ

・心理療法 : 公認心理師(臨床心理士)2名(1名は市役所教育委員会へ派遣)

・相談支援: 精神保健福祉士4名(1名は認知症疾患医療センター専従)

・精神科デイケア : 作業療法士1名・臨床心理士1名・看護師3名

• 病棟作業療法 : 作業療法士1名

(*作業療法士はリハビリテーション科所属)

(2)活動実績

【心理療法】

心理検査(のべ数)	74件
カウンセリング(のべ数)	520件

【相談支援】

《入退院患者数》

・入院患者数 197名

[入院形態内訳:任意入院78名(40%)、医療保護入院117名(59%)、措置入院2名(1%)]

・退院患者数 189名

[退院先内訳:自宅107名(57%)、施設26名(14%)、転科·転院50名(26%)、死亡6名(3%)]

《精神科訪問看護》

訪問看護登録者数(令和3年3月31日現在)	37名
精神科訪問看護実働(のべ数)	449件
精神科退院前訪問	4件

【精神科デイケア】

デイケア登録者数(令和3年3月31日現在)	60名
他院からのデイケア利用登録者	5名
デイケア平均利用者数(1日あたり)	13.2名
ショートケア平均利用者数(1日あたり)	1.4名

【病棟作業療法】

精神科作業療法算定数	3,394 件
退院時リハ指導算定数	55 件

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

【心理療法】

令和2年度は、実施した心理検査の1/3が小児科からの依頼によるものであった。心理検査実施数は前年(94件)と比べて減少しているが、カウンセリング実施数は増加した(前年378件)。小児に関しては当院以外にも心理的ケアを提供している機関はあるものの、成人を対象としている機関はわずかしかなく、常勤心理師が配属されているのは当院のみである。

【相談支援】

退院支援には入院後早期から介入し、患者や家族のニーズに合わせてスムーズな退院支援に 努めている。措置入院患者については退院後支援計画を策定し、退院支援に関わる診療報酬を 算定できるよう体制を整えた。精神科訪問看護は、月平均37.4件実施されている。

【精神科デイケア】

当院のデイケアは、30代~70代と幅広い年齢層の方に利用されている。令和2年度の新規利用者は9名で、そのうち7名が半年以上の継続した利用につながっている。プログラムは月ごとに決めているが、メンバーの調子や状況に合わせて適宜変更して実施している。

【病棟作業療法】

病棟での精神作業療法の実施と共に、デイケアへの支援体制の維持を図っている。廃用予防や早期離床が必要な患者に対しては歩行訓練等の身体アプローチを進めており、多職種と連携して精神科退院時共同指導料の算定、退院前カンファレンスへの参加等、退院支援に繋がる活動も行っている。

(2) 今後の課題

【心理療法】

心理療法の依頼は近年増加傾向にあり、スケジュール管理に難渋することがある。患者の状態やニーズに合わせて利用できる社会資源を紹介するなど、社会復帰に向けた支援を取り入れることによって年に3名ほど就労支援や就労に繋がっている。外部資源の利用が安定すると通院間隔も開いてくる傾向があり、新規利用者の受け皿が広がる一助となっている。今後も継続して支援していく。

【相談支援】

退院支援に関しては、患者本人、家族、関係者(生活保護、障害福祉課、高齢者福祉、相談支援センター、ケアマネ等)との連携を密にして円滑な退院支援を行い、90日以内の退院を目指す。入院時や退院時には本人・家族から同意を得たうえで関係者と情報を共有し、必要に応じて関係者を含めた面談を行っていく。

【精神科デイケア】

デイケアでは近年利用者が減少傾向にあることが懸案事項となっている。周辺の就労支援施設が充実してきたことでデイケアからステップアップして就労支援に移行するメンバーもおり、新規利用者の獲得と定着が課題として挙げられる。引き続き新規利用者の定着を目指すとともに、現在の利用者の参加継続を図っていく。

【病棟作業療法】

医師や看護師と連携し、必要な患者に廃用予防や早期離床のため基本動作訓練、飛行訓練等の身体アプローチを積極的に行っていく。また、入院患者に声掛けを行うことで、病棟作業療法への参加率60%を目指す。さらに、週1~2回のデイケア支援を継続して行い、情報共有や引継ぎを密に図る。

3. 学会発表等

(1)講演·論文発表等

	項目	内 容
1	年月日	令和2年5月8日
2	講演会名	神経精神科病棟 OJT
3	演 題	「精神保健福祉法について」
4	発表者	精神保健福祉士: 髙橋愛実

J	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年5月11日
2	講演会名	看護部 院内教育研修会(レベル I)
3	演 題	「メンタルヘルス」
4	発表者	公認心理師・臨床心理士:武内佳苗

I	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年8月27日
2	講演会名	看護部 院内教育研修会(レベルⅢ)
3	演 題	「メンタルヘルス〜ストレスとの上手な付き合い方〜」
4	発表者	公認心理師・臨床心理士:武内佳苗

4. その他

(社会的活動他)

- •大館市自立•差別解消支援協議会
- •秋田県精神保健福祉協会大館鹿角支部
- •秋田県精神障害者地域移行•地域定着支援事業
- ·秋田県精神科救急医療体制整備事業
- •自殺未遂者支援対策事業
- ・秋田県ひきこもり相談支援連絡協議会
- ・秋田県発達障害者支援センター連絡協議会県北支部会
- ·秋田県医療観察制度運営連絡協議会

4. 薬剤科

1. 臨床統計

(1)調剤室

表1. 処方せんの枚数等

	一般処方		麻薬処方*
	枚数	剤数	枚数
入院	38,323	58,782	1,699
外来	9,666	21,052	32
計	47,989	79,834	1,731

表2. その他の処方箋枚数

種類	枚数
一包化処方(注1)	4,558
再調剤指示処方(注2)	755

(注1)一般処方せんに含まれる

(注2)一般処方せんに含まれない

*院外処方せん

(2)薬品管理室

表3. 業務日数

稼働日数	245
特別出勤日数	0

表4. 注射関連業務件数ほか

種類	枚数ほか
定期注射せん枚数①	39,085
化学療法予定枚数②	4,224
無菌製剤処理枚数(注)	5,191
無菌製剤処理件数(注)	8,390
麻薬無菌調製枚数	7
特定生物由来製剤使用伝票枚数	642
注射麻薬施用せん枚数	4,930
注射麻薬施用せん剤数	6,800
ASSET TO THE POST OF THE POST	

表5. 薬剤請求伝票数

	枚数ほか
請求伝票枚数	26,307
請求伝票品目数	108,583

注射箋セット枚数合計 (表4①+②)	43,309
--------------------	--------

(注)無菌製剤処理には抗がん剤、高カロリー輸液調製が含まれる

表6. 化学療法無菌調整枚数

診療科名	投与場所	セット枚数	実施枚数	実施率(%)
入院	病棟	1,204	1,157	96.1
八阮	化学療法室	26	26	100.0
外来	泌尿器科	57	56	98.2
70米	化学療法室	4,167	3,833	92.0
計		5,454	5,072	93.0

^{*}麻薬処方は処方せん原本枚数。(一般処方の麻薬処方は「控」の枚数)

表7. 無菌製剤処理料請求件数(入院+外来)

種類	件数
無菌製剤処理料1イ(1)(揮発性の高い薬剤:シクロホスファミド等)	74
無菌製剤処理料1口(イ以外の場合:その他の抗がん剤)	3,815
無菌製剤処理料2(高カロリー、麻薬)	81
∄ +	3,970

表8. 指定抗菌薬使用届出枚数(注射)

抗MF	RSA薬	βーラクタム系薬		ニューキノロン系薬			
品名	枚数	品名	枚数	品名	枚数		
VCM	46	PAPM/BP	0	CPFX	5		
ABK	0	MEPM	225	LVFX	14		
TEIC	7	TAZ/CTLZ	3				
LZD	3						
DAP	7					合計	
計	63	計	228	計	19		310

(3)その他

表9. 製剤調整数

剤形	種類数	調整件数
内用剤	1	2
注射剤	0	0
外用剤(点眼剤)	2	6
外用剤(軟膏剤)	2	26
外用剤(坐剤)	0	0
外用剤(その他)	20	255
計	25	289

表10. 薬剤管理指導料等算定件数

内訳	件数
①薬剤管理指導料1(380点)	4,089
②薬剤管理指導料2(325点)	6,470
(①+②)のべ薬剤管理指導料	10,559
③麻薬管理指導加算	392
④退院時薬剤情報管理指導料	1,706
⑤退院時薬剤情報連携加算	53

表13. 医薬品採用、中止等の品目数

	区分	品目数
1)	新規購入	51
2	試用購入	40
3	院外採用	68
4	採用区分変更(院外→共通)	17
(5)	採用区分変更(共通→院外)	37
6	購入中止	36
1+2+4	実質採用合計	108
5+6	実質中止合計	73
7	医薬品総数	1,848

表11. 持参薬鑑別依頼件数

件数	3,727

表12. お薬相談室利用件数

(服薬指導件数)

内訳	件数
自己注射·吸入指導等	185

表14. 後発医薬品数量割合(%)

入院	84.9
外来	86.9
全体	85.3

(注)1ヶ月のデータ(3月)

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)一般調剤業務(処方せん枚数など)

令和2年度の院内処方せん枚数は入院38,323枚(前年度比4.4%減少)、外来9,666枚(5.9%減少)、院内一包化処方は4,558枚(2.4%減少)、再調剤依頼書は755枚(12%増加)だった。院外処方せんが発行枚数は131,834枚(5.9%減少)で院外処方率は98.6%(変化なし)だった。

(2)注射業務

注射せん枚数は39,085枚(5.3%増加)、化学療法予定枚数は4,224枚(22%減少)、特定生物由来製剤使用伝票枚数は642枚(17%増加)、注射麻薬施用せん枚数は4,930枚(7.6%減少)、無菌製剤処理件数は8,390件(6.5%増加)だった。

(3)病棟業務

薬剤管理指導件数は10,559件(2.6%増加)、持参薬鑑別依頼件数は3,727件(11%増加)だった。令和2年度より新たに退院時薬剤情報連携加算の算定を開始し、53件を算定した。全病棟に担当薬剤師を配置、一部病棟で回診・カンファレンスに参加し医師・看護師らと情報共有を図っている。

(4) その他

後発医薬品数量割合(令和3年3月)は85.3%で前年同月比1.8ポイント減少した。 来年度は院外薬局との連携を重視し、退院時指導や化学療法患者への指導をさらに充実させていく。新たに外来がん化学療法患者に対する連携充実加算の算定を開始する予定である。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年9月11日~12日
2	学会名	第22回日本褥瘡学会学術集会(Web開催)
3	演題	薬剤誘発性褥瘡をきたした一症例
4	発表者	斉藤 勝裕

1	年月日	令和2年10月23日
2	学会名	第67回日本化学療法学会東日本支部総会(Web開催)
3	演 題	地域における抗菌薬適正使用への取り組み
4	発表者	中居 肇

1	年月日	令和2年10月24日
2	学会名	第30回日本医療薬学会年会(Web開催)
3	演 題	疑義照会事前合意プロトコル導入の効果
4	発表者	鈴木 剛

1	年月日	令和2年10月24日
2	学会名	第30回日本医療薬学会年会(Web開催)
3	演 題	NSAIDsが創傷治癒に及ぼす影響
4	発表者	長﨑 裕

1	年月日	令和2年10月24日
2	学会名	第30回日本医療薬学会年会(Web開催)
3	演 題	MeropenemにおけるTime above MIC算出効果の検討
4	発表者	畑中 祐磨

(2)講演·論文発表等

`.	— / HIJ	D	2.1
	J	頁 目	内 容
	1	年月日	令和2年6月27日
	2	講演会名	秋田県感染対策協議会(Web開催)
	3	演 題	抗菌薬不足への対応と薬剤師の役割
	4	発表者	田村 麻衣

1	年月日	令和2年9月8日
2	講演会名	秋田感染症研究会(Web開催)
3	演 題	CDIプロトコルに期待すること~院内伝播を未然に防ぐために~
4	発表者	中居 肇

1	年月日	令和2年9月29日
2	講演会名	地域医療を考えるセミナー(Web開催)
3	演 題	COVID-19治療薬と感染対策
4	発表者	中居 肇

1	年月日	令和3年2月17日
2	講演会名	秋田県北大腸癌治療講演会(web開催)
3	演 題	当院におけるTAS102の処方状況について
4	発表者	小笠原 健

ほか

4. その他

地域薬剤師向け講演会	精神疾患患者における睡眠障害への酸棗仁湯の有用性(斉藤 勝裕)
	不眠症治療薬の転倒・転落への影響(長崎 裕)
	慢性期糖尿病患者へのアドヒアランス向上を目指した服薬指導(丸山 達哉)
	外来がん化学療法連携強化にむけて(虻川 詩希子)

薬物乱用、 飲酒喫煙防止 教室など	東中学校(畠山 陽子) / 扇田小学校(小笠原 健)
	矢立小学校(三浦 聡子) / 川口小学校(斉藤 勝裕)
	山瀬小学校(鈴木 剛) / 成章中学校(長﨑 裕)

5. 栄養科

1. 臨床統計

(1)令和2年度 栄養食事指導件数

単位:件

月	外	外来 件数		入院		件数	入外	集団(入院)	合計
月	加算	非加算	什剱	加算	非加算	什奴	合計	加算	非加算	日日
4	82	32	114	49	3	52	166	3	1	4
5	62	25	87	48	4	52	139	2	0	2
6	87	12	99	57	4	61	160	5	4	9
7	77	22	99	45	7	52	151	5	2	7
8	66	24	90	44	2	46	136	6	4	10
9	63	27	90	59	3	62	152	8	4	12
10	90	23	113	57	5	62	175	7	4	11
11	66	27	93	52	2	54	147	10	5	15
12	76	27	103	58	7	65	168	7	5	12
1	77	29	106	55	7	62	168	4	2	6
2	81	17	98	48	6	54	152	5	2	7
3	94	27	121	77	1	78	199	8	6	14
計	921	292	1,213	649	51	700	1,913	70	39	109

2. 診療に係る評価および今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

【特徴】

栄養部門の業務は栄養管理と給食管理に分けられます。栄養管理業務は患者さん一人ひとりに対し栄養アセスメント、プラン作成、実施、再評価を行うこと。また食事を通して疾病治療や生活の質向上につながる栄養指導の実施です。給食管理業務は安心、安全、そして治療に貢献できる食事提供に関する業務です。

【アピール】

- ①化学療法・放射線療法による食欲不振の患者様に対して食事相談を行い、個々の状態に 応じた食事提供に努めています。個別対応食としてなごみ食の提供を行っています。
- ②食事は患者さんや病棟の要望・意見を出来るだけ取り入れた内容を心がけています。また、食事検討会・試食会を実施し、味・食形態・色彩・盛付け等について意見を出し合い、安心・安全で尚且つおいしい食事の提供につなげています。さらに、行事食(年間約25回)、出産お祝膳、デイケア食にも力を入れています。
- ③栄養指導は慢性疾患に関しての栄養指導が中心でしたが、近年は術後や急性期疾患の 栄養指導も増加してきています。その他、糖尿病集団指導や糖尿病透析予防指導も行って います。
- ④転倒転落防止チーム・NST委員会・褥瘡対策委員会・緩和ケア委員会・クリニカルパス委員会・リスクマネジメント委員会・感染委員会等に参画しています。
- ⑤チーム医療に貢献するため、NSTや病棟退院前カンファレンス等に参加。院外においても学会や院外研修会に参加し、資格の取得・更新などの各々のスキルアップにも力を入れております。

(2) 今後の課題

- ・患者さんに寄り添い、安心・安全で満足して頂ける食事の提供を目指す。
- ・低栄養の患者様を早期発見、早期介入できるよう他職種の方々と連携をとる。
- ・外来、入院、さらに地域連携パスにおいて切れ目のない栄養指導の実施・継続。
- ・がん患者さんへ症状に応じた適切な栄養指導の実施・継続。・チーム医療において貢献できるよう、各々のスキルアップ。

3. 講演·論文発表等

Ţ	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年 9月7日
2	講演会名	秋田県看護福祉大学 早期体験学習
3	演 題	チーム医療における管理栄養士のかかわり
4	発表者	関本 葉子

Į	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年 9月18日
2	講演会名	令和2年度栄養改善保健所研修会(県北地区)
3	演 題	病院における栄養指導の実際について-減塩指導及び保健室に活かすために-
4	発表者	成田 瑛里香

	項目	内 容
1	年月日	令和2年 10月19日
2	講演会名	衛生委員会 生活習慣病研修会
3	演 題	毎日元気に過ごすための食習慣
4	発表者	福山 恵里奈

Į	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年 10月20日
2	講演会名	令和2年度糖尿病重症化予防事業市民公開講座
3	演 題	糖尿病の予防を通じて健康寿命を延ばそう -食事からのサポート-
4	発表者	成田 瑛里香

J	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年 11月24日
2	講演会名	大館市糖尿病サポーター養成講座
3	演題	糖尿病の食事指導
4	発表者	関本 葉子

Į	頁 目	内容
1	年月日	令和2年 12月2日
2	講演会名	第6回秋田県薬剤師会 大館北秋田支部生涯教育講演会
3	演 題	当院の糖尿病食事療法について
4	発表者	関本 葉子

Į	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年 12月10日
2	講演会名	RST研修会 ミニ勉強会
3	演 題	誤嚥性肺炎Ⅱ -嚥下食と栄養補助食品の選び方-
4	発表者	齋藤 知香

	項目	内 容
(]	年月日	令和3年 2月3日
2	講演会名	医療安全研修会
3	演題	栄養科の取り組み
4	※ 発表者	福山 恵里奈

6. 放射線科

1. 臨床統計

(1)令和2年度業務実績

(単位:人)

	日数	一般 撮影	造影	断層	血管	マンモ	骨塩	СТ	MRI	RI	治療	透視	合計
4月	21	2,552	1	5	18	62	73	1,062	378	55	323	168	4,697
5月	18	2,409	2	6	19	58	56	1,054	323	36	299	191	4,453
6月	22	3,538	3	12	38	112	83	1,200	410	44	296	249	5,985
7月	21	2,875	4	8	24	192	80	1,121	396	42	255	254	5,251
8月	20	2,559	3	8	30	190	69	993	322	51	192	201	4,618
9月	20	2,776	2	15	26	188	52	1,166	361	54	376	206	5,222
10月	22	2,992	3	7	16	177	50	1,211	414	49	304	250	5,473
11月	19	2,680	8	9	9	171	49	1,098	363	48	110	226	4,771
12月	20	2,831	4	17	0	179	61	1,274	400	51	165	269	5,251
1月	19	2,749	2	14	11	151	48	1,191	352	54	185	230	4,987
2月	18	2,662	0	14	14	147	55	1,092	378	114	158	203	4,837
3月	23	3,161	6	13	21	112	75	1,316	442	72	234	240	5,692
合計	243	33,784	38	128	226	1,739	751	13,778	4,539	670	2,897	2,687	61,237
前年度	240	35,253	58	120	234	1,586	818	13,731	4,478	631	3,025	2,583	62,517
比較増減		▲ 1,469	▲ 20	8	A 8	153	▲ 67	47	61	39	▲ 128	104	▲ 1,280
月平均		2,815	3	11	19	145	63	1,148	378	56	241	224	5,103
1日平均		139.0	0.2	0.5	0.9	7.2	3.1	56.7	18.7	2.8	11.9	11.1	252.0

2.診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

放射線科では診療放射線技師15名(女性技師3名、嘱託技師2名)で10以上のモダリティをそれ ぞれが検査に応じた認定資格を所有し日々検査を行っております。

マンモグラフィー、CT、MRI、RI、透視において前年度より増加しました。CTは年々増加してお り、検査の需要の高さがわかります。断層、血管撮影はほぼ横ばいとなっています。一方で、一般 撮影、骨塩検査、治療において大幅な減少が見られました。これは新型コロナウイルスの流行に伴 い、受け入れ患者の制限などがあり、その影響を受けたと考えられます。

血管撮影装置が年度末に更新され、CT装置一体型のものが導入されました。これにより血管撮 影検査のみではなく、第2CT装置として運用されています。 これらの装置を活用し、今まで以上に地域に貢献できるように努めていきます。

(2)今後の課題

- ・年度末にCT装置と一体型となった血管撮影装置へ更新され、PCIの24時間体制が開始すること から、血管撮影装置とCT装置それぞれの操作の習得、検査に対しての知識・技術を組織全体で 高めていくことが必要です。
- ・電子カルテの更新後の運用において、制度の構築が重要だと考えられます。
- ・救命救急医療に対応できる撮影技術と読影能力の向上を目指していきます。 ・2021年4月より水晶体被ばくの線量限度が引き下げられるため、これまで以上に防護ゴーグルの 着用を徹底していきます。

3.学会発表等

(1)学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和2年11月6日
② 学会名	令和2年度県北支部ナイトセミナー
③ 開催地	オンライン開催
④ 演題	当院における新型コロナウイルス感染症対策
⑤ 発表者	木次谷 隆志

項目	内 容
① 年月日	令和3年2月27日
② 学会名	第105回秋田県北支部放射線技術学術大会
③ 開催地	オンライン開催
④ 演題	乳幼児頭部MRI検査の画質及びポジショニングの改善に向けた取り組み
⑤ 発表者	畠山 鈴加

(2)講演等

J	項目	内 容
1	年月日	令和2年7月13日
2	研修会名	放射線安全研修会
3	演題	医療被ばくについて
4	発表者	奥村 涉

J	項 目	内 容
1	年月日	令和2年7月20日
2	研修会名	放射線安全研修会
4	演題	MRI検査での注意事項
(5)	発表者	野呂 憲一

]	項目	内容
1	年月日	令和2年7月29日
2	研修会名	放射線安全研修会
4	演題	検査の諸注意について
(5)	発表者	石田 一彦

項目	内 容
① 年月日	令和2年4月27日
② 演題	Wisely choosing
③ 発表者	石田 一彦

項目	内 容
① 年月日	令和2年5月12日
② 演題	COVID-19肺炎CT所見
③ 発表者	米沢 拓彌

項目	内 容
① 年月日	令和2年5月25日
② 演題	食道癌について
③ 発表者	木次谷 隆志

項目	内 容
① 年月日	令和2年6月24日
② 演題	胸部レントゲンについて
③ 発表者	佐々木 晶香

項目	内 容
① 年月日	令和2年7月8日
② 演題	DRLs2020
③ 発表者	石田 一彦

項目	内 容
① 年月日	令和2年7月30日
② 演題	胃がんX線検診 読影判 定区分カテゴリー分類
③ 発表者	羽澤 憲治

項目	内 容
① 年月日	令和2年8月18日
② 演題	頭頸部癌について(放射線 治療)
③ 発表者	小畑 学

項目	内 容
① 年月日	令和2年9月24日
② 演題	法令改定の概要と放射線 障害予防規定について
③ 発表者	工藤 淳

項目	内 容
① 年月日	令和2年9月30日
② 演題	脊椎MRI
③ 発表者	畠山 鈴加

項目	内 容
① 年月日	令和2年10月14日
② 演題	考える救急撮影
③ 発表者	村上 鉄兵

項目	内 容
① 年月日	令和2年10月23日
② 演題	バセドウ病と放射線
③ 発表者	奥村 渉

項目	内 容
① 年月日	令和2年10月28日
② 演題	春柱管狭窄症について
③ 発表者	野呂 憲一

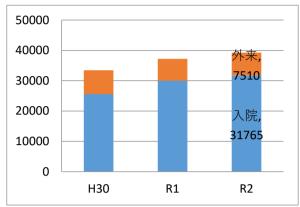
項目	内 容
① 年月日	令和2年7月31日
② 演題	冠動脈CTと下肢CTAの 有用性
③ 発表者	佐々木 正文

項目	内 容
① 年月日	令和2年11月25日
② 演題	外傷性全身CT
③ 発表者	奥村 歩

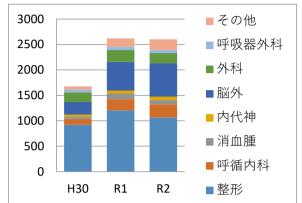
7. リハビリテーション科

1. 臨床統計

延べ患者数(過去3年)

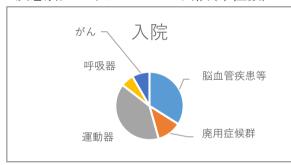


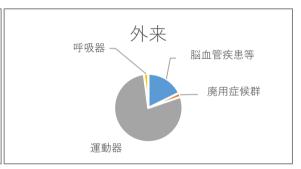
診療科別の新患数(過去3年)



※その他:産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻科、精神科

疾患別リハビリテーションの内訳(単位数)





2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

施設基準は脳血管疾患等リハビリテーション I、運動器リハビリテーション I、呼吸器リハビリテーション I、廃用症候群リハビリテーション I、がん患者リハビリテーションである。市立扇田病院との人事交流があったが、スタッフ数は変わらずPT13名((内包括専従PT1名)、OT7名(内精神科病棟専従OT1名、デイケア専従OT1名)、ST2名であった。スタッフの保有資格は3学会合同呼吸療法認定士、専門理学療法士(運動器)、認定理学療法士(運動器、呼吸、発達障害)、秋田県糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士。

脳外科病棟における食事介入や看護部を対象としたOJTの実施など院内活動が活発に行われた。下半期は新型コロナウィルス感染症の感染拡大により、中止・縮小を余儀なくされた活動が多く、臨床実習の受け入れもなかった。基本的な感染予防対策のほか、外来通院回数の変更、入院患者と外来患者の実施場所や実施時間の調整などの工夫を行いながらリハビリ業務を遂行した。

(2) 今後の課題

中止・縮小した活動の順次再開を検討する。具体的な感染対策や再開の時期・方法について検討を行い、感染状況に応じて臨機応変に対応していく。学会・研修会についてもオンラインやハイブリット開催が多くなっており、ウェブ参加の推奨、ウェブ環境の整備等を行い、継続的にスキルアップ、リハビリテーションの質の向上を目指していく。大館市病院事業計画に基づく人員配置の見直しや療法士の計画的な確保も課題と考える。

3. 学会発表等

(1)学会発表

項	頁 目	内 容
1	年月日	令和2年9月11~12日
2	学会名	第22回日本褥瘡学会学術集会
3	開催地	神戸(兵庫):Web開催
4	演 題	ポジショニング実技研修会の開催とその評価
(5)	発表者	豊口卓、安保明子、中山句仁子、花田真澄、野崎剛

項	頁 目	内 容
1	年月日	令和3年3月21~22日
2	学会名	第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会
3	開催地	京都:Web開催
4	演 題	VATS患者の術後早期にサルコペニアが及ぼす影響
5	発表者	柏木智一、小野貴史、後藤史子

4. その他

(社会的活動他)

		_ /
J	項 目	内 容
1	年月日	令和2年10月27日
2	活動内容	糖尿病サポーター制度 講師
3	実施者	柏木智一

項目		内	容
 年月 	日 令和3年2月24日		
② 活動P	内容 地域ケア会議(大館市)		
③ 実施	者 柏木智一		

8. ME室

1. 臨床統計

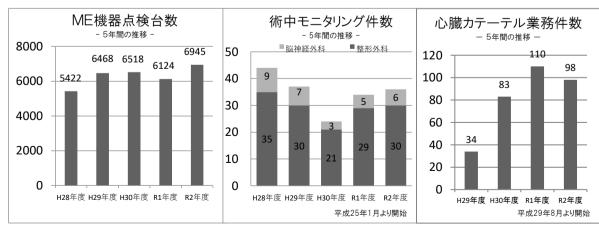
(1)ME機器管理業務

令和2年度 ME機器運用状況

ME室管理機器台数 753台

松児女	貸出	点検	点検内訳				
機器名			始業	動作中	巡回	定期	故障修理**
輸液ポンプ	3009	2919	2615			304	9
シリンジポンプ	1280	1183	964			219	4
人工呼吸器	99	455	93	352		10	4
間歇式空気圧迫装置	422	410	315			95	13
低圧持続吸引器	77	66	52			14	1
除細動器·AED	69	271			224	47	7
閉鎖式保育器		16				16	8
離床センサ	1252	1121	1121				35
超音波ネブライザ	63	63	37			26	6
超音波画像診断装置	379	263	263				
生体情報モニタ	47	43			43		39
送信機							3
神経機能検査装置	36	36	36				2
筋電図誘発電位検査装置	81	81	81				
パルス波治療器							
呼吸循環モニタ	1						
IABP		2				2	1
血液ガス分析装置		16		5		16	1
IVスタンド	288						
その他(CPRドール等)	18						2
合 計	7121	6945	5577	357	267	749	135

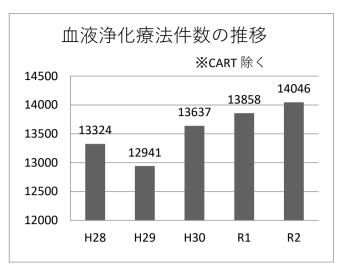
※故障修理内訳 内部修理:88台 外部修理:47台

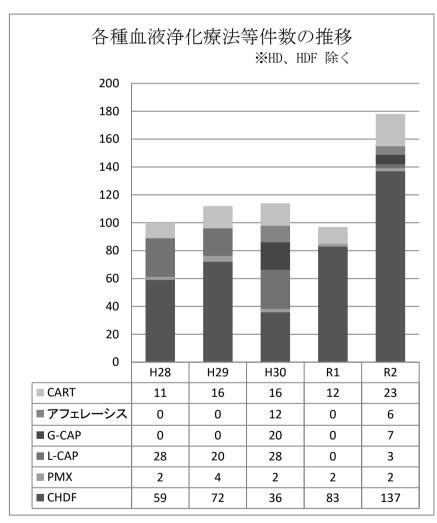


- ・ペースメーカー業務開始
- ・パルス方式キセノン紫外線照射ロボット(ライトストライク)院内導入
- ・医療機器安全推進月間(6月)、ME機器トレーニングラボ全5回開催
- ·院内研修会15件、各種勉強会29件

(2)血液浄化業務

令和2年度 血液浄化部門管理機器				
管理機器	機種数	台数		
多人数用透析液供給装置	1	1		
逆浸透精製水システム	1	1		
A粉末自動溶解装置	1	1		
B粉末自動溶解装置	1	1		
透析用監視装置	7	33		
血液浄化装置	1	2		
計 12 39				





2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

現在、血液浄化部門2名、ME機器管理部門3名、計5名の体制で、業務分担による専門性を活かし、継続性のある業務を遂行している。休日夜間体制においても対応可能なスタッフを把握し事由を分担することで、最少人員であっても確実で迅速な呼び出し対応を可能としている。ME機器管理業務では、機器の保守管理、取り扱いやトラブルへの対応、機器購入サポート、整形・脳外での術中モニタリング、心臓カテーテル業務、また今年度よりペースメーカー業務全般に対応し、更には新型コロナ対応として病棟配置換えの補助や今年度導入された紫外線照射ロボットによる環境の殺菌消毒の計画実施など、これまで以上の業務拡大に対応している。血液浄化業務では、透析室業務の他に、時間外での救急対応や病棟での治療など、様々なシーンにおける各種血液浄化療法に対応しており、更に多機能血液浄化装置が2台体制となったことで、より多くの症例に対し適切な治療が可能となっている。また、新型コロナウイルス感染症対策としては、入室前検温や健康チェック、透析患者の時間差入室の実施、待合室のソーシャルディスタンス確保、室内の定期換気や感染リスク患者の隔離など、他職種スタッフとの連携により万全の対策で臨んでいる。

医療安全では、透析室ME情報紙『透析ME』の定期発行及び病院全体配布の拡大版も発行し、透析室における安全意識や技術の向上以外にも病院全体への情報発信を目指している。また、MEサポートチーム活動、ME機器トレーニングラボの開催、更には院内研修会や出張勉強会など積極的に行うことで、各現場での医療機器安全運用に寄与している。

その他、ME室スタッフ5名で15の委員会を分担し、また5つの各種プロジェクトチームに所属しながら各分野において活動の場を広げ、チーム医療の一端を担っている。

(2) 今後の課題

ME室の業務は年々拡大し、病院規模や休日夜間体制等の業務需用から考えると十分なスタッフ数とは言えない現状がある。また殆どが診療報酬上算出し難い業務であり、成果の数値化が困難な部署とも言える。今後ME室を更に充実させて行くには、機器の安全確保、医師・看護師の業務軽減サポート、更には新たな業務需要に応えながら、業務量や成果を数値化していくことが求められる。

このような中、病院経営を鑑みると、収益増加やコスト削減についての取り組みが急務となっている。また、医療機器更新予算の観点からは、老朽化機器の安全運用、また機器更新の優先順位等の見極めも重要な課題である。

透析室においては、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、考えられる最善の対策を進めてきたつもりではあるが、透析室内での感染を想定した場合、未だ不安要素は否めない。有事においては、近隣の医療施設など広域での連携も含めたより実効的な対応が求められる。

これらの多くの課題に対し、さらなる他部門との連携を図りながら、現状を把握し優先順位を熟慮しながら職務を遂行していく。

9. 医療安全推進室

1. 臨床統計

平成24年度から令和2年度 インシデントレポート提出件数

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
件数	1,016	1,006	1,166	1,119	1,471	1,789	1,886	1,898	1,943

令和2年度 インシデントレポート分類別報告数(総報告数1,943件)

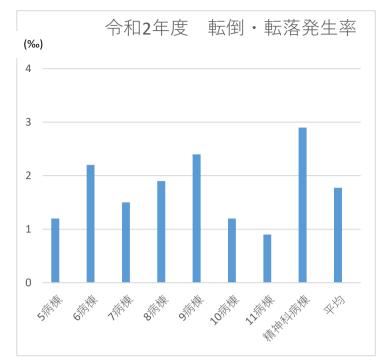
	分 類	報告数		分 類	報告数
薬	処方·与薬	388	給食・栄養(介助者がいるもの)		36
剤	調剤・製剤管理	96		検体検査	210
輸血		25		生理検査	20
	手術	102	検査	画像検査	125
治	麻酔	16	1 -	内視鏡検査	11
療	分娩•人工妊娠中絶	4		機能検査	14
処	その他の治療	188	転倒•転落		194
置	一般処置・チューブ類の挿入	49	療	養上の世話・療養生活の場面	212
	救急処置	40	患	者家族への説明	2
医療機器等		70	施	设• 設備	0
ドレ	<i>゚</i> ーンチューブ	130	その他		11
				合 計	1,943

令和2年度 インシデントレポート職種別報告数(総報告数1,943件)

				·	
職種	報告数	職種	報告数	職種	報告数
看護師	1,103	放射線技師	43	作業療法士	18
看護師(副看護師長以上)	191	薬剤師	116	理学療法士	48
准看護師	28	栄養士	22	言語聴覚士	0
医師	93	調理師	0	視能訓練士	9
研修医	119	臨床心理士	6	臨床工学技士	5
臨床検査技師	124	歯科衛生士	2	事務員	16
				合 計	1,943

平成26年度から令和2年度 医師、研修医インシデントレポート提出件数

	医師	研修医	合 計
平成26年度	26	1	27
平成27年度	33	18	51
平成28年度	63	48	111
平成29年度	30	56	86
平成30年度	42	72	114
令和元年度	73	25	98
令和2年度	93	119	212



転倒 · 転落発生平均值

1.8‰

転倒・転落アクシデント件数

3b:2件

(3b: 濃厚な治療や処置を要し、 一過性だが高度の障害をきたした 事例)

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

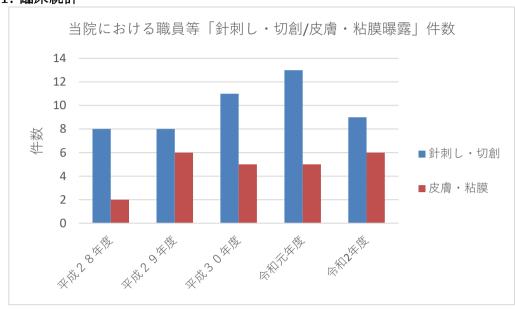
令和2年度のレポート提出件数は1,943件で過去最多の提出数であり、そのなかでも、医師・研修医の提出数が大幅に増えた。レポート報告からの情報共有により、コロナ禍での活動制限があるなかでも、組織横断的な活動に取り組んだ。また、電子カルテにおける不正閲覧の増加に伴い、号外での「医療安全通信」の発行、「個人情報保護と情報漏えい防止」のための研修を行い、医療者として基本的な倫理について共有が行われた。

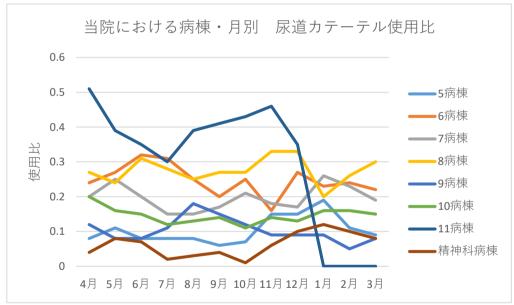
(2)今後の課題

コロナ禍における活動のありかたを模索しながら、医療安全のPDCAサイクルを回し、組織活動を推進させていく。

10. 感染制御室

1. 臨床統計





*11病棟:1~3月は新型コロナウイルス感染症対策にて一般患者受入なし

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1)診療に係る評価(特徴、アピール点等)

従来の感染対策中心のICT活動と2018年度より開始した抗菌薬適正使用支援に関するAST活動の取り組みを行っています。抗菌薬化学療法認定薬剤師他、3名の薬剤師を中心に各病棟の薬剤師にも協力いただいています。感染症専門医との抗菌薬長期投与患者や血液培養陽性患者等のカンファレンスを電子カルテに記録し、主治医に抗菌薬投与について検討していただいています。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症重点医療機関として感染対策(マニュアル作成、個人防護具着脱練習、標準予防策についての研修等)を行うとともに、体制整備(診療場所の確保、検査体制の整備等)を図りました。

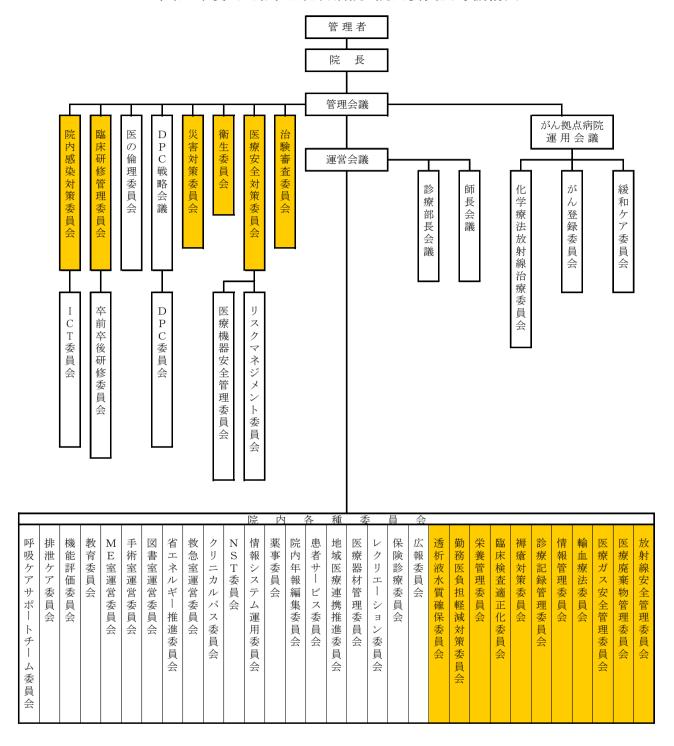
3. 学会発表等

(1)講演・論文発表等

							
項目		内容					
1	年月日	令和2年12月1日、令和3年2月15日					
2	講演会名 または掲 載誌名	院内感染対策研修会、院内感染対策研修会					
3	掲載誌						
4	演 題	COVID-19についてわかっていること、新型コロナウイルス感染症について					
(5)	発表者	中居 肇、池島 進					

Ⅲ. 各委員会等報告

令和2年度 大館市立総合病院 院内委員会等機構図



(※網掛は、設置義務が法令等に定められている委員会)

1. 医療安全対策委員会

1. 委員会活動記録

(1)目的

医療上の事故防止対策の推進及び事故防止の徹底を図る。

(2)委員会開催記録

(2)委員会開催記録	
期日	テーマ(主なもの)
第1回 (令和2年4月24日)	・今期の事故報道から・診療録(カルテ)の不正閲覧について・令和元年度インシデント・アクシデントレポートまとめ
第2回 (令和2年5月22日)	・今期の事故報道から ・「院内暴力対応マニュアル」の一部改訂について ・「(全職員対象)医療安全研修会」の計画変更について
第3回 (令和2年6月26日)	・今期の事故報道から ・異物混入事件に関連して考えられること ・救急カート常備薬の一部変更について
第4回 (令和2年7月31日)	・今期の事故報道から ・救急室前トイレの緊急呼び出しコールの管理・運用について ・術前に休薬・注意を要する薬品について
第5回 (令和2年8月28日)	・今期の事故報道から ・「免疫抑制剤・化学療法などによるB型肝炎ガイドライン」について ・医療安全対策地域連携相互ラウンド報告
第6回 (令和2年9月25日)	・今期の事故報道から ・〔話題提供〕業者が立ち会う検査・手術等の実態
第7回 (令和2年10月23日)	・今期の事故報道から ・カルテ記載の不備について ・医療安全研修会(DVD研修)「個人情報保護法について」
第8回 (令和2年11月27日)	・今期の事故報道から ・「第15回医療の質・安全学会」に参加して ・「鎮痛剤使用ワークグループ」設置の提案
第9回 (令和2年12月25日)	・今期の事故報道から ・説明同意書「抗凝固剤・ホルモン剤の休止期間に起きる危険性について」の改訂案 ・後期医療安全研修会(DVD研修)「自部署で取り組んだ医療安全と評価」の実施計画について
第10回 (令和3年1月22日)	・今期の事故報道から ・説明同意書「糖尿病治療薬」を服薬中の患者様へ/「徘徊センサー装 着に関する説明・同意書」の改訂案
第11回 (令和3年2月26日)	・今期の事故報道から・徘徊センサーに関する書式案について①「センサー装着に関する同意書」(案)②「徘徊ナビ安全使用マニュアル」(案)③「徘徊センサー(徘徊検知システム)使用手順」(案)

第12回 (令和3年3月26日)

- ・今期の事故報道から
- ・「徘徊センサー」運用上の問題点について
- |・「令和3年度研修実施計画」について

(3)マニュアル類の整備

- ・院内暴力(暴言・暴行)対応マニュアル改訂
- ・院内急変時対応マニュアル改訂
- •「外来患者行方不明時対応」改訂

(4)医療安全通信発行

号外 令和2年4月10日

2. 院内医療安全研修会

【全職員対象】

①「個人情報保護法について」 (令和2年11月10日・11月27日

•12月1日 • DVD)

②「自部署で取り組んだ医療安全と評価」 (令和3年2月3日・DVD)

【その他の研修会】

①新入職者研修「インシデントレポートについて」 (令和2年4月7日) ②薬剤(麻薬)の安全管理・安全な医療機器の取り扱い (令和2年6月29日) ③フィルタ付き輸液セットの正しい取り扱い (令和2年7月15日) ④CVポートの管理方法 (令和3年1月4日) ⑤薬剤(危険薬)の安全管理・医療機器の取り扱いと管理について (令和3年2月26日)

2. リスクマネジメント委員会

1. 委員会活動記録

- (1)活動目的
- ・環境面をリスクの視点でとらえ、改善していく。
- ・院内に出入りする人に安全と安心を与えていく。 ・技術・物品管理はラウンドし、チェックすることで適切な緊張感を与える。 ・適度な緊張感は、責任感と向上心につながりリスク感性を育む。

(2)委員会開催記録

開催日	内 容
令和2年4月15日	 ・新リスクマネージャー紹介 ・令和元年度3月レポートの分析と表彰 ・令和元年度インシデントレポート集計報告 ・その他 令和2年度 部署目標の提出について
令和2年5月20日	 ・令和2年度4月レポートの分析と表彰 ・最近のレポート報告から ・令和2年度リスクマネジメント委員会・部署目標発表 ・リスクマネジメント委員会:ラウンドチーム活動 ・その他 令和2年度医療安全研修会について
令和2年6月17日	 ・令和2年度5月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・ワーキンググループチーム目標発表 ・その他 2020年度(令和2年度)の努力目標について
令和2年7月15日	・令和2年度6月レポートの分析と表彰・レポート報告から・その他 2020年度(令和2年度)の努力目標決定:「CUS」
令和2年8月19日	・令和2年度7月レポートの分析と表彰・レポート報告から・その他 医療安全対策地域連携相互ラウンドについて
令和2年9月16日	・令和2年度8月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・その他 全職員対象の医療安全研修会について
令和2年10月21日	・令和2年度9月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・ワーキンググループ中間評価報告 ・医療安全研修会「自部署で取り組む医療安全と評価」について
令和2年11月18日	・令和2年度10月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・医療安全研修会「自部署で取り組む医療安全と評価」について ・その他 医療安全対策地域連携相互ラウンドチェック実施報告

令和2年12月16日	・令和2年度11月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・医療安全研修会「自部署で取り組んだ医療安全と評価」について
令和3年1月20日	・令和2年度12月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・医療安全研修会「自部署で取り組んだ医療安全と評価」について
令和3年2月17日	・令和2年度1月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・医療安全研修会「自部署で取り組んだ医療安全と評価」の報告と課題 ・令和3年度研修会予定について ・その他 令和2年度部署医療安全目標・評価/ワーキングチーム活動評価・ 報告依頼
令和3年3月17日	・令和2年度2月レポートの分析と表彰 ・レポート報告から ・令和2年度 医療安全部署目標評価・ワーキングチーム活動評価の報告

2. 表彰事業

(1)インシデントレポート月間賞

4月 — 8病棟10月 — 10病棟5月 — 薬剤科11月 — 9病棟6月 — 神経精神科病棟12月 — 5病棟7月 — 10病棟1月 — 手術室8月 — 手術室2月 — 9病棟

9月 — 6病棟•10病棟 3月 — 神経精神科病棟

(2)特別功労賞(インシデントレポート提出数年間最多) 手術室

3. 医療機器安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

口	開催日	内 容
1	令和2年5月20日	・新委員の任命について ・ME機器運用状況 ・除細動器自主回収について ・麻酔器の点検について
2	令和2年6月17日	・ME機器運用状況・人工呼吸器保守の単年度契約について・室温上昇による血ガス分析装置エラーメッセージについて
3	令和2年7月15日	・ME機器運用状況 ・透析液供給装置給水不足エラーへの対応 ・非観血血圧計の誤接続防止コネクタの導入について
4	令和2年9月16日	・ME機器運用状況 ・修理対象外の老朽ベッドサイドモニタについて ・院内電気設備点検による作業停電への対応について
5	令和2年10月21日	・ME機器運用状況 ・上半期修理費用報告・院内電気設備点検による作業停電の部門報告
6	令和2年11月18日	・ME機器運用状況・透析監視装置NCV-3のバージョンアップについて ・低圧持続吸引機、超音波ネブライザの更新について
7	令和2年12月16日	・ME機器運用状況 ・パルス方式キセノン紫外線照射ロボットについて(新型コロナ対策)
8	令和3年1月20日	・ME機器運用状況 ・生体情報モニタの増設について ・生体情報モニタ規格変更による更新について
9	令和3年2月17日	・ME機器運用状況・人工呼吸器使用中のO2濃度低下事例について ・透析液供給装置B原液ポンプ異常アラーム発生事例について ・人工呼吸器新機種追加について(日本光電HAMILTON・C1)
10	令和3年3月17日	・ME機器運用状況・透析患者監視装置の不具合について・輸液ポンプ、JIS規格変更にともなう製造中止機種について

(2)活動要約

- ・各種ME機器の不具合について検証を行った。
- ・老朽化機器(規格変更等)の更新について協議した。
- ・新型コロナウイルスへの対応について協議及び対策を実施した。
- ・新型コロナ対策にてパルス方式キセノン紫外線照射ロボットを導入、運用した。
- ・新型コロナ対策にて病棟再編による機器の移動設置を行った。
- ・非観血血圧計の誤接続防止コネクタを導入した。

4. 院内感染対策委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

回	開催日	内 容
1	令和2年4月6日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(今冬の感染症流行状況について等) ・ラウンド結果について(神経精神科病棟) ②案件 なし
2	令和2年5月11日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(今冬の感染症流行状況について等) ・ラウンド結果について(人工透析室) ②案件 なし
3	令和2年6月1日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(11病棟) ②案件 ・プロカルシトニン検査について
4	令和2年7月6日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(今冬の感染症流行シーズン対策・状況について等) ・ラウンド結果について(10病棟) ②案件 ・プロトコル運用手順について
5	令和2年8月3日	①報告事項 ICT委員会から・臨床検査科から(MRSA月報等)・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等)・ラウンド結果について(9病棟)②案件 なし
6	令和2年9月7日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(10病棟) ②案件 なし
7	令和2年10月5日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(7病棟) ②案件 なし

8	令和2年11月2日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(6病棟) ②案件 なし
9	令和2年12月7日	 ①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(5病棟) ②案件 ・「LIGHT STRIKE」機器管理・運用方法について ・院内感染対策研修会の実施について
10	令和3年1月8日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(神経精神科病棟) ②案件 ・感染症患者の食器の取り扱いについて
11	令和3年2月1日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(人工透析室) ②案件 ・院内感染マニュアルに改訂について
12	令和3年3月1日	①報告事項 ICT委員会から ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(手術室) ②案件 ・穿刺及び開封後の使用期限 ・院内感染対策委員会の添付資料について ・血液培養複数セット提出率などのプロセス指標の定期的な評価について

※弘前大学医学部附属病院との地域連携相互ラウンド

_	2003/21/30 C 3 T P 3 P P P P P P P P P P P P P P P P			
	1	令和2年12月3日	当院による弘前大学医学部附属病院のラウンド ・書類確認 ・院内巡回 ・講評 ・カンファレンス	
	2	令和2年12月17日	弘前大学医学部附属病院による当院のラウンド ・書類確認 ・院内巡回 ・講評 ・カンファレンス	

(2)活動要約

- ・委員会を定例的に開催し、ICT委員から、臨床検体から分離されたMRSAの検出状況や抗菌薬の使用届出状況等の報告を受け、増減を監視した。
- ・感染対策加算病院1の弘前大学医学部附属病院と相互ラウンドを行い、感染対策の取組みについて情報交換を図るとともに、他の連携病院ともカンファレンスを行なった。
- ・各種耐性菌や主要な菌のサーベイランスを行い、発生状況の監視を行なった。
- ・ICTメンバーによる定期的な院内ラウンドの結果により、指摘事項や改善点を確認し、感染拡大防止に努めた。

5. ICT委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

□	開催日	内 容
1	令和2年4月14日	 ・院内ラウンド(人工透析室) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(予算請求の図書) ・検討事項①ICT合同カンファレンス日程について ②院内感染対策研修会(案)
2	令和2年5月12日	 ・院内ラウンド(11病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(ICT合同カンファレンス等) ・検討事項①冬季感染症流行シーズンの対策解除について②「入院された患者様へのご面会制限」の用紙について
3	令和2年6月9日	・院内ラウンド(10病棟)・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況)・臨床検査科から(MRSA月報等)・ICNから(ICT合同カンファレンス等)
4	令和2年7月14日	・院内ラウンド(9病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(院内感染対策研修会等) ・検討事項①ベルコムローションの交換について
5	令和2年8月11日	・院内ラウンド(8病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(帰国者・接触者外来(ドライブスルー方式)実施について等)
6	令和2年9月8日	・院内ラウンド(7病棟)・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況)・臨床検査科から(MRSA月報等)・ICNから(院内感染対策研修会等)
7	令和2年10月13日	・院内ラウンド(6病棟)・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況)・臨床検査科から(MRSA月報等)・ICNから(ICT合同カンファレンス等)

8	令和2年11月10日	・院内ラウンド(5病棟)・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況)・臨床検査科から(MRSA月報等)・ICNから(地域連携相互ラウンド等)・検討事項①来年度予算要求について
9	令和2年12月8日	・院内ラウンド(神経精神科病棟)・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況)・臨床検査科から(MRSA月報等)・ICNから(地域連携相互ラウンド等)
10	令和3年1月12日	 ・院内ラウンド(人工透析室) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(院内感染対策研修会(1回目)等) ・検討事項①院内感染対策研修会(2回目)について
11	令和3年2月9日	・院内ラウンド(手術室) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(院内感染対策研修会等)
12	令和3年3月8日	・院内ラウンド(第10病棟) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等)

(2)活動要約

- ・院内の感染制御を目的として、毎月定例の委員会を開催するとともにICT委員会の前にラウンドを行った。
- ・MRSAの検出状況や指定抗菌薬使用届提出状況、耐性菌サーベイランスの報告を受け、主要な菌の発生抑制に努めた。
- ・感染対策連携病院の相互ラウンドと4病院合同カンファレンスを行い、委員会活動や、感染防止についての情報交換を行った。
- ・ICTの下部組織としてASTを設置、平成29年度より活動を開始した。

6. 臨床研修管理委員会

1. 委員会活動記録

- (1)活動目的
 - ① 研修プログラムに係る基本方針の決定及び作成に関すること。
 - ② 研修プログラムの実施に係る総合的な調整に関すること。
 - ③ 研修医の管理に関すること。
 - ④ 研修の評価に関すること。
 - ⑤ 研修医の採用・中断・修了の際の評価に関すること。
 - ⑥ その他臨床研修及び研修医の重要事項に関すること。

(2)委員会活動記録等

月日	内 容	場所
令和2年5月11日	秋田県臨床研修協議会第1回定例会	書面協議
令和2年6月11日	医師臨床研修マッチング参加登録開始	
令和2年6月30日	第1回臨床研修管理委員会	当院
令和2年7月1日	臨床研修医マッチング願書受付開始	
令和2年9月20日	秋田県臨床研修協議会オンライン病院説明会	オンライン
令和2年10月2日	第2回臨床研修管理委員会	当院
令和2年10月22日	令和3年度臨床研修マッチング結果発表	
令和2年10月30日	第2回秋田県臨床研修協議会	オンライン
令和2年11月13日	レジデントスキルアップキャンプ	オンライン
令和3年3月18日	令和2年度臨床研修病院実地調査	当院
令和3年3月24日	第3回臨床研修管理委員会	当院
令和3年3月25日	臨書研修医修了証書交付式	当院
令和3年3月25日	第3回秋田県臨床研修協議会	オンライン

(3) 令和2年度臨床研修医の研修状況

- ・大館市立総合病院プログラム7 5名(弘前大学5名)
- ・大館市立総合病院プログラム8 7名(弘前大学7名)

(4)委員会開催記録等

В н	同数	主た絵討内突
月日	第1回	主な検討内容 ・臨床研修管理委員の任命について ・大館市立総合病院臨床研修管理委員会要綱の変更について ・卒後臨床研修指導医及び指導者の任命について ・本年度事業予定について ・令和2年度臨床研修医の研修スケジュールについて ・プログラム変更について ・研修修了の判定基準について ・令和3年度開始 臨床研修医募集要項について ・令和2年度臨床研修医の研修状況の評価及び指導医・看護師等の評価について ・到達目標達成状況及び各種レポート提出状況について

令和2年10月5日	第2回	・年間スケジュールについて・研修医の研修状況について・他医療機関の研修医受入れ状況について・臨床研修医マッチング状況について・研修進捗状況について・研修評価結果について・インシデントレポートの提出状況について
令和2年10月28日	第3回	・地域医療重点プログラムの新設について・臨床研修医のマッチング結果について
令和3年3月24日	第4回	・年間スケジュールについて ・令和3年度臨床研修医の採用について ・令和4年度開始卒後臨床研修プログラムの変更について ・令和3年度開始臨床研修医のオリエンテーション(案)について ・令和2年度研修医ローテート(案)について ・臨床研修医の研修修了について ・ベスト研修医賞について

7. 卒前卒後研修委員会

1. 委員会活動記録

- (1)活動目的
 - ① 卒前研修に関する事項
 - ② 卒後初期研修に関する事項
 - ③ 卒後後期研修に関する事項
 - ④ その他必要と認められる事項
- (2)委員会開催記録等

(4)安貝云開催記述守	<u> </u>	シャヤコトウ
月日	回数	主な検討内容
令和2年6月25日	第1回	・卒後臨床研修指導医及び指導者の任命について ・本年度事業予定について ・卒前研修受け入れ状況について ・令和2年度臨床研修医の研修スケジュールについて ・プログラム変更について ・研修修了の判定基準について ・令和3年度研修開始 臨床研修医募集要項について ・研修医の院内委員会割り当てについて ・令和元年度臨床研修の評価結果について
令和2年10月2日	第2回	・年間スケジュールについて ・病院見学、卒前研修・実習受け入れ状況 ・研修医の研修状況について ・他医療機関の研修医受入れ状況について ・令和3年度開始臨床研修医のマッチング応募状況について ・研修進捗状況について ・研修評価結果について ・インシデントレポートの提出状況について
令和2年10月23日	第3回	・地域医療重点プログラムの新設について・臨床研修医のマッチング結果について
令和3年3月23日	第4回	・年間スケジュールについて ・卒前研修及び実習実績について ・令和3年度の初期臨床研修医の採用予定について ・令和4年度開始卒後臨床研修プログラムの変更について ・研修ローテート(案)について ・令和3年度臨床研修医オリエンテーション(案)について ・臨床研修医研修修了の評価について ・ベスト研修医賞の選出について

(3)主な活動内容等

- ①研修医募集のための取り組みについて
 - ・臨床研修パンフレットのリニューアル
 - ・単独病院説明会の実施
 - ・卒前研修受け入れ態勢の整備
- ②病院実習の受け入れについて
 - ・受け入れ科及び受け入れ部門の確認、受け入れ可能人員の調整

8. 医の倫理委員会

1. 委員会活動記録

(1)目的

医の倫理委員会は、大館市立総合病院における医の倫理に関する事項を「ジュネーブ宣言」、「ヘルシンキ宣言」および「リスボン宣言」等の趣旨に沿って、審議・方針決定することを目的とする。また、この目的に基づき、次の任務を行う。

- ①医の倫理のあり方についての必要事項を調査、審議し、方針を決定する。
- ②臨床応用または臨床研究の実施責任者から申請された実施計画の内容及びその成果 の公表に関して審議し、意見を述べ、指針を与える。

(2)活動内容

○委員会

口	開催日	内 容
1	令和2年4月20日	①新型コロナウィルス感染症(疑い)妊婦さんの当院での分娩取り扱いについて(承認) ②COVID-19に関するレジストリ研究ファビピラビル等の抗ウイルス薬が投与されたCOVID-19患者の背景因子と治療効果(観察研究) (新型コロナウイルス(COVID-19)に対する抗インフルエンザ薬による適応外使用について)(承認) ③COVID-19に関するレジストリ研究ファビピラビル等の抗ウイルス薬が投与されたCOVID-19患者の背景因子と治療効果(観察研究) (新型コロナウイルス(COVID-19)に対する気管支炎喘息薬による適応外使用について)(承認) ④外来通院治療を受けるがん患者の就労両立支援の取り組み(承認) ⑤外科開腹手術時の開創器使用時のMDRPU発生要因の分析(承認) ⑥経管栄養施行者のヤクルトを使用した排便コントロールへの取り組み(条件付き承認)
2	令和3年2月15日	①日本整形外科学会レジストリー(JOANR)構築に関する研究(承認) ②去勢感受性転移性前立腺癌に対する臨床転帰を観察する前向き登録試験:試験1(承認) ③産婦人科における内視鏡手術他施設データベース構築および情報支援内視鏡外科手術システム構築(承認)
3	令和3年3月25日	①大腿骨骨折患者に潜在する頚部脊髄症の有病率(承認) ②患者の意向を尊重した意思決定のためのガイドライン等について(承認)

○委員長の専決とし承認した案件

	指針日	内 容
1	令和2年5月25日	①SARS-CoV-2核酸検出検査の陰性症例における臨床症状の特徴の検討(承認)
2	令和2年7月13日	①がん患者のオピオイド投与量に影響を及ぼす因子の実態調査(承認)
3	令和2年8月11日	①MeropenemにおけるTime above MICの算出効果(承認)

4	令和2年9月7日	①新型コロナウイルス感染に対する妊婦および産婦人科医師の意識と行動に関する大規模調査(承認)
5	令和2年10月8日	①本邦における月経異常診断の実態調査(承認)
6	令和2年10月13日	①がん診療均てん化のための臨床情報データベース構築と活用に関する研究(承認)
7	令和2年11月6日	①デュシェンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究(Remudy-DMD)(承認)
8	令和2年12月17日	①レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査(承認)
9	令和2年12月21日	①レセプトおよびDPCデータを用いた循環器疾患における医療の質に関する研究(承認)
10	令和2年1月6日	①北東北において外来放射線を受ける乳がん患者の主観的QOLと影響要因(承認)
11	令和2年2月25日	①医療データベースを活用した小児周産期医療の包括的疫学・政策研究(承認)

(3)活動要約

- ・令和2年度は、臨床研究等の申請が21件提出され、当院の臨床研究の倫理指針に基づき審議を行い、承認が21件であった。
- ・患者の意向を尊重した意思決定のためのガイドライン等について、医学的、倫理的、社会的な面から審議し承認した。

9. DPC委員会

1. 委員会活動記録

(1)目的

DPC対象病院として、DPC-PDPSに関する業務の適切な運営を図り、病院経営の適正化と業務改善を目指すためDPC戦略会議を設置する。また、その下部組織としてDPC委員会を設置する。

(2) 主な活動

・算定率向上チーム会議

第1回(令和2年5月29日)

第2回(令和2年7月27日)

第3回(令和2年9月29日)

第4回(令和2年11月27日)

各部署において、次の内容に取り組んだ。

- ○看護部 … 認知症ケア加算、排尿自立指導料、摂食機能療法
- ○緩和ケアセンター … がん性疼痛緩和指導管理料
- ○薬剤科 … 薬剤管理指導料
- ○栄養科 … 特別食と栄養食事指導料
- ○リハビリテーション科 ··· 退院時リハビリテーション指導料、リハビリテーション総合計画 評価料1
- ○放射線科 … 透視の請求チェックとシステム連携の確認
- ○臨床検査科 … 検査の適正化、収入アップ、試薬の見直しによるコスト削減

(3) その他の活動

•適切なコーディングに関する委員会

第1回(令和2年4月30日)

第2回(令和2年7月29日)

第3回(令和2年8月26日)

第4回(令和2年10月28日)

第5回(令和3年1月27日)

10. 災害対策委員会

(1)活動目的

災害対策委員会は、地域災害拠点病院として災害時に予想される事案を念頭に置いて、トリアージ訓練等の災害訓練や避難訓練の実施、災害対策マニュアルの検討・作成を行っている。今年度は、トリアージ訓練の開催が難しく、その代わりにアイソレーターを利用した新型コロナウイルス感染妊産婦の受入訓練を実施した。

(2)委員会開催記録

なし

(3)消防訓練等記録

実施回数	実施日	訓練内容
第1回	令和2年10月26日	新型コロナウイルス感染妊産婦受入訓練
第2回	令和3年2月25日	消防避難訓練(栄養科)

11. 衛生委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

口	開催日	内 容
1	令和2年 4月27日	・令和2年度衛生委員会委員について・令和2年度職場巡視予定について で ・前期職員健診日程について・職員の時間外勤務時間について
2	5月25日	・ラウンド(整形外科・リハビリテーション科) ・職員胃検診について ・前期職員 健診について ・職員の時間外勤務時間について
3	6月22日	・ラウンド(第6病棟)・喫煙率調査について・ストレスチェックについて・職員対象の感染症検査について・職員の時間外勤務時間について
4	7月29日	・ラウンド(神経精神科病棟) ・Tスポット検査・抗体価検査(結果)・院内研修会について・職員の時間外勤務時間について
5	8月24日	・ラウンド(神経精神科外来、精神科リハビリテーション室)・ストレスチェックについて・生活習慣病研修会について・職員の時間外勤務時間について
6	9月28日	・ラウンド(消血腫内科、化学療法室、放射線科)・喫煙率調査の進捗状況について・生活習慣病研修会について・職員の時間外勤務時間について
7	10月19日	・インフルエンザワクチン接種について ・後期職員健診について ・職員 対象の感染症検査について ・職員の時間外勤務時間について
8	11月30日	・ラウンド(第5病棟)・職員インフルエンザワクチン接種(報告)・後期職員健診について・新規採用及び異動職員のTスポット検査について・職員の時間外勤務時間について
9	12月28日	・ラウンド(栄養科)・喫煙率調査(報告)・メンタルヘルス研修会について ・職員の時間外勤務時間について
10	令和3年 1月25日	・後期職員健診の進捗状況について・ストレスチェック調査(報告)・職員の時間外勤務時間について
11	2月22日	・ラウンド(眼科・脳神経外科)・ストレスチェック後の面接(報告)・メンタルヘルス研修会(報告)・結核感染者接触職員に対するTスポット検査・職員の時間外勤務時間について
12	3月22日	・ラウンド(産婦人科)・令和3年度職員健診年間スケジュール ・令和3年度職場巡視・令和3年度委員・職員の時間外勤務時間について

(2)活動要約

- ・今年度の職員健診年間スケジュールに基づき、全職員(病気、出産休暇及び育児休業等の職員を除く)を対象とした健康診断を実施。
- ・昨年度に引き続き職場巡視(ラウンド)を実施。要改善点等を所属長へ報告し、改善を促した。
- ・職員(委託職員等含む)の喫煙率調査を実施。喫煙率は9.7%(83人)で、前年度より0.4%減少した。
- ・職員(委託職員等含む)インフルエンザワクチン予防接種を887人に実施。
- ・生活習慣病研修会及びメンタルヘルス研修会を開催し、職員の健康意識の向上を図った。

12. 放射線安全管理委員会

1. 委員会設置の意義

放射線治療で使用される高エネルギー放射線発生装置は、医療法とは別に放射線障害防止法(原子力規制委員会)の規制を受けています。この放射線障害防止法の中に「放射線安全委員会」の設置が義務づけられています。当院では名称を「放射線安全管理委員会」としております。また、当院では放射線治療の作業だけでなく、院内のすべての放射線作業に従事する職員の安全を確保する目的で放射線安全管理委員会を開催しています。

地域がん診療連携拠点病院の指定要件に「第三者機関による出力線量測定を行うなど、放射線治療の品質管理を行うこと。」とあり、そのなかに「放射線治療品質管理委員会の設置」が求められています。そこで当放射線安全管理委員会がこの放射線治療品質管理委員会も兼務しております。

2. 令和2年度個人被ばく線量報告及び法令対応

実効線量	男	女	計
5mSv以下	60	52	112
5<,≦20mSv	0	0	0
20<,≤50mSv	0	0	0
50mSv超える	0	0	0

水晶体線量	男	女	計
45mSv以下	60	52	112
45<,≦150mSv	0	0	0
150mSv超える	0	0	0

皮ふ線量	男	女	計
150mSv以下	60	52	112
150<,≦500mSv	0	0	0
500mSv超える	0	0	0

法令対応

令和2年5月11日 令和元年度放射線管理状況報告書を原子力規制委員会へ届出

3. 委員会記録

回数	開催日	主な検討内容
第1回	令和2年5月25日 資料配布	1.放射線安全管理委員会名簿 2.2019年度職員被ばく線量報告 3.水晶体等価線量限度引き下げ通知書
第2回	令和3年3月8日	1.放射線業務従事者及び放射線施設管理状況報告 2.放射線安全に係るガイドライン 3.DRLs2020ガイドラインと当院検査との比較報告 4.令和3年度医療放射線安全研修会について 5.その他

13. 医療廃棄物管理委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

口	開催日	内 容
1	令和3年3月19日	・廃棄物管理マニュアル記載外の分別について ・廃棄物中間処理場視察について ・感染性廃棄物(固形状)の表示貼り替えについて

(2)活動要約

「廃棄物管理マニュアル」に記載のない分別方法について再確認した。 廃棄物中間処理場の視察は、近年は、新型コロナ感染症拡大状況のため見送っているの で、来年度は、感染状況を確認し、視察を検討することとした。

「感染性可燃物」を感染性廃棄物(固形状)への表記への貼り替え作業について、まもなく完了すると報告した。

14. 医療ガス安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

医療ガス(診察・治療等に使用する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療圧縮空気、窒素等をいう。)設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的として設置している。

(2)委員会開催記録

口	開催日	内 容
1	令和3年3月5日	・医療ガス保安講習会の報告(院内講習)・医療ガス購入実績の報告・医療ガス機器点検報告

(3)活動要約

・院内医療ガス取扱い保安講習会 (院内講習) DVD閲覧による視聴講習 18名受講

15. 輸血療法委員会

1. 委員会活動記録

(1)目的

輸血療法や製剤管理運用の適正実施について検討することを目的とする。

(2)活動内容

口	開催日	内 容
1	令和2年4月22日	・血液製剤使用状況など
2	令和2年6月10日	・血液製剤使用状況など
3	令和2年9月9日	・血液製剤使用状況など
4	令和2年11月11日	・血液製剤使用状況など
5	令和3年1月13日	・血液製剤使用状況など
6	令和3年3月10日	・血液製剤使用状況など

(3)活動要約

輸血療法委員会は合計6回開催された。

委員会主催の院内輸血研修会は3回開催され、あわせて120名ほどの職員が参加した。 輸血内部監査部会は院内のラウンドを2回行い、輸血が適切に行われるよう指導につとめた。 年間使用量はRBC 2464単位、FFP 176単位(120ml:1単位)、PC 5455単位、ALB 820.7g であり、FFP/RBC比は0.07、ALB(g÷3)/RBC比は0.11であった。これは輸血適正使用加算(輸血管理料 I を算定する医療機関)の基準を満たしていた。

※適正仕様基準;FFP/RBC≦0.8、ALB(g÷3)/RBC≦2

(4)血液製剤使用状況

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 照射赤血球液 212 136 224 262 190 208 238 244 230 204 140 176 2,44 新鮮凍結血漿 12 10 12 22 14 14 20 30 8 8 12 14 1 照射濃厚血小板 350 240 340 650 320 510 545 550 600 420 480 450 5,4			2020年							2021年			合計	
新鮮凍結血漿 12 10 12 22 14 14 20 30 8 8 12 14 15 照射濃厚血小板 350 240 340 650 320 510 545 550 600 420 480 450 5,45		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
照射濃厚血小板 350 240 340 650 320 510 545 550 600 420 480 450 5,4	照射赤血球液	212	136	224	262	190	208	238	244	230	204	140	176	2,464
	新鮮凍結血漿	12	10	12	22	14	14	20	30	8	8	12	14	176
アルブミン製剤(g) 54.2 58.3 70.8 100.0 91.7 104.2 100.0 95.8 20.8 33.3 33.3 58.3 820	照射濃厚血小板	350	240	340	650	320	510	545	550	600	420	480	450	5,455
7 / 7 (6/	アルブミン製剤(g)	54.2	58.3	70.8	100.0	91.7	104.2	100.0	95.8	20.8	33.3	33.3	58.3	820.7

(単位)

16. 診療記録管理委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動目的

診療情報管理業務の円滑な運営と個人情報保護の適切な管理を図るため、診療情報および 診療録に関する管理と個人情報の管理に関する事項を検討する。

(2)委員会開催記録

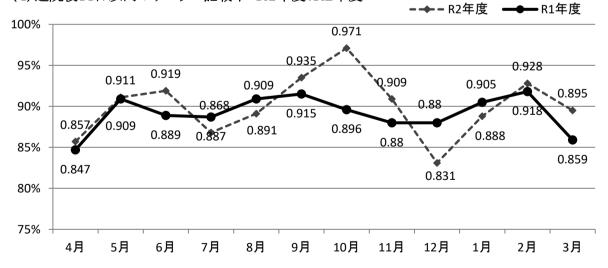
定期報告:退院時サマリー記載率 診療録監査の結果報告

回	開催日	協 議 事 項
1	令和2年5月15日	1.死亡患者登録の手続きについて 2.R2年度質的監査について
2	令和2年7月17日	1.R2年度診療録廃棄について 2.身体抑制患者への同意について
3	令和2年9月17日	診療記録管理規定の改正について
4	令和2年11月26日	1.診療記録管理規定の改正について 2.処方せんについて
5	令和3年1月15日	R3年度質的監査について
6	令和3年3月22日	指導医への研修医記録承認依頼について

(3)活動要約

昨年度から点数制にした質的監査の評価基準を変更し、監査者による差を減らした。 また、研修医サマリ記載率向上のため、研修医・指導医へ記載を促した。

(4) 退院後14日以内のサマリー記載率 R1年度:R2年度



17. 褥瘡対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 褥瘡対策委員会(定例委員会)

第1回委員会(4月17日) 第2回委員会(5月15日) 第3回委員会(6月19日) 第4回委員会(7月17日) 第5回委員会(8月21日) 第6回研修会(9月18日) 第7回委員会(10月16日) 第8回委員会(11月20日) 第9回委員会(12月18日) 第10回委員会(1月15日) 第11回委員会(2月19日) 第12回委員会(3月19日)

(2) 褥瘡対策の体制整備

①褥瘡回診の実施

- ・毎週火曜日14時30分より褥瘡ハイリスク患者・褥瘡回診カンファレンスを開催。その後、 15時より対象患者の褥瘡回診を行っている。
- ・褥瘡回診チームは、褥瘡対策の専任の医師・褥瘡管理者・専任看護師、管理栄養士、 薬剤師、理学療法士、医師事務作業補助者、栄養サポートチームメンバーで構成する。
- ・褥瘡発生状況の把握、要因分析、対策を検討し現場へフィードバックしている。
- ・カンファレンスと褥瘡回診について記録する。

	令和元年度	令和2年度
【院内褥瘡発生数報告】	(平成31年4月1日~令和元年3月31日)	(令和2年4月1日~令和3年3月31日)
院内褥瘡発生数	101 件	94 件
院内褥瘡発生率	1.15%	1.18%

※院内褥瘡発生率 =年間院内褥瘡発生数 / 年間実入院患者数

	令和元年度	令和2年度
【MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)発生数報告】	(平成31年4月1日~令和元年3月31日)	(令和2年4月1日~令和3年3月31日)
MDRPU発生数	73 件	44 件
MDRPU発生率	0.83%	0.55%

[※]MDRPU発生率 =年間MDRPU発生数 / 年間実入院患者数

②褥瘡対策研修会の実施

・(全職員対象)研修会

令和2年7月16日 参加者16名 テーマ「ポジショニング実践研修1回目」 令和2年8月4日 参加者16名 テーマ「ポジショニング実践研修2回目」 令和2年8月17日 参加者16名 テーマ「ポジショニング実践研修3回目」 令和2年9月1日 参加者16名 テーマ「ポジショニング実践研修4回目」

③体圧分散マットレスやポジショニング枕の積極的活用

患者の状態に応じて、褥瘡発生予防に重点を置いた褥瘡対策を実施している。 OHスケールを用いてリスクアセスメントし、対象に適したピュアレックス・ステージア・アドバン・グランデ・エバープラウド・ストレッチフィット等の体圧分散マットレスやピーチ・ミント等のポジショニング枕を併用し、褥瘡発生予防に積極的に取り組んでいる。

④褥瘡ハイリスク患者ケア加算

褥瘡ハイリスク患者ケアとは、褥瘡予防・管理が難しく重点的な褥瘡ケアが必要な患者に対し、適切な褥瘡予防・治療のための予防治療計画に基づく総合的な褥瘡対策を行うことである。

	令和元年度	令和2年度
【算定数報告】	(平成31年4月1日~令和元年3月31日)	(令和2年4月1日~令和3年3月31日)
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	1,096 件	1,066 件

(3)地域貢献

- ・褥瘡チーム(認定看護師1名(褥瘡管理者)、理学療法士2名、看護師1名)が特別養護老人ホームへの定期的な褥瘡ラウンド(褥瘡予防ケアとして)を行っている。
- ・院外施設への褥瘡対策研修会の実施

18. 臨床検査適正化委員会

1. 委員会活動記録

(1)目的

臨床検査に関する管理、運営が適切に実施される事を目的とする。

(2)活動内容

回	開催日	主要案件	新規試薬・診療材料承諾
		令和元年度	血液 全自動血液凝固測定装置用
		秋臨技臨床検査精度管理調査結果	試薬6件
	A		病理 CD21
1	令和2年 5月21日	救急室の検査再検時対応について	CD20
	0)121 H	プロカルシトニンの院内測定について	粘液溶解剤
			微生物 検体輸送容器関連3件
			PCR検体採取関連2件
		外注派遣員常駐体制終了に伴う	微生物 新型コロナウイルスPCR検査試薬
2	7月22日	検査対応の変更について	センシ・ディスク
۷	1万22日	PCR検査機器導入	セフジトレン5/CDN5
		輸血検査機器更新	輸血 輸血検査機器用消耗備品5件
		令和2年度	一般 カルプロテクチン関連3件
		日臨技臨床検査精度管理調査結果	手術室血球計数装置用
3	9月14日	検査項目変更	精度管理試薬
	0/,111	ADAMTS13 インヒビター	スライド血球計算盤2件
		ADAMTS 活性	生化学 生化学自動分析装置用
		NUDT15遺伝子codon139多型解析	定期交換部品
		臨床検査び係る統一基準範囲の	生化学 プロカルシトニン関連3件
		採用について	
4	12月1日	検査項目変更	セルフリーDNA抽出用採血管
	,,	ポリコナゾール	微生物 薬剤感受性測定用試薬2件
		サイトメガロウイルス核酸定量	病理 安心保管ボックス
		RAS遺伝子変異解析	シリカゲル
			微生物 ドライプレート 9DDP44
			スペシメンコンテナミニ
5	令和3年		生化学 ALP IFCC
	2月2日		LD IFCC
			採血室 圧迫止血用パット付絆創膏
		A.T. a bridge	病理 封入剤 マリノール
		令和2年度	一般 尿中乱用薬物試験試薬
		日本医師会制度管理調査結果	微生物 カンジダGS培地
	0 110 11	秋臨技臨床検査精度管理調査結果	CCDA寒天培地
6	3月12日	ALP及びLDHの測定法の変更に係る	ミュラーヒントンS寒天培地
		対応について	
		カルプロテクチン検査開始	血液寒天培地
		尿中乱用薬物試験試薬変更	病理 包埋カセット3件

(3)活動要約

- ・ 令和元年度は臨床検査適正化委員会を 6 回開催した。
- 外部精度管理(日本臨床衛生検査技師会、秋田県臨床衛生検査技師会、日本医師会)に 参加。
- ・ 7/1より凝固検査試薬を、弘前大学病院でも使用している低コストの試薬に変更する。
- ・ 7/6より新型コロナウイルスPCR検査を開始する。
- 7/10の外注派遣員常駐体制終了に伴い、当科技師が引き継いでいるが通常業務と並行して行うため、対応に時間がかかっている。
- 10/6よりプロカルシトニン検査を、院内検査とする。
- ・ 10/13より新型コロナウイルス抗原定量検査を開始する。
- 3/12よりカルプロテクチン検査を、院内検査とする。
- ・ 3/15より尿中乱用薬物試験試薬を変更する。
- ・ ALP、LD測定法が、国からの要請でJSCC法からIFCC法に変更される。
- ・ 4/1より秋田県内の病院と連携して取り組む。

(4)外部精度管理の動向

	令和	12年度	令和;	元年度	平成	30年度	平成:	29年度	平成:	28年度
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
日本臨床衛生検査技師会										
項目数	232		224		211		210		214	
評価 A+B (○)	231	(99.6)	222	(99.1)	207	(98.1)	207	(98.5)	209	(97.7)
評価 C (△)	0		0		1	(0.5)	1	(0.5)	2	(0.9)
評価 D (×)	1	(0.4)	2	(0.9)	3	(1.4)	2	(1.0)	3	(1.4)
秋田県臨床衛生検査技師会										
項目数	143		142		146		138		136	
評価 A+B (○)	142	(99.3)	137	(96.5)	144	(98.6)	134	(97.1)	129	(94.9)
評価 C (△)	0		1	(0.7)	0		0		0	
評価 D (×)	1	(0.7)	4	(2.8)	2	(1.4)	4	(2.9)	7	(5.1)
日本医師会										
項目数	49		49		43		48		48	
総合評点	96.2		95.9		95.1		95.2		96	
評価 D (×)	0		1		0		0		0	

19. 栄養管理委員会

1. 委員会活動記録

	日時	議題	報告事項
第1回	令和2年 5月29日	医師検食簿の記載について	 R2年度 栄養科体制 委託業者の体制 R1年度 栄養指導件数 R2年度 第1回嗜好調査結果 その他
第2回	令和2年 8月31日	_	 R2年度 第2回嗜好調査結果 比内地鶏を使用した給食の提供 全国糖尿病週間行事 その他
第3回		感染性胃腸炎患者の 食器について	 R2年度 第3回嗜好調査結果 栄養科の取り組み その他
第4回	令和3年 2月26日	_	1. R2年度 第4回嗜好調査結果 2. R2年度 嗜好調査まとめ 3. 比内地鶏を使用した給食の提供 4. 感染性胃腸炎患者の食器について 5. R3年度 栄養科体制 6. その他

20. 勤務医負担軽減対策委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

口	開催日	内 容
1	令和2年8月5日	・令和2年度勤務医負担軽減計画の修正について ・令和2年度看護職員に対する負担軽減計画の修正について ・その他

(2)活動要約

- ○令和2年度の勤務医負担軽減計画の見直しと下記項目の追加
 - ・新型コロナウイルス感染症対策に従事した職員に、防疫等作業手当を支給することとした。
 - ・夏季休暇及び年次休暇の取得状況を各科部長及び個人に伝え、休暇取得を周知することとした。
- ○勤務医負担軽減計画の令和2年度実績と令和3年度計画の協議
 - ・患者への入院案内として、4月に患者サポートセンターを設置した。
 - ・秋田大学大学院の「診療看護師(NP)」養成講座に看護師2名が受講中。
- ○看護職員に対する負担軽減計画について
 - ・採血看護師を増やし、午前中の外来の混雑緩和を図った。
 - ・看護補助者の退職者が多いことから、対応策を検討した。

21. 透析液水質確保委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

口	開催日	内 容
1	令和2年4月30日	・委員の確認 ・水質検査報告 ・委員の役割について ・コロナ禍における対応事項につ いて
2	令和2年5月28日	・水質検査報告・今年度の活動計画
3	令和2年7月2日	・水質検査報告 ・透析液全個所検査について ・透析コンソール更新について
4	令和2年7月30日	・全個所水質検査報告 ・透析コンソール3台更新、設置報告 ・供給装置後ETRF「パイロピュアMRC-JT50」新設とデータ改善報告
5	令和2年8月27日	・水質検査報告 ・更新コンソール水質検査について ・ 受水槽・高架水槽定期点検スケジュールについて
6	令和2年9月24日	・水質検査報告 ・ROのETアクションレベルへの対応 ・ 木製受水槽定期点検及び清掃作業報告
7	令和2年10月29日	・水質検査報告 ・ROタンク後サンプルポート消毒効果について ・高架水槽定期点検及び清掃作業報告
8	令和2年11月26日	・水質検査報告 ・透析液供給系装置の更新計画について ・透析関連機器オーバーホールについて
9	令和2年12月24日	・水質検査報告 ・透析関連機器オーバーホール報告 ・ 今後の活動について
10	令和3年1月28日	・水質検査報告 ・SSI電子カルテヒアリング ・SSI電子カルテにおける他部門との連携について
11	令和3年2月25日	・水質検査報告 ・透析液供給装置不具合対応報告 ・透析液供給系装置の老朽化対策について
12	令和3年3月25日	・水質検査報告 ・コンソール不具合対応報告 ・令和2年度の活動まとめ

(2)活動要約

- ・治療に影響が出るような水質汚染や機器トラブルは無く、安全安定の透析医療が提供できた。
- ・例年どおり3台のコンソール更新を行い、オンライン治療の拡大を図った。
- ・全箇所水質検査において、昨年度の設備改善(供給装置後ETフィルタ、供給ラ

イン更新) 効果の維持が確認された。

- ・ROタンク後の水質データの上昇について、サンプルポート管理とROタンクの消毒により改善効果が確認された。
- ・透析液供給装置の不具合があったが、適切な対応により透析治療は中断することなく継続された。
- ・透析液供給装置及びRO装置の老朽化が進んでいるため、更新計画の協議を開始した。

22. がん拠点病院運用会議

1. 緩和ケア研修の開催

「大館市立総合病院緩和ケア研修2020」

 開催場所
 : 大館市立総合病院

 開催日
 : 令和2年11月7日(土)

修了者: 16名(医師・歯科医師 8名、その他8名)

※ 参加者は集合研修前に e ーラーニングによりオンライン学習を 1 日受講

※ 実施・運営は患者サポートセンター及び緩和ケア委員会

2. がん診療市民医学講座

日本消化器学会東北支部市民公開講座

テーマ:「おなかのがんと戦う~消化器がんの最前線~」

開催日 : 令和2年12月13日(土) 14:00~16:00

講演: ①傷の小さな手術(胃)

弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座

室谷 隆裕 先生

②傷の小さな手術(大腸)

弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座

諸橋 一 先生

③内視鏡でできるがんの治療

大館市立総合病院消化器・血液・腫瘍内科

山居 聖典 先生

参加者 : 市民 61名 Zoomミーティングによる参加 12名

3. がん患者就労支援の取組み

令和元年12月24日、大館公共職業安定所と当院の間で「長期療養者就職支援事業実施協定」を締結。

●内容:大館公共職業安定所職員が総合病院に出張し、職業相談を実施する もの。

※「長期療養者就労支援相談会」を月1回実施

4. 図書館連携の取組み

令和元年8月より、大館市立栗盛記念図書館内に「がん情報コーナー」を常設。 がんパンフレット (63種類)、がん関連書籍を展示するブースを設置し、定期 的に補充している。

23. 化学療法放射線治療委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動目的

本院で実施されるレジメンの有効性・安全性について評価し、その登録と管理を行う。化学療法と放射線療法の質と安全性の向上をはかり、適切な治療の実施を推進する。

(2)活動内容

口	開催日	内容
1	令和2年7月9日	・新規レジメン登録について ・フィルター付き輸液セットの変更について ・薬剤師による制吐剤の代行入力について
2	令和2年11月19日	・新規レジメン登録について・血管外漏出マニュアルの改訂について・放射線ケアマニュアル等について

(3)活動要約

令和2年度の化学療法放射線治療委員会は、計2回開催された。各科から申請された新規レジメン、変更レジメン、削除レジメンに関して審議・登録を行った。今年度より放射線療法についても当委員会で担当することとなったため、それに合わせて要綱の改訂を行った。医療安全に配慮し、フィルター付き輸液セットの変更を行った。高度催吐リスクのレジメンでは薬剤師が制吐剤を代行入力できることとし、医師の負担軽減を行った。化学療法や放射線療法関連の院内マニュアルの改訂と周知を行った。

令和2年度新規登録レジメン数

科名	消血腫	小児	外科	産婦	耳鼻	泌尿	脳外	呼外	合計
第1回	7	0	1	0	1	0	0	0	9
第2回	2	0	1	0	2	0	0	3	8

科別登録レジメン数

科名	消血腫	小児	外科	産婦	耳鼻	泌尿	脳外	呼外	合計
登録数	125	1	48	30	15	35	2	41	297

24. がん登録委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

平成21年4月地域がん診療連携拠点病院の指定を受けたことにより、必須事項となった院内がん登録体制の整備と円滑な運用を図る。施設におけるがん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上とがん患者の支援を目指す。

(2) 活動要約

- 1. がん患者の受療状況の把握
- 2. がんに関する統計資料の作成
- 3. 予後調査、生存率の計測(国立がん研究センター「予後調査支援事業」協力)
- 4. 全国がん登録への届出(国立がん研究センター・秋田県がん登録室)
- 5. 院内がん登録全国集計への届出(国立がん研究センター)
- 6. 全国胃癌登録へのデータ提出(日本胃癌学会)
- 7. 国立がん研究センター主催研修会、秋田県がん登録部会、東北がんネットワーク、その他研修会参加

(3)令和2年度委員会開催記録

開催日	内 容				
令和2年12月10日	令和2年度がん登録委員① 2010~2019年がん登録データ報告会② 2013年5大癌5年相対生存率報告				

(4)令和2年度データ提出内容

口	開催日	協議事項	定田什 数	提出先
1	令和2年4月10日	2014-5年予後調査支援事業	122	国立がん研究センター「院内がん登録 室」
2	令和2年5月1日	2013-5.2015-3年予後情報 付データ	661+795	国立がん研究センター「院内がん登録 室」
3	令和2年6月5日	2019年拠点病院全国集計データ (1件あたり99項目登録)	934	国立がん研究センター「院内がん登録 室」
4	令和2年7月3日	2019年全国がん登録データ (1件あたり26項目登録)	934	国立がん研究センター「全国がん登録室」 秋田県がん登録室(秋田県総合保健事業団)
5	令和2年8月7日	2013年全国胃癌登録データ (胃癌 外科症例)	69	日本胃癌学会(胃癌学会の様式に再 入力)
6	令和2年9月4日	2013年全国胃癌登録データ (胃癌 EMR・ESD症例)	26	日本胃癌学会(胃癌学会の様式に再 入力)

※データは年度ではなく通年で抽出している

(5)令和2年度研修会への参加

	開催日	研 修 名 (参加人数)	場所
県内	令和2年9月7日	がん登録実務初級認定者研修(1名)	当院(webサイトにて)
県外	令和2年10月31日	がん登録実務初級認定者更新試験(1 名)	盛岡市(webサイトにて)

(6) 当院のがん登録実務者の認定状況

中級:1名 初級:3名 (がん登録実務 中級1名 初級1名)

25. 緩和ケア委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

緩和ケア委員会が発足し、今年で13年目となる。これまで当委員会では、緩和ケアチーム活動として、各科外来や病棟において緩和ケアラウンド及び緩和ケアカンファレンスを実施し、がん患者や家族が抱える苦痛の緩和を支援してきた。また、院内外の医療従事者や地域住民を対象として、緩和ケアに関する研修会や講演会を実施することで、地域の緩和ケア啓発に努めてきた。さらに、地域住民へ緩和ケアの広報を行うことで、地域の緩和ケア周知に努めてきた。当委員会は、今後も上記の活動を継続するとともに、新たな緩和ケアニーズの開拓を図ることで、当院と地域の緩和ケア発展を目指す。

2. 活動内容

(1)定期委員会

毎月第2木曜日に定期委員会を行う。各委員からの活動報告を通じて情報共有を図るとともに、提案された議題を協議検討した。

I.緩和ケア事例報告

緩和ケアチームの活動状況を委員内で共有するため、定期委員会において緩和ケア認定看護師による事例報告を行った。

Ⅱ. 苦痛のスクリーニング実施報告

がん患者の身体的苦痛や精神的苦痛を早期に拾い上げ、緩和することにつなげる目的として、定期 委員会において苦痛のスクリーニング実施報告を行った。

(2)緩和ケアチームによる患者支援

I.緩和ケアチーム介入

今年度は外来5名、入院14名、計19名(実数)の患者の依頼を受理。身体的なケア、精神的なケア、在宅移行の支援、意思決定支援、家族支援等、様々な症状の緩和を支援した。 また、毎週緩和ケアカンファレンスを行い、支援方法を検討した。

Ⅱ. オピオイド回診

オピオイド使用患者を薬剤師がピックアップし、緩和ケアチームカンファレンスのなかで情報共有することで、チームメンバーそれぞれの立場で各職種にフィードバックした。

(3)緩和ケア研修会の開催・参加

I.大館市立総合病院緩和ケア研修会2020開催

がん診療連携拠点病院の指針に則り、地域の医療従事者向けの研修会を行なった。参加者はe-learningによる事前学習を行い、集合研修は令和2年11月7日(土)に当院第1会議室にて行われた。参加者は16名(医師8名、医師以外8名)であった。講師として大石副院長、佐藤部長、長谷部部長が、また講師・ファシリテーターとして他病院の医師や多数の委員が参加した結果、スムーズに研修会を開催することができた。

Ⅱ. 院内緩和ケア研修会

院内職員の緩和ケアに関する知識向上と情報共有を目的として実施する。

①「人生会議」を学ぼう

医の倫理委員会との共催で「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」の理解を深め、実践していくための研修会を開催した。

日時:7月10日(金)17:30~ 会場:第1会議室

講師 : 当院 神経精神科 部長 佐藤 靖

②Web研修会

日 時:9月10日(木)18:00~ 会場:第2会議室

テーマ:「がん疼痛治療を成功させるための鍵 ~OICをコントロールする~」

Ⅲ. 地域住民向け講演会『もっともっと知ろう緩和ケア2020』活動

現在治療中の患者やその家族を対象とし、緩和ケアをより知っていただくことを目的とした講演会を緩和ケアの専門的知識を有するスタッフが例年実施しているが、今年度はコロナ禍に配慮し、当院3階ギャラリーがんコーナーに資料を掲示し実施した。

①第1回もっともっと知ろう緩和ケア

日時:令和2年12月1日(火)

演題:『緩和ケアって何?』・『家族のつらさを和らげよう』

②第2回もっともっと知ろう緩和ケア

日時:令和2年12月22日(火)

演題:『身体のつらさを和らげよう』・『医療用麻薬って何?』

③第3回もっともっと知ろう緩和ケア

日時:令和3年1月12日(火)

演題:『気持ちのつらさを和らげよう』

④第4回もっともっと知ろう緩和ケア

日時:令和3年2月2日(火)

演題:『リンパ浮腫のケアを知ろう』・『がんリハビリテーションを知ろう』

⑤第5回もっともっと知ろう緩和ケア

日時:令和3年2月22日(月)

演題:『療養における食事を知ろう』・『がん療養における社会保障を知ろう』

⑥第6回もっともっと知ろう緩和ケア

日時:令和3年3月16日(火)

演題:『放射線治療の不安をなくそう』・『化学療法の不安をなくそう』

Ⅳ. 緩和ケア学術講演会

緩和ケア分野における専門家を招き、院内職員、地域の医療従事者等を対象とした学術的な講演会を行う。

(今年度 未実施)

V. 緩和ケア・教育研修部会

県内の苦痛のスクリーニング実施状況の確認等といった継続活動、拠点病院等の緩和ケアチーム間の連携強化を図るといった新規活動について推進を図るため、TVカンファレンスシステムにより行われた年2回の秋田県がん診療連携協議会 緩和ケア・教育研修部会へ出席した。また、緩和ケア・教育研修部会の取り組みとして下記の活動も行った。

①緩和ケアチームTVカンファレンス

当院のTV会議システムの導入に伴い、当院の緩和ケアチームで秋田県緩和ケアチームTVカンファレンスに参加し、毎月症例検討を行った。

②緩和ケアマップの更新

医療者が患者やその家族に対し常に地域の緩和ケア提供体制について情報提供できることを目的として、緩和ケアマップを更新し、秋田大学医学部付属病院を通じて周知できる体制を整えた。

(4) 広報活動について

I. 印刷物による広報活動

緩和ケアポスター、緩和ケアリーフレットを院内に掲示し緩和ケアの広報に努めた。「がんになったら手に取るガイド」を病棟と外来に配置し、緩和ケア普及を目指した。

Ⅱ. その他の広報活動

①緩和ケア研修会修了者の情報公開

緩和ケア研修の修了者を秋田県健康福祉部健康づくり推進課へ報告し、患者へ情報公開できる体制を整えた。

(5)その他の活動について

I. 緩和ケアマニュアルの改訂

今年度、緩和ケアマニュアルの見直し・改訂作業を行った。来年度当初に改訂となる予定。

Ⅱ. 乳房補正用品相談・試着会について

秋田県の「がん患者医療用補正具助成事業」が開始されたことに伴い、実際の製品を見たり、試着 したりする機会を設けるため、乳房補正用品相談・試着会を「ほくしか鹿鳴ホール」で開催した。 令和2年度 相談者実数:1名

Ⅲ. がん患者のための就労相談会について

当院とハローワーク大館とで「長期療養者就労支援事業実施協定」を結び、令和2年1月よりハローワーク大館の専門職員と当院相談員にて就労相談を行う「就労相談会」を、毎月第3火曜日に実施した

た。 令和2年度 相談者実数:2名

26. NST委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動目的

患者さんの栄養評価及び栄養管理と、適切な栄養管理を行うことで合併症の予防や早期 発見及び治療を行い、早期回復と社会復帰をサポートする。

(2) 報告·体制整備

平成25年8月1日付で東北厚生局よりNST加算が受理され、活動を行っている。

NST回診メンバーは、栄養に関する研修を修了した専任医師、専任看護師、専任薬剤師、専任管理栄養士を中心とし、歯科医師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、病棟看護師、管理栄養士等で構成されている。

令和元年7月より歯科医師もカンファレンス・回診に参加し、歯科医師連携加算を算定しており、褥瘡対策委員会とも連携し、褥瘡ハイリスク患者への栄養評価、早期栄養介入を行っている。次年度から摂食機能療法へ取り組むための体制を整えるため、委員会内で勉強会を開催した。

(3) NSTたより発行

毎月NSTたよりを発行し、診療報酬改定、栄養素や栄養の過不足によって起こりうる疾患の対応など情報提供をしている。

2. 委員会活動内容

2. 安只厶口:	2. 安貝云伯凱門谷				
	開催日主な検討内容・勉強会				
第1回	令和2年4月24日	・昨年度活動報告・今年度活動計画 ・4月介入件数・科報告			
第2回	令和2年5月22日	・5月介入件数・科報告 ・NSTたより:精神科病棟 ・栄養サポートチーム加算 改訂について			
第3回	令和2年6月26日	・6月介入件数・科報告・NSTたより:医事課・大塚製薬イノラス紹介(新商品)			
第4回	令和2年7月31日	・7月介入件数・科報告 ・NSTたより:栄養科 ・摂食機能療法勉強会 ①			
第5回	令和2年8月28日	・8月介入件数・科報告 ・NSTたより:薬剤科 ・摂食機能療法勉強会 ②			
第6回	令和2年9月25日	・9月介入件数・科報告 ・NSTたより:リハビリテーション科 ・摂食機能療法勉強会 ③			
第7回	令和2年10月23日	・10月介入件数・科報告 ・NSTたより:5病棟 ・上半期加算件数報告 ・摂食機能療法勉強会 ④			
第8回	令和2年11月27日	・11月介入件数・科報告 ・NSTたより: 臨床検査科 ・摂食機能療法勉強会 ⑤			
第9回	令和2年12月25日	・12月介入件数・科報告 ・NSTたより:6病棟 ・経腸栄養 材料費一覧について			

第10回	令和3年1月22日	・1月介入件数・科報告・NSTたより:7病棟 ・オンライン特別企画:大塚製薬
第11回	令和3年2月26日	・2月介入件数・科報告 ・NSTたより:8病棟 ・摂食機能療法勉強会の続編
第12回	令和3年3月26日	・3月介入件数・科報告 ・NSTたより:9病棟 ・経管栄養チューブ・コネクタについて

3. NST委員会研修会·勉強会等

- 令和2年7月31日 (院内) 【参加26名】 摂食機能療法勉強会①「摂食機能療法について」
- 令和2年8月28日 (院内) 【参加25名】 摂食機能療法勉強会②「スクリーニング検査の手順について」
- 令和2年9月25日 (院内) 【参加17名】 摂食機能療法勉強会 ③「不顕性誤嚥について」
- 令和2年10月23日 (院内) 【参加16名】摂食機能療法勉強会 ④「口腔ケアについて」
- 令和2年11月27日 (院内) 【参加16名】 摂食機能療法勉強会⑤「正しい食事介助の方法について」
- 令和3年1月22日 (院内) 【参加18名】 オンライン特別企画:大塚製薬「要介護者の誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアと食支援のポイント」
- 令和3年2月26日 (院内) 【参加17名】 摂食機能療法勉強会の続編 「肺炎・誤嚥性肺炎について」

4. 令和2年度介入数報告

診療科	介入件数
外科	169
整形外科	40
呼吸器循環器内科	23
内分泌代謝神経内科	47
神経精神科	49
消化器血液腫瘍内科	32
泌尿器科	2
歯科	16
耳鼻科	9
脳外科	4
婦人科	3
合 計	394

栄養サポートチーム加算: 336件、 非加算:58件

歯科医師連携加算:235件

27. クリニカルパス委員会

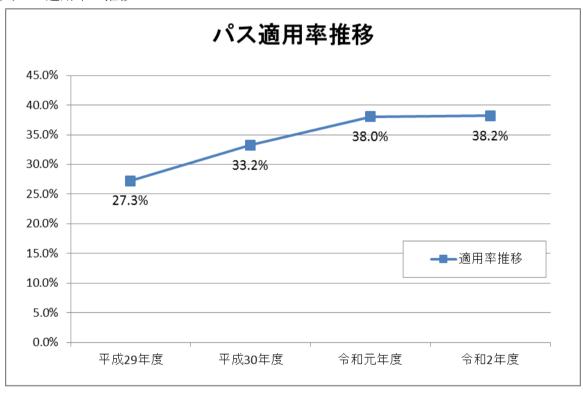
1. 委員会活動記録

(1)委員会(定例委員会)

- ●第1回委員会・・令和2年4月25日
- ●第3回委員会・・令和2年6月27日
- ●第5回委員会・・令和2年8月25日
- ●第7回委員会・・令和2年10月30日
- ●第9回委員会・・令和2年12月26日
- ●第11回委員会・・令和3年2月27日

- ●第2回委員会・・令和2年5月23日
- ●第4回委員会・・令和2年7月25日
- ●第6回委員会・・令和2年9月30日
- ●第8回委員会・・令和2年11月29日
- ●第10回委員会・・令和3年1月30日
- ●第12回委員会・・令和3年3月26日

(2)パス適用率の推移



28. 情報システム運用委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

情報システム運用委員会は、医療情報システム(電子カルテシステム等)の円滑な運用を図るため、病院職員と主たる納入メーカーである富士通担当者で構成され、院内からの要望やメーカーからの提案についての検討を行うことで、より使いやすいものとなることを目指す。

(2) 活動内容

口	開催日	主な検討内容
第62回	令和2年5月19日	・組織再編に伴う医療情報システム担当部署の変更について ・電子カルテの情報閲覧に関する注意喚起
第63回	令和2年6月16日	・外注検査の業者の決定について ・透析装置追加に伴う連携作業について
第64回	令和2年7月21日	・作業停電について ・超音波装置に追加に伴う連携作業について
第65回	令和2年8月18日	・作業停電について・電子カルテシステムレベルアップについて
第66回	令和2年9月15日	・作業停電について・電子カルテシステムレベルアップについて
第67回	令和2年10月20日	・自動精算機の導入について・ラベルプリンタの点検について
第68回	令和2年11月17日	・電子カルテシステムレベルアップについて・自動精算機の導入について
第69回	令和2年12月15日	・自動精算機の導入について ・電子カルテ端末の資源最新化について
第70回	令和3年1月19日	・情報系サーバの更新について ・令和3年の国民の祝日の変更への対応について
第71回	令和3年2月16日	・情報系サーバの更新について ・自動精算機と医事システムの連携について
第72回	令和3年3月16日	・自動精算機の稼働について ・2021年4月医療費改定について

(3)主な活動内容等

- ・令和2年度は委員会を11回開催した(4月は新型コロナウィルス感染の影響により中止)。
- ・医療情報システムの安定稼働のため、院内からの要望や意見等について方針を決定し、 システム対応を行っている。

29. 薬事委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

口	開催日	協議事項
1	令和2年4月23日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について
2	令和2年5月28日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について・医薬情報担当者の訪問規制解除について
3	令和2年6月25日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について
4	令和2年7月30日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について ・ドブトレックスキット点滴静注用600mg:自主回収への対応について ・医薬品情報担当者の一部訪問規制について
5	令和2年9月24日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について ・試用医薬品の結果申請 ・期限切れ廃棄見込み医薬品について ・コメントで先発医薬品調剤を指定している医薬品について
6	令和2年10月22日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について ・当院で一般名処方が可能な医薬品 ・処方時に「後発医薬品変更不可」コメントが自動展開される医薬品一覧
7	令和2年11月26日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について ・医薬品名称に付加している特別表示について:【糖尿】、【眠剤】の削除の 検討 ・新型コロナウイルス治療薬の在庫状況
8	令和3年1月28日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について ・期限切れ廃棄見込み医薬品について ・出荷調整・供給停止中の2製剤について:院外処方への対応に関するお 願い ・後発医薬品使用体制加算について
9	令和3年2月25日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について ・試用医薬品の結果申請 ・外用薬(皮膚外用薬・点眼薬)の後発医薬品切り替え効果について ・電子カルテシステム更新に伴う内服薬の処方箋記載方法標準化について
10	令和3年3月25日	・新規購入,採用区分変更,中止,市販後調査医薬品等について ・抗生物質委員会(2020年3月17日開催)での決定事項の報告 ・3%ヨード染色液(院内製剤)について

(2) 活動要約

- ・令和2年度は薬事委員会を10回開催した。
- ・専門委員会の抗生物質委員会を令和3年3月10日に開催した。 ・期限切れ廃棄見込み医薬品のアナウンスを3回行い利用の促進を図った。 ・令和3年3月の後発医薬品数量割合は85.3%であった。
- ・令和2年3月末の品目数は医薬品総計1878品目であった。
- ・令和3年度も品目数削減、後発医薬品使用促進について継続して取り組んでいきたい。

30. 患者サービス委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

第1回委員会 4月30日、第2回委員会 5月28日、第3回委員会 6月25日、 第4回委員会 7月30日、第5回委員会 8月27日、第6回委員会 9月24日、 第7回委員会 10月22日、第8回委員会 11月26日、第9回委員会 12月24日、 第10回委員会 1月28日、第11回委員会 2月25日、第12回委員会 3月25日

(2)活動要約

① 投書担当

「相談苦情申立/投書等の取扱」手順に定める投書・苦情の受付状況

- ●投書 令和2年4月~令和3年3月 73件(外来ホール・各病棟に投書箱を設置)
- ●苦情 令和2年4月~令和3年3月 17件 (患者サポートセンターで受付)
 - 改善事例 ・感染症対策として、自動精算機、サーモカメラを設置
 - ・外壁の補修、浄水器の修繕、ほか
- ② ボランティア担当

新型コロナウイルス感染予防のため、募集を休止した。 令和2年度登録ボランティア 0名

(3) 外来患者さんアンケート調査の実施

当院に通院する外来患者さんの当院に対する満足度を調査することにより、対患者サービス、接遇、病院機能の向上を図ることを目的として実施した。

○調査日 : 令和2年11月24日~11月30日(平日5日間)

○回収数 : 500枚 (500枚配布中) 回収率100%

○調査結果:集計、分析結果を院長に報告した。

(4)職員向け研修会の実施

・患者接遇研修(メディエーションについて) 令和3年3月26日開催 26名参加 「メディエーション」や「クレーム対応」を通し、コミュニケーションの重要性を学んだ。

31. 地域医療連携推進委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

第1回委員会 4月28日、第2回委員会 5月26日、第3回委員会 6月23日、第4回委員会 7月28日、第5回委員会 8月25日、第6回委員会 9月29日、第7回委員会 10月27日、第8回委員会 11月24日、第9回委員会 12月22日、第10回委員会 1月26日、第11回委員会 2月16日、第12回委員会 3月23日

(2)活動要約

- ①医療従事者・福祉関係者向け勉強会の開催 糖尿病サポーター養成講座基礎コース(全3回)
 - ・第1回 糖尿病サポーター・糖尿病の概念 開催日時:令和2年8月25日(火) 19:00~20:00 開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:23名
 - ・第2回 糖尿病の運動療法、糖尿病の薬物指導 開催日時:令和2年10月27日(火) 19:00~20:30 開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:20名
 - ・第3回 糖尿病の食事指導、糖尿病の生活指導 開催日時:令和2年11月24日(火) 19:00~20:00 開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:23名
- ②大館市立総合病院 患者サポートセンターだよりの発行 発行回数 3回(4月号、7月号、12月号) 発行部数 各360部×3回

32. 医療器材管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

院内における医療器械備品及び診療材料の購入、採用及び管理に関する業務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(2) 活動内容

旦	開催日	協議事項
1	令和2年5月18日	新規診療材料等使用の審議等
2	令和2年8月28日	令和2年の医療機器購入要望の検討
3	令和2年10月19日	新規診療材料等使用の審議等
4	令和2年11月16日	新規診療材料等使用の審議等
5	令和2年12月21日	翌年度医療機器購入要望の検討①(一覧の説明等) 新規診療材料等使用の審議等
6	令和3年1月6日	翌年度医療機器購入要望の検討②(各部署ヒアリング①)
7	令和3年1月8日	翌年度医療機器購入要望の検討③(各部署ヒアリング②)
8	令和3年1月18日	翌年度医療機器購入要望の検討④(各部署ヒアリング③)
9	令和3年1月27日	翌年度医療機器購入要望の検討⑤(各部署ヒアリング④)
10	令和3年1月29日	翌年度医療機器購入要望の検討⑥(各部署ヒアリング⑤)
11	令和3年2月15日	翌年度医療機器購入要望の検討⑦(ヒアリング結果について)
12	令和3年3月9日	翌年度医療機器購入要望の検討®(最終案について) 新規診療材料等使用の審議等

33. 保険診療委員会

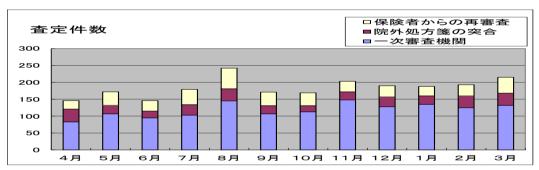
1. 委員会活動記録

保険診療委員会は、適正な診療報酬請求業務を行うため、各月ごと年間12回開催している。委員会では査定を受けた各診療行為について調査・分析を行い、主治医に対し査定情報を還元している。

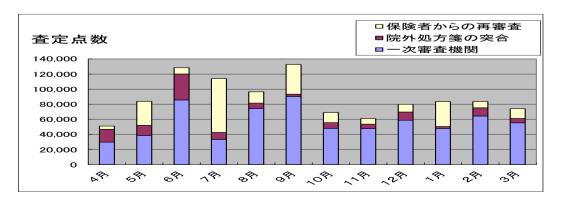
令和2年度における査定点数の合計は、2,214件、1,056,938点となり前年比298件の減、237,323点の減となった。うち一時審査機関による査定は、1,241件、673,838点、院外処方の突合査定は、341件、128,143点、保険者による査定は、452件、254,957点となった。また、再審査請求の可否についても本委員会で判断し、主治医へ再審査請求書の作成を依頼している。

令和2年度に報告を受けた再審査の結果は、復活したものが15件、191,939点、原審どおりとなったものが26件、28,370点となった。

件数	一次審査機関		院外処方			客查	査定合計	
	医学的査定	事務的査定	合計	箋の突合	国保	社保	合計	且た口前
4月	49	34	83	38	15	10	25	146
5月	61	46	107	25	17	23	40	172
6月	55	40	95	20	15	16	31	146
7月	62	41	103	31	15	30	45	179
8月	99	46	145	36	28	33	61	242
9月	67	40	107	24	14	26	40	171
10月	74	39	113	18	15	23	38	169
11月	80	68	148	24	9	22	31	203
12月	75	53	128	29	16	17	33	190
1月	100	35	135	25	8	20	28	188
2月	84	41	125	35	17	16	33	193
3月	97	35	132	36	16	31	47	215
合計	903	518	1,421	341	185	267	452	2,214



点数	一次審査機関		院外処方 保障		険者からの再審査		査定合計	
	医学的査定	事務的査定	合計	箋の突合	国保	社保	合計	且足口引
4月	22,899	6,858	29,757	17,006	3,301	986	4,287	51,050
5月	23,548	14,948	38,496	13,519	12,456	19,277	31,733	83,748
6月	74,399	11,257	85,656	34,428	3,195	5,084	8,279	128,363
7月	25,533	7,898	33,431	9,092	2,784	68,637	71,421	113,944
8月	49,085	25,360	74,445	7,093	4,822	10,031	14,853	96,391
9月	84,559	5,520	90,079	3,244	2,065	37,253	39,318	132,641
10月	36,148	11,850	47,998	7,653	2,430	10,971	13,401	69,052
11月	32,514	15,191	47,705	5,893	748	6,651	7,399	60,997
12月	23,611	35,193	58,804	10,878	1,966	8,212	10,178	79,860
1月	24,438	23,220	47,658	2,739	23,164	9,793	32,957	83,354
2月	46,266	18,115	64,381	10,900	3,253	4,975	8,228	83,509
3月	47,728	7,700	55,428	5,698	4,300	8,603	12,903	74,029
合計	490,728	183,110	673,838	128,143	64,484	190,473	254,957	1,056,938



34. 広報委員会

1. 委員会活動記録

- (1) 活動目的
 - ①「病院ホームページ」の運営、企画、内容に関するすべての事項の審議
 - ②「病院広報紙(おおだて病院だより)」の企画に関する審議(広報内容の審議は「広報誌編集委員会」で行う。)
 - ③ その他、広報一般に関わることの審議であり、隔月で開催。

(2) 活動内容

口	開催日	協議事項
1	令和2年6月2日	・ホームページについて 担当する主な業務(外来のご案内)、臨床研修医募集(医療関係の皆さんへ)、アクセス件数等 ・病院広報について (第31号編集日程等)
2	令和2年7月31日	・ホームページについて 看護師紹介(看護部)、X線検査室・薬剤科(病院概要)、お見舞いと付き添い(入院のご案内)、アクセス件数等・病院広報について (第31号発行報告等)
3	令和2年9月16日	・ホームページについて 看護部通信(看護部)、お知らせ欄、アクセス件数等 ・病院広報について (第32号編集日程等)
4	令和2年10月21日	・病院広報について (第32号掲載内容の決定等)
5	令和2年11月2日	・病院広報について (第32号掲載内容の確認等)
6	令和3年1月25日	・ホームページについて 病院指標、経営改革プラン(経営情報)、看護部通信(看護部)、アクセス件 数等・病院広報について (第33号編集日程等)
7	令和3年3月1日	・病院広報について (第33号掲載内容の決定等)
8	令和3年3月12日	・病院広報について (第33号掲載内容の確認等)

(3) 活動要約

- ○ホームページに関する事項
 - (1)病院ホームページの更新や、掲載内容について検討を行う。
 - (2)委員からの意見・要望について管理委託業者へ依頼する。
- ○病院広報誌に関する事項
 - (1)令和2年8月 第31号発行

主な記事 総合: (特集)新型コロナウイルス感染症、臨時駐車場開設、皆さんの善意、 食事で免疫力を上げよう

扇田:外来診療費着服事件の対応状況

(2)令和2年12月 第32号発行

主な記事 総合: 患者サポートセンターです、レスパイト入院をご利用ください、食事と運動 扇田: 面会制限ご協力のお願い

(3)令和3年4月 第33号発行

主な記事 総合:新型コロナウイルス感染症への対策、患者さんの声、血管撮影装置更新扇田:夕やけ診療診察日の変更、栄養科紹介

35. 救急室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

第1回委員会···4月23日、第2回委員会···5月28日、第3回委員会···6月25日 第4回委員会···7月30日、第5回委員会···8月27日、第6回委員会···9月24日 第7回委員会···10月22日、第8回委員会···11月26日、第9回委員会···12月24日 第10回委員会···1月28日、第11回委員会···2月25日、第12回委員会···3月25日

(2)活動要約

① 研修会「院内急変時の対応について」

コードブルーへの対応、METの役割等について理解することを目的に研修を実施した。

日時: 7月17日(月)17:30~ 講師:救急室長 丹代 諭、対象:医師·看護師、参加者:45名

② BLS·AED研修

BLSとAEDの知識と技術、バックバルブマスクの使用方法の取得を目的として研修を実施した。

- ・10/8、10/15、10/22、10/29 計4回 参加者合計50名に修了証を発行した。
- •講師-看護師3名 臨床工学技師3名
- ③ MET (蘇生専門チーム) 打合せ・MET訓練
 - ・5/12METメンバーによる打合せを開催。役割、活動手順について確認した。
 - •5/19METメンバーが参加し、院内外で意識不明等の急変が発生した際の救急対応訓練を行った。

36. 図書室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

回	開催日	内 容
1	令和3年3月30日	・図書の購入状況について・各部署における図書・雑誌の管理について・その他

(2)活動要約

- ・オンライン検索システムの操作手順作成と活用方法などの周知 (オンライン検索システム:メディカルオンライン、MEDLINE、UpToDate、医学中央雑誌Web)
- ・図書購入費の予算と図書の購入状況(令和2年度は全部で508冊(購入額: 7,906,980円)の図書を購入)について協議、オンライン検索システムを充実。
- ・図書室は24時間誰でも利用できるので、各部門に有効活用するよう呼びかける。
- ・各部署での蔵書の在庫確認及び整理、利用促進を呼びかけてほしい。

37. 手術室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

手術室の適正な運営と安全管理体制の確立。

(2) 活動内容

口	開催日	協議事項
1	令和2年5月26日	・前月の手術件数、全麻件数の報告(定例報告事項) ・前月のインシデントレポート報告(定例報告事項) ・夏休みについて ・手術室の勤務体制と手術日の確認について ほか
2	令和2年6月23日	・定例報告・7.8月の勤務体制と夏休みについて ほか
3	令和2年7月28日	・定例報告 ・夏休みと手術室の調整について ほか
4	令和2年9月29日	・定例報告・掲示板に関するインシデントについて ほか
5	令和2年10月27日	・定例報告ほか
6	令和2年11月24日	・定例報告ほか
7	令和2年12月22日	・定例報告・感染症検査のスパンについて・日程調整について ほか
8	令和3年1月26日	・定例報告・年度末の全麻について ほか
9	令和3年3月23日	・定例報告 ・年度末、夏休みの全麻について ほか

【令和2年度手術件数】

全身麻酔: 928件(うち全麻+硬膜外3件)

局所麻酔: 138件

合計 1,066 件

38. ME室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和2年5月20日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・新型コロナウイルス対策について
2	令和2年7月15日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・ME機器トレーニングラボについて
3	令和2年9月16日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・透析室新型コロナウイルス対策開始 ・ECMO講習会出席
4	令和2年11月18日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・新型コロナ入院患者へのME機器使用について
5	令和3年1月20日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・紫外線照射ロボット運用体制について
6	令和3年3月17日	・血液浄化業務及びME室業務報告 ・ME室名称変更について ・循環器業務について

- ・人工透析室ME情報紙「透析ME」の定期発行及び院内拡大版発行
- ・透析室での新型コロナウイルス感染症対策の実施
- ・コロナ禍でのME機器トレーニングラボ開催について
- ・新型コロナウイルス感染患者の入院対応
- ・環境殺菌消毒のための紫外線照射ロボット運用
- ・循環器業務への対応検討

39. 教育委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動内容

回	開催日	内 容
1	令和3年3月24日	・令和元年度の研修会実施報告及び令和3年度の研修会開催計画について・その他

(2)活動要約

- ・令和元年度の研修実績と、令和3年度の研修計画について調査し、内容を協議した。
- ・全職員対象研修の出席率を高めるための協議をした。
- ・施設基準加算対象研修について内容を確認した。

40. 機能評価委員会

1. 委員会活動記録

- (1)活動目的
 - ① 医療機能全般にわたる認定期間中の質の維持・改善に関すること
 - ② 医療機能各領域の自己評価に関すること
 - ③ その他、医療機能評価全般についての重要事項に関すること

(2)委員会活動内容

月日	回数	主な検討内容
令和3年3月29日	第1回	・職員満足度調査の結果について ・前回指摘事項の改善状況について ・次回審査までのスケジュール

(3)日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査結果

前回審査を行った日 2017年8月24~25日

· 認定番号 第JC1891-2号

・ 主たる機能 一般病院2

• 副機能 精神科病院

. 機能種別版評価項目

3rdG

Ver.1.1

· 認定期間 2018年1月18日~2023年1月17日

• 認定団体 公益財団法人 日本医療機能評価機構

認定回数 2回

(4)期中の確認に関する事項

· 書類提出期限 2020年1月

・ 確認方法 自己評価実施シート(様式1)

·各項目の自己評価S~C(必須)

・各項目に関する現状報告(S及びAは任意、B

及びCは必須)

質改善活動事例報告(様式2)

・質改善のために行った活動内容と成果ほか(任

意)

41. 排泄ケア委員会

1. 委員会活動記録

(1)排泄ケア委員会(定例委員会)

第1回委員会(5月1日) 第2回委員会(7月3日) 第3回委員会(9月4日) 第4回委員会(11月6日) 第5回委員会(1月8日) 第6回委員会(3月5日)

- (2)排泄ケアの体制整備
 - ①排泄ケア研修会の実施
 - ·(院内職員対象)研修会
 - ○ストーマケアチーム主催

令和2年7月2日 参加者15名 テーマ「ストーマケアマニュアルについて」 令和2年9月3日 参加者15名 テーマ「ストーマケアについて」

○排尿自立チーム主催

開催回数8回 参加者延べ66名

テーマ「排尿自立支援について〜病棟看護師の果たすべき 役割〜」

②人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

人工肛門・人工膀胱造設術前処置とは、人工肛門等造設後の合併症等の予防のため、 術前の画像診断や触診等により、腹直筋の位置を確認した上で、適切な造設部位に術 前に印をつけるなどの処置を行うことをいう。人工肛門又は人工膀胱のケアに従事した経 験を5年以上有する看護師等であって、人工肛門又は人工膀胱のケアにかかる適切な研 修を終了したものが、手術を実施する医師とともに、術前に実施した場合に算定する。

当院では上記に該当する看護師が6名いる他、日本ストーマ排泄リハビリテーション学会のストーマ認定士である医師1名、看護師1名がおり、ストーマ認定施設となっている。

	令和元年度	令和2年度
【算定数報告】	(平成31年4月1日~令和2年3月31日)	(令和2年4月1日~令和3年3月31日)
人工肛門•人工膀胱造設術前処置加算	30 件	17 件
ストーマ処置(1個、2個以上の合計)	1,079 件	1,102 件

③排尿自立指導料

排尿自立指導とは、排尿に関するケアに係る専門的知識を有した多職種からなるチーム (以下、排尿ケアチーム)を設置し、当該患者の診療を担う医師、看護師等が、排尿ケアチームと連携して、当該患者の排尿自立の可能性及び下部尿路機能を評価し、排尿誘導等の保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせるなど、下部尿路機能の回復のための包括的なケアを行うことをいう。排尿ケアチームが当該患者の状況を評価するなどの関与を行うと共に、病棟の看護師等が、包括的排尿ケアの計画に基づいて患者に対し直接的な指導・援助を実施した場合に算定する。

	令和元年度	令和2年度
【算定数報告】	(平成31年4月1日~令和2年3月31日)	(令和2年4月1日~令和3年3月31日)
排尿自立指導料	238 件	245 件

42. 呼吸ケアサポートチーム委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

呼吸ケアの向上と人工呼吸器からの早期離脱・安全管理、病院スタッフへの呼吸ケアに関する助言・教育・標準化を目的として設置する。

(2) 活動内容

口	開催日	協議事項
1	令和2年4月10日	・人工呼吸器装着患者について(定期報告事項) ・インシデントレポート報告(定期報告事項) ・ME室情報、呼吸療法認定士より(定期報告事項) ・RST研修会・勉強会の進行状況について ほか
2	令和2年5月1日	・定期報告 ・口腔ケアマニュアル《案》について ほか
3	令和2年6月5日	・定期報告 ・人工呼吸器離脱プロトコル《案》について ほか
4	令和2年7月3日	・定期報告・RST研修会について ほか
5	令和2年8月7日	・定期報告 ・気管挿管している患者の口腔ケアマニュアル《案》について ほか
6	令和2年9月4日	・定期報告・誤嚥性肺炎勉強会について・RST介入依頼《案》について ほか
7	令和2年10月2日	・定期報告 ほか
8	令和2年11月6日	・定期報告 ほか
9	令和2年12月4日	・定期報告 ・アンカーファストの使用基準《案》について ほか
10	令和3年1月8日	・定期報告・RST委員会フローチャートについて・口腔ケアマニュアルについて ほか
11	令和3年2月5日	・定期報告・RST委員会フローチャートについて ほか
12	令和3年3月5日	・定期報告・口腔ケアマニュアルについて・来年度の活動予定について ほか

(3) 活動要約

専任の医師・看護師等からなるRSTコアチームを設置し、入院患者の人工呼吸器管理(人工呼吸器装着患者の安全管理、合併症予防、人工呼吸器離脱計画、呼吸リハビリテーション)を行なう。

- ・各部署における人工呼吸器装着患者の情報交換
- ・人工呼吸器に関するインシデントレポート報告、情報共有
- ・ME室、呼吸療法認定士からの情報
- ・呼吸ケア・人工呼吸器に関する勉強会およびマニュアル作成について計画・実施

2.呼吸ケアチーム加算

呼吸ケアチーム加算は、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生 局長等に届け出た保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める患者に対して、当該保健医 療機関の保険医、看護師、臨床工学技士、理学療法士等が共同して、人工呼吸器離脱のために必 要な診療を行なった場合に、当該患者について、週1回に限り所定点数に加算する(150点)。

当院では、平成30年6月に届け出、7月より算定を開始する。

IV. 臨床統計

1. 年度別患者数

(入院)

年度	入院延べ患者数	1日平均 入院患者数	前年比較	対前年比率
平成28年度	110,408	302.5	▲ 3,911	96.6%
平成29年度	104,806	287.1	▲ 5,602	94.9%
平成30年度	107,000	293.2	2,194	102.1%
令和元年度	105,366	287.9	▲ 1,634	98.5%
令和2年度	95,373	261.3	▲ 9,993	90.5%

(外来)

年度	外来延べ患者数	1日平均 外来患者数	前年比較	対前年比率
平成28年度	230,467	948.4	▲ 3,804	98.4%
平成29年度	229,986	942.6	▲ 481	99.8%
平成30年度	237,417	973.0	7,431	103.2%
令和元年度	238,672	994.5	1,255	100.5%
令和2年度	226,760	933.2	▲ 11,912	95.0%

2. 診療科別·月別外来患者数(新患·再来計)

単位:人	前年 比較	▲ 1,235	▲ 3,125	21	▲ 1,166	▲ 2,514	▲ 181	226 ▼	▲ 949	▶ 946	▲ 1,285	€82 ▼	1,234	▲ 11,912
-	前年度	19,870	19,889	19,574	21,214	20,763	19,929	21,203	18,733	20,179	19,284	17,858	20,176	238,672
	1111111	18,635	16,764	19,595	20,048	18,249	19,748	20,226	17,784	19,233	17,999	17,069	21,410	226,760
	歯科口 腔外科	625	512	610	657	621	089	713	589	604	699	661	852	7,787
	呼吸器 外科	327	279	349	315	305	317	338	279	320	305	288	337	3,759
	麻酔科	10	2	14	13	9	11	19	15	15	15	6	8	142
	放射線 科	351	349	325	290	224	410	337	138	187	220	199	270	3,300
	脳神経 外科	487	411	516	490	393	546	538	454	503	498	407	585	5,828
	皮膚科	1,104	994	1,263	1,251	1,373	1,224	1,234	1,007	1,151	666	1,014	1,287	13,901
	泌尿器 科	2,198	2,008	2,284	2,349	2,167	2,327	2,307	2,106	2,317	2,238	1,966	2,470	26,737
	整形外科	2,144	1,930	2,257	2,392	2,109	2,263	2,268	2,078	2,327	2,240	2,229	2,793	27,030
	耳鼻 咽喉科	584	553	573	627	299	299	626	582	277	524	481	673	7,056
	眼科	928	879	1,015	962	872	915	930	784	928	715	733	068	10,551
	産婦人 科	1,333	1,146	1,416	1,465	1,340	1,443	1,558	1,419	1,366	1,238	1,206	1,419	16,349
	外科	1,042	916	1,126	1,014	996	1,134	1,153	1,005	1,080	1,048	948	1,285	12,717
	神経 精神科	1,315	1,147	1,349	1,436	1,266	1,321	1,406	1,271	1,365	1,269	1,226	1,468	15,839
	小児科	730	738	802	851	908	829	892	785	874	828	745	1,014	9,894
I	内代神	2,086	1,779	2,007	2,131	1,876	1,999	2,077	1,959	2,077	1,933	1,840	2,116	23,880
OT-7	消血腫	2,228	2,023	2,438	2,443	2,137	2,470	2,569	2,130	2,343	2,116	2,017	2,615	27,529
原 ロ 数	呼循内	1,143	1,093	1,251	1,362	1,189	1,202	1,261	1,183	1,199	1,150	1,100	1,328	14,461
的煤	科別 診療月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	R2.8月	R2. 9月	R2. 10月	R2. 11月	R2. 12月	R3. 1月	R3. 2月	R3. 3月	1

▲ 61.3

994.5

933.2

32.0

15.5

9.0

13.6

24.0

57.2

110.0

111.2

29.0

43.4

67.3

52.3

65.2

40.7

98.3

113.3

59.5

1日当たりの 外来患者数

19,889.3

648.9 18,896.7

313.3

11.8

275.0

485.7

1,158.4

2,228.1

2,252.5

588.0

879.3

1,362.4

1,059.8

1,319.9

824.5

1,990.0

2,294.1

1,205.1

1月当たりの 外来患者数

3. 診療科別外来患者数(新患)

ار		4	6	6	23	L	65	86	26	.5	14	51	80	4	i i	гĊ	2.
単位:人	前年 比較	▲ 394	▲ 459	▲ 119	▲ 252	▲ 597	▲ 133	6 ◀	6 ◀	▲ 172	▲ 204	2	∞	▲ 2,394		▲ 199.5	▲ 10.7
<i>7</i>	前年度	1,302	1,384	1,246	1,400	1,749	1,345	1,311	1,131	1,325	1,241	1,102	1,151	15,687		1,307.3	65.4
	11111111	806	925	1,127	1,148	1,152	1,212	1,213	1,034	1,153	1,037	1,153	1,231	13,293		1,107.8	54.7
	歯科口 腔外科	78	61	83	84	73	93	06	89	84	62	84	102	626		81.6	4.0
	呼吸器 外科	11	10	15	12	20	13	15	12	17	6	17	4	155		12.9	9.0
	麻酔科	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2		0.2	0.0
	放射線 科	14	16	8	9	6	19	8	9	9	9	9	8	112		9.3	0.5
	脳神経 外科	29	48	47	37	26	52	20	20	46	44	46	57	532		44.3	2.2
	皮膚科	85	87	123	118	165	101	107	89	06	88	06	120	1,242		103.5	5.1
	泌尿器 科	25	27	37	34	36	37	34	34	40	34	40	38	416		34.7	1.7
	整形外科	54	93	84	94	88	83	93	85	109	93	109	93	1,078		8.68	4.4
	耳鼻 咽喉科	42	45	28	62	74	72	99	0.2	36	29	36	83	703		58.6	2.9
	眼科	22	26	34	42	43	22	25	18	28	18	28	25	331		27.6	1.4
	産婦人 科	154	121	177	201	164	186	210	178	173	154	173	195	2,086		173.8	8.6
	外科	45	30	42	53	65	81	69	53	89	29	89	28	691		57.6	2.8
	神経 精神科	21	16	30	24	12	23	26	15	13	23	13	22	238		19.8	1.0
	小児科	156	175	199	173	174	188	210	172	216	162	216	200	2,241		186.8	9.2
Ш	内代神	43	35	37	42	49	45	48	52	22	42	22	49	552		46.0	2.3
243	消血腫	92	82	105	104	106	138	106	96	96	101	96	110	1,216		101.3	5.0
日日数	呼循内	53	53	47	62	47	69	99	29	92	99	92	29	719		6.63	3.0
診療日	科別 診療月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	R2.8月	R2. 9月	R2. 10月	R2. 11月	R2. 12月	R3.1月	R3. 2月	R3. 3月	수計		1月当たりの 外来患者数	1日当たりの外来患者数

4. 診療科別外来患者数(再来)

単位:人	前年比較	▲ 841	▶ 2,666	140	▲ 914	▲ 1,917	▲ 48	879 ▼	▼ 852	▲ 774	▲ 1,081	▶ 840	1,154	▶ 9,518	▲ 793.2
黒	前年度	18,568	18,505	18,328	19,814	19,014	18,584	19,892	17,602	18,854	18,043	16,756	19,025	222,985	18,582.1
	1111111	17,727	15,839	18,468	18,900	17,097	18,536	19,013	16,750	18,080	16,962	15,916	20,179	213,467	17,788.9
	歯科口 腔外科	547	451	527	573	548	287	623	521	520	584	277	750	808,9	567.3
	呼吸器 外科	316	269	334	303	285	304	323	267	303	296	271	333	3,604	300.3
	麻酔科	10	2	13	13	2	11	19	15	15	15	6	8	140	11.7
	放射線 科	337	333	317	284	215	391	329	132	181	214	193	262	3,188	265.7
	脳神経 外科	458	363	469	453	367	494	488	404	457	454	361	528	5,296	441.3
	皮膚科	1,019	206	1,140	1,133	1,208	1,123	1,127	939	1,061	911	924	1,167	12,659	1,054.9
	泌尿器 科	2,173	1,981	2,247	2,315	2,131	2,290	2,273	2,072	2,277	2,204	1,926	2,432	26,321	2,193.4
	整形 外科	2,090	1,837	2,173	2,298	2,021	2,180	2,175	1,993	2,218	2,147	2,120	2,700	25,952	2,162.7
	耳鼻 咽喉科	542	208	515	292	525	585	260	512	541	465	445	290	6,353	529.4
	眼科	906	853	981	920	829	893	902	992	006	269	202	865	10,220	851.7
	産婦人 科	1,179	1,025	1,239	1,264	1,176	1,257	1,348	1,241	1,193	1,084	1,033	1,224	14,263	1,188.6
	外科	266	988	1,084	961	901	1,053	1,084	952	1,012	686	880	1,227	12,026	1,002.2
	神経 精神科	1,294	1,131	1,319	1,412	1,254	1,298	1,380	1,256	1,352	1,246	1,213	1,446	15,601	1,300.1
	小児科	574	563	603	829	632	641	682	613	658	999	529	814	7,653	637.8
Ш	内代神	2,043	1,744	1,970	2,089	1,827	1,954	2,029	1,907	2,022	1,891	1,785	2,067	23,328	1,944.0
243	消血腫	2,152	1,941	2,333	2,339	2,031	2,332	2,463	2,034	2,247	2,015	1,921	2,505	26,313	2,192.8
日日数	呼循内	1,090	1,040	1,204	1,300	1,142	1,143	1,205	1,126	1,123	1,084	1,024	1,261	13,742	1,145.2
診療日	科別 診療月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	R2.8月	R2.9月	R2. 10月	R2. 11月	R2. 12月	R3.1月	КЗ. 2Я	R3.3A	수計	1月当たりの 外来患者数

▶ 50.6

929.1

878.5

28.0

14.8

9.0

13.1

21.8

52.1

108.3

106.8

26.1

42.1

58.7

49.5

64.2

31.5

0.96

108.3

56.6

1日当たりの 外来患者数

5. 診療科別時間外·休日受付入院患者数

神 経精神神		外科	産婦人 科	眼科	耳 鼻咽喉科	整形外科	泌尿器 科	皮膚科	脳神経外 科	放射線科	内代神	呼吸器外 科	歯科口 腔外科	11111111
. ,		1 5	2	0	2	7	2	0	15	0	3	2	0	73
7	7	8	4	0	2	11	8	0	22	0	6	2	0	106
4	4	6	5	0	1	10	7	0	15	1	5	5	0	90
2	2	13	11	0	3	6	5	0	14	0	9	2	0	102
3	3	10	1	0	4	7	12	0	6	0	5	2	0	91
4	4	19	2	0	8	8	9	0	20	0	2	2	0	66
5	2	2	4	0	2	13	13	0	21	0	5	4	0	102
1	1	11	7	0	0	16	6	0	17	0	4	4	0	91
1	1	10	2	0	3	14	11	0	16	0	7	5	0	107
1	1	9	2	0	4	20	12	0	7	0	3	1	0	100
2	2	∞	2	0	9	7	6	0	15	0	6	7	0	94
3	3	8	2	0	2	11	10	0	24	0	7	4	0	98
34 1		109	44	0	35	133	104	0	195	1	62	40	0	1,153
	ļ													
2.8		1.	3.7	0.0	2.9	11.1	8.7	0.0	16.3	0.1	5.2	3.3	0.0	96.1
0.1		0.3	0.1	0.0	0.1	0.4	0.3	0.0	0.5	0.0	0.2	0.1	0.0	3.2

6. 診療科別時間外·休日受付外来患者数

科別診療月	呼循内	消血腫	小児科	神 経精神科	外科	産婦人 科	眼科	耳 鼻 咽喉科	整形外 科	泌尿器 科	皮膚科	脳神経 外 科	放射線科	内代神	呼吸器 外 科	歯科口 腔外科	111111
R2. 4月	54	62	32	7	17	37	2	46	22	22	12	47	0	3	13	3	422
R2. 5月	71	73	63	21	29	38	15	54	101	34	18	29	0	9	15	3	809
R2. 6月	34	73	40	23	21	29	9	42	22	28	14	22	1	2	17	3	477
R2. 7月	38	83	25	15	27	44	11	49	96	26	28	36	0	6	20	2	536
R2.8月	49	93	19	22	31	42	16	23	81	48	22	28	0	2	18	2	601
R2. 9月	36	91	38	16	44	43	4	09	85	30	26	70	0	2	14	0	257
R2. 10月	43	22	51	18	15	35	9	40	92	41	15	09	0	2	16	3	499
R2. 11月	20	81	22	13	28	23	7	43	92	44	9	49	0	20	9	2	470
R2. 12月	57	88	34	13	32	18	10	44	78	32	12	48	0	28	10	3	511
R3. 1月	54	78	20	6	27	40	2	09	83	54	14	37	0	19	6	2	531
R3. 2月	35	77	43	8	26	22	8	31	29	32	12	20	0	15	8	3	437
R3. 3月	54	89	38	8	21	25	9	38	9	38	11	29	0	14	2	2	454
14日	575	943	515	175	318	396	66	022	942	446	225	909	1	131	153	28	6,103
1月当たりの 外来患者数	47.9	78.6	42.9	14.6	26.5	33.0	8.3	45.8	78.5	37.2	18.8	50.5	0.1	10.9	12.8	2.3	508.6
1日当たりの外来患者数	1.6	2.6	1.4	0.5	6.0	1.1	0.3	1.5	2.6	1.2	9.0	1.7	0.0	0.4	0.4	0.1	16.7

7. 診療科別入院患者取扱状況

単位:人	計 比較	▲ 1,533	▲ 2,684	▲ 1,001	▶ 950	▲ 2,056	▲ 974	▲ 226	▲ 258	▲ 221	120	▶ 587	377	▲ 9,993			
·mΓ.	前年度	9,022	9,467	8,736	9,108	9,136	8,805	8,536	8,789	8,553	8,233	8,330	8,651	105,366			
	11111111	7,489	6,783	7,735	8,158	7,080	7,831	8,310	8,531	8,332	8,353	7,743	9,028	95,373	105,366	▲ 9,993	100.0
	歯科口腔 外科	28	31	82	87	49	23	24	99	38	47	53	09	278	672	▶ 94	9.0
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	呼吸器 外 科	251	286	319	381	233	263	261	374	326	232	296	350	3,572	4,422	▼ 850	3.8
	脳神経 外 科	780	790	634	009	343	314	540	734	662	692	639	770	7,498	6,947	551	7.9
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	泌尿器科	564	536	521	542	452	540	580	617	266	503	532	637	6,590	6,621	▲ 31	6.9
	整形外科	1,105	830	1,080	1,477	1,272	1,414	1,724	1,682	1,613	1,788	1,568	1,572	17,125	17,686	▲ 561	18.0
	耳 鼻 咽喉科	173	181	218	177	212	239	229	154	140	210	196	228	2,357	2,409	▲ 52	2.5
	眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,623	▲ 1,623	0.0
	産婦人科	829	664	743	289	683	627	750	689	718	661	469	263	7,912	9,438	▲ 1,526	8.3
	外科	860	801	920	916	892	941	1,027	1,028	835	933	825	1,016	10,994	12,378	▲ 1,384	11.5
	神 経精神科	199	702	633	717	692	804	785	855	989	744	868	962	9,172	10,596	▲ 1,424	9.6
	小児科	49	78	138	157	135	117	86	85	120	70	119	223	1,377	2,223	▲ 846	1.4
	内代神	418	207	302	276	263	261	231	349	381	278	349	406	3,721	4,597	▶ 876	3.9
(365日)	消血腫	1,410	1,184	1,575	1,726	1,357	1,713	1,626	1,555	1,774	1,710	1,442	1,662	18,734	17,480	1,254	19.6
診療日数	呼循内	532	493	220	415	497	275	447	353	473	485	357	546	5,743	8,274	▲ 2,531	6.0
	科別影療月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	R2.8月	R2. 9月	R2. 10月	R2. 11月	R2. 12月	R3. 1月	R3. 2月	R3. 3月	+==	前年度同期累計	比較増減	科構成 %

8. 診療科別外来患者取扱状況 診療日数 (243日)

単位:人	斯 比較	▲ 1,235	▲ 3,125	21	▲ 1,166	▲ 2,514	▲ 181	₹ 977	▶ 949	▶ 946	▲ 1,285	■ 789	1,234	▲ 11,912	95.0%		
漸	前年度	19,870	19,889	19,574	21,214	20,763	19,929	21,203	18,733	20,179	19,284	17,858	20,176	238,672	前年比		
	1111111	18,635	16,764	19,595	20,048	18,249	19,748	20,226	17,784	19,233	17,999	17,069	21,410	226,760	238,672	▲ 11,912	100.0
	歯科口腔 外科	625	512	610	657	621	089	713	589	604	693	199	852	7,787	6,871	916	3.4
	呼吸器外 科	327	279	349	315	305	317	338	279	320	305	288	337	3,759	3,779	▲ 20	1.7
	麻酔科	10	7	14	13	9	11	19	15	15	15	6	8	142	162	▲ 20	0.1
	放射線科	351	349	325	290	224	410	337	138	187	220	199	270	3,300	3,436	▲ 136	1.4
	脳神経 外 科	487	411	516	490	393	546	538	454	503	498	407	585	5,828	5,819	6	2.6
	皮膚科	1,104	994	1,263	1,251	1,373	1,224	1,234	1,007	1,151	666	1,014	1,287	13,901	14,491	▼ 590	6.1
	泌尿器科	2,198	2,008	2,284	2,349	2,167	2,327	2,307	2,106	2,317	2,238	1,966	2,470	26,737	26,237	200	11.8
	整形外科	2,144	1,930	2,257	2,392	2,109	2,263	2,268	2,078	2,327	2,240	2,229	2,793	27,030	27,199	▶ 169	11.9
	耳 鼻 咽喉科	584	553	573	627	599	657	626	582	577	524	481	673	7,056	8,798	▲ 1,742	3.1
	服科	928	879	1,015	962	872	912	930	784	928	715	733	890	10,551	14,863	▲ 4,312	4.7
	産婦人科	1,333	1,146	1,416	1,465	1,340	1,443	1,558	1,419	1,366	1,238	1,206	1,419	16,349	16,665	▲ 316	7.2
	外科	1,042	916	1,126	1,014	996	1,134	1,153	1,005	1,080	1,048	948	1,285	12,717	13,696	▶ 979	5.6
	神 経精神科	1,315	1,147	1,349	1,436	1,266	1,321	1,406	1,271	1,365	1,269	1,226	1,468	15,839	15,903	▲ 64	7.0
	小児科	730	738	802	851	806	829	892	785	874	828	745	1,014	9,894	12,439	▲ 2,545	4.4
	内代神	2,086	1,779	2,007	2,131	1,876	1,999	2,077	1,959	2,077	1,933	1,840	2,116	23,880	24,830	▼ 950	10.5
(243日)	消血腫	2,228	2,023	2,438	2,443	2,137	2,470	2,569	2,130	2,343	2,116	2,017	2,615	27,529	27,745	▲ 216	12.1
診療日数	呼循内	1,143	1,093	1,251	1,362	1,189	1,202	1,261	1,183	1,199	1,150	1,100	1,328	14,461	15,739	▲ 1,278	6.4
	科別診療月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	R2. 8月	R2. 9月	R2. 10月	R2. 11月	R2. 12月	R3. 1月	R3. 2月	R3. 3月	111111	前年度同期累計	比較増減	科構成 %

9. 診療科別1日平均入院患者数學與第4章 第4章

事位: 人	前年比較	▲ 51.1	▶ 86.6	▲ 33.4	▲ 30.7	▲ 66.3	▲ 32.5	▲ 7.3	▲ 8.6	▲ 7.1	3.9	▲ 10.7	12.2	▲ 26.6		
	前年度	300.7	305.4	291.2	293.8	294.7	293.5	275.4	293.0	275.9	265.6	287.2	279.1	287.9		
	1	249.6	218.8	257.8	263.2	228.4	261.0	268.1	284.4	268.8	269.5	276.5	291.2	261.3	287.9	▲ 26.6
	歯科口腔 外科	6.0	1.0	2.7	2.8	1.6	0.8	0.8	1.9	1.2	1.5	1.9	1.9	1.6	1.8	▲ 0.3
	放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	呼吸器 外 科	8.4	9.5	10.6	12.3	7.5	8.8	8.4	12.5	10.5	7.5	10.6	11.3	8.6	12.1	▲ 2.3
	脳神経 外 科	26.0	25.5	21.1	19.4	11.1	10.5	17.4	24.5	21.4	22.3	22.8	24.8	20.5	19.0	1.6
	皮膚科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	泌尿器科	18.8	17.3	17.4	17.5	14.6	18.0	18.7	20.6	18.3	16.2	19.0	20.6	18.1	18.1	▶ 0.0
	整形外科	36.8	26.8	36.0	47.7	41.0	47.1	9.53	56.1	52.0	57.7	56.0	50.7	46.9	48.3	▲ 1.4
	耳 鼻 匪	5.8	5.8	7.3	5.7	8.9	8.0	7.4	5.1	4.5	8.9	7.0	7.4	6.5	9.9	▲ 0.1
	服科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	▲ 4.4
	産婦人科	21.9	21.4	24.8	22.2	22.0	20.9	24.2	23.0	23.2	21.3	16.8	18.2	21.7	25.8	▲ 4.1
	外科	28.7	25.8	30.7	29.6	28.8	31.4	33.1	34.3	26.9	30.1	29.5	32.8	30.1	33.8	▲ 3.7
	神 経精神科	22.0	22.7	21.1	23.1	22.3	26.8	25.3	28.5	22.1	24.0	32.1	32.1	25.1	29.0	▲ 3.8
	小児科	1.6	2.5	4.6	5.1	4.4	3.9	2.8	2.8	3.9	2.3	4.3	7.2	3.8	6.1	▲ 2.3
	内代神	13.9	6.7	10.1	8.9	8.5	8.7	7.5	11.6	12.3	0.6	12.5	13.1	10.2	12.6	▲ 2.4
(∃69£)	消血腫	47.0	38.2	52.5	55.7	43.8	57.1	52.5	51.8	57.2	55.2	51.5	53.6	51.3	47.9	3.4
診療日数	呼循内	17.7	15.9	19.0	13.4	16.0	19.2	14.4	11.8	15.3	15.7	12.8	17.6	15.7	22.6	€.9 ▼
ii.t	科別														- 開累計	
	診療月	R2. 4月	R2. 5月	R2.6月	R2. 7 A	R2.8月	R2.9月	R2. 10月	R2.11月	R2. 12月	R3.1月	R3. 2月	R3.3A	掃	前年度同期累	前年比較

10.診療科別1日平均外来患者数學(2438)

位:人	前年比較	▲ 106.1	▲ 115.5	▶ 88.0	▶ 9.6	▲ 76.3	▲ 61.5	▲ 90.3	▶ 0.6	▲ 47.3	▶ 67.6	▲ 43.8	▲ 29.9	▲ 61.3		
勲	前年度	993.5	1,046.8	978.7	964.3	7.886	1,048.9	1,009.7	936.7	1,009.0	1,015.0	992.1	8.096	994.5		
	1	887.4	931.3	7.068	954.7	912.5	987.4	919.4	936.0	961.7	947.3	948.3	930.9	933.2	994.5	▲ 61.3
	歯科口腔 外科	29.8	28.4	27.7	31.3	31.1	34.0	32.4	31.0	30.2	34.9	36.7	37.0	32.1	28.6	3.4
	呼吸器 7	15.6	15.5	15.9	15.0	15.3	15.9	15.4	14.7	16.0	16.1	16.0	14.7	15.5	15.8	▲ 0.3
	麻酔科	0.5	0.4	9.0	9.0	0.3	9.0	0.0	0.8	0.8	0.8	0.5	0.4	9.0	0.7	▲ 0.1
	放射線科	16.7	19.4	14.8	13.8	11.2	20.5	15.3	7.3	9.4	11.6	11.1	11.7	13.6	14.3	▲ 0.7
	脳神経 外 科	23.2	22.8	23.5	23.3	19.7	27.3	24.5	23.9	25.2	26.2	22.6	25.4	24.0	24.3	▲ 0.3
	皮膚科	52.6	55.2	57.4	59.6	68.7	61.2	56.1	53.0	57.6	52.6	56.3	56.0	57.2	60.4	▲ 3.2
	泌尿器科	104.7	111.6	103.8	111.9	108.4	116.4	104.9	110.8	115.9	117.8	109.2	107.4	110.0	109.3	0.7
	整形外科	102.1	107.2	102.6	113.9	105.5	113.2	103.1	109.4	116.4	117.9	123.8	121.4	111.2	113.3	▲ 2.1
	耳 鼻咽喉科	27.8	30.7	26.1	29.9	30.0	32.9	28.5	30.6	28.9	27.6	26.7	29.3	29.0	36.7	▲ 7.6
	服科	44.2	48.8	46.1	45.8	43.6	45.8	42.3	41.3	46.4	37.6	40.7	38.7	43.4	61.9	▲ 18.5
	産婦人科	63.5	63.7	64.4	8.69	67.0	72.2	70.8	74.7	68.3	65.2	67.0	61.7	67.3	69.4	▲ 2.2
	外科	49.6	6.03	51.2	48.3	48.3	2.95	52.4	52.9	54.0	55.2	52.7	55.9	52.3	57.1	▲ 4.7
	神 経精神科	62.6	63.7	61.3	68.4	63.3	66.1	63.9	6.99	68.3	66.8	68.1	63.8	65.2	66.3	▲ 1.1
	小児科	34.8	41.0	36.5	40.5	40.3	41.5	40.6	41.3	43.7	43.6	41.4	44.1	40.7	51.8	▲ 11.1
	内代神	99.3	98.8	91.2	101.5	93.8	100.0	94.4	103.1	103.9	101.7	102.2	92.0	98.3	103.5	▲ 5.2
(243 □)	消血腫	106.1	112.4	110.8	116.3	106.9	123.5	116.8	112.1	117.2	111.4	112.1	113.7	113.3	115.6	▲ 2.3
診療日数	呼循内	54.4	60.7	56.9	64.9	262	60.1	57.3	62.3	0.09	60.5	61.1	57.7	262	9.29	▲ 6.1
	科別	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	R2. 8月	R2. 9月	R2. 10月	R2. 11月	R2. 12月	R3. 1月	R3. 2月	R3. 3月	糧	前年度同期累計	前年比較

11. 年度別外来紹介患者数 紹介率

<許可病床数が400床以上である病院>

患者数	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年 <u>度</u>	令和2年度	過去5年間の 合計	平均
①初診患者の数		14,453	14,756	15,564	11,971	10,513	67,257	13,451
③救急自動車での搬送患者の数	患者の数	1,030	1,070	1,069	799	089	4,511	805
④文書により紹介された患者数	患者数	3,653	3,967	5,449	4,737	4,111	21,917	4,383
紹介率		32.4%	34.1%	41.9%	45.1%	45.6%	39.3%	
 	文書紹介の割合	25.3%	26.9%	35.0%	39.6%	39.1%	32.6%	
	救急搬送の割合	7.1%	7.3%	%6'9	5.5%	6.5%	%2.9	
⑤診療情報提供料		2,944	3,264	3,265	4,819	4,230	18,522	3,704
逆紹介率		20.4%	22.1%	21.0%	40.3%	40.2%	27.5%	

 Θ **(** 逆紹介率算出式= \times 100 4 + Θ ලා 紹介率算出式=

× 100

12. 紹介率·逆紹介率

〈許可病床数が400床以上である病院〉

(事)		患者数	A	4月	5月	月9	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	111111111111111111111111111111111111111	平均
() () () () () () () ()		本 本 の 来 の 来 の 来	(外来)	849	879	1,080	1,097	1,116	1,186	1,157	1,000	1,111	1,063	1,010	1,173	12,721	1,060
□ 1.20	Θ		(入院)	82	06	102	109	85	112	120	105	125	66	110	112	1,251	104
大型			#HE	931	696	1,182	1,206	1,201	1,298	1,277	1,105	1,236	1,162	1,120	1,285	13,972	1,164
 ※参告のたた形と赤尾を悪きを駆けてき難した、軟色	6	_	送患者の数(全体)(初	80	81	78	93	66	115	116	06	66	110	92	86	1,135	95
#2 (2.5)	3	緊急的に7 者の数(初	寮を必要とした救急患 ・1に限る)	43	63	99	22	44	09	29	51	65	73	51	22	089	22
水井又は夜間に受診した敷急患者数(初) 193 256 216 247 264 258 227 226 253 247 264 258 227 226 253 247 247 247 245 247 247 247 248 247 248 247 248 248 247	4		送患者の数(時間内)	22	19	21	35	31	32	41	28	31	20	31	45	356	30
政験時人院(休日夜間) 公2 22 27 27 27 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 24 27 25 24 27 26 23 27 36 32 32 34 36 323 32 34 34 32 32 34 34 32 34 34 32 34 34 34 36 34 36 34 36 34 34 47 47 47 47 47 47 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 47 46 46 47 46 46 46 47 46 46	2		診した救急患者数(初 	193	250	216	247	264	258	227	226	253	248	213	205	2,800	233
公本書に上り紹介 された患者の数 (人院) (外来) (246) 253 369 323 279 360 360 362 369 362 360 360 360 360 360 360 360 360 360 360 473 474 460 475 475 474 460 475 475 47.0% 47.0% 47.4% 46.0% 44.6% 42.2% 43.7% 41.4% 46.0% 44.6% 42.2% 43.7% 41.4% 46.0% 44.6% 42.2% 43.7% 41.4% 46.0% 44.6% 44.6% 42.2% 43.7% 41.4% 46.0% 44.6% 44.6% 45.6% 45.6% 45.6% 47.6% 47.4% 46.0% 44.6% 45.6% 45.6% 45.6% 47.6% 46.0% 44.6% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0% 46.0%	9		(副)	22	22	21	27	27	27	23	23	25	29	30	27	303	25
ch た		文書により紹介	(外来)	246	253	369	323	279	362	340	271	279	266	254	360	3,602	300
新年 285 287 409 367 405 385 405 385 405 385 405 386 405 387 40.38 40.38 40.48 40.48 40.46 40.58 40.58 40.58 40.48 40.48 40.46 40.58 40.58 40.38 38.38 40.38 36.18 36.18 36.48 37.88 36.48 37.88 36.48 37.58 42.19 40.38 38.38 36.18 36.48 37.88 36.48 37.88 36.48 37.88 36.48 37.88 36.48 37.88 36.48 37.88 36.48 37.88 36.58 37.58 42.18 45.18	(C)	された患者の数	(入院)	39	34	40	44	36	43	47	47	20	39	45	45	509	42
会権機能機能 (本) (本) (40.8%) (47.4%) (46.0%) (44.6%) (42.2%) (43.7%) (41.4%) (46.0%) (44.6%) (44.6%) (43.7%) (43.7%) (41.9%) (40.3%) (40.3%) (46.0%) (44.6%) (45.6%) (43.7%) (41.4%) (46.0%) (41.6%) (41.6%) (41.6%) (41.6%) (41.9%) (40.3%) (40.3%) (48.1%) <t< td=""><td></td><td></td><td>#H</td><td>285</td><td>287</td><td>409</td><td>367</td><td>315</td><td>405</td><td>387</td><td>318</td><td>329</td><td>305</td><td>299</td><td>405</td><td>4,111</td><td>343</td></t<>			#H	285	287	409	367	315	405	387	318	329	305	299	405	4,111	343
通名 本 49.3% 49.6% 41.9% 40.3% 38.3% 36.1% 36.4% 36.4% 36.4% 36.4% 36.4% 36.4% 36.4% 36.4% 36.5% 42.1% 40.3% 36.4% 36.2% 36.5%		紹介	李、	47.3%	51.6%		47.0%	40.8%	47.4%	46.0%	44.6%	42.2%	43.7%	41.4%	45.6%	45.6%	45.7%
患者数心占める 救急搬送の割合 30.6% 34.6% 36.6% 30.4% 26.2% 31.2% 30.3% 28.8% 26.6% 26.6% 26.7% 31.5% 31.5% 患者数心占める 救急搬送の割合 8.6% 8.4% 6.6% 7.7% 8.2% 8.9% 9.1% 8.1% 8.0% 9.5% 6.8% 7.6% <		逆紹沙	介率	53.9%	49.3%		41.9%	40.3%	38.3%	36.1%	36.4%	37.8%	34.9%	37.5%	42.1%	40.2%	40.3%
診患者数に占める 被急搬送の割合 8.6% 8.4% 6.6% 7.7% 8.2% 8.9% 9.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.1% 8.2%	*	芩:	文書紹介の割合	30.6%	29.6%		30.4%	26.2%	31.2%	30.3%	28.8%	26.6%	26.2%	26.7%	31.5%	29.4%	29.5%
診療情報提供料(外来)374356376376375376376376376376376376376376376376376376377376378	初言	珍患者数に占める	救急搬送の割合	8.6%	8.4%	%9.9	7.7%	8.2%	8.9%	9.1%	8.1%	8.0%	9.5%	6.8%	7.6%	8.1%	8.2%
情報提供数/紹介患者数 131.2% 116.4% 89.5% 102.5% 112.4% 92.8% 92.0% 94.7% 106.4% 99.0% 106.0% 104.7%	\otimes		(外来)	374	334	366	376	354	376	356	301	350	302	317	424	4,230	353
参考:同日他科初診患者数 102 108 118 88 126 114 113 96 93 92 107 100 1		情報提供数/	/紹介患者数	131.2%			102.5%	112.4%	92.8%	92.0%	94.7%	106.4%	99.0%	106.0%	104.7%	102.9%	102.9%
	*	参考:同日他科初診	患者数	102	108	118	88	126	114	113	96	93	92	107	100	1,257	105

 $-\times 100$ 初診の患者数(①-(④+⑤+⑥)) 紹介患者(⑦) + 救急患者(③) 紹介率算出式(建城医療支援病院) = —

13. 病棟稼働状況及び病床利用率

52 793.0 1,03 50.8% 64 46.0% 53 878.0 87 867.0 91 846.0 82 846.0 82 846.0 82 846.0 91 762.0 91 762.0 91 828.0 1,03 828.0 1,03 837.0 86	54 1,036.0 64.0% 900.0 945 53.8% 57.0 1,118 877.0 1,118 54.1% 910.0 1,330 54.4% 80. 828.0 1,175 49.5% 71.	53 55 50 1,238.0 10 1,129.0 5% 66.2% 50 1,084.0 3% 65.7% 1,008.0 9% 59.1% 9% 59.1% 9% 59.1% 9% 59.1%	56 1,263.0 75.2% 1,054.0 60.7% 1,350.0 80.4%	48 57.0 1.174.	59 6	9	443		
30 盘者延日数 793.0 31 患者延日数 742.0 30 患者延日数 878.0 病床利用率 56.3% 病床利用率 56.3% 病床利用率 55.3% 病床利用率 52.2% 病床利用率 52.5% 病床利用率 52.5% 病床利用率 52.5% 病床利用率 52.5% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 53.1% 病床利用率 53.1% 病床利用率 53.1% 病床利用率 53.1%	1,036.0 64.0% 900.0 53.8% 877.0 1 54.1% 910.0 1 54.4% 828.0 1 49.5%		1,263.0 75.2% 1,054.0 60.7% 1,350.0 80.4%			00	7.10	316	2
30 患者延日数 742.0 31 馬春延日数 46.0% 32 馬春延日数 878.0 31 馬春延日数 857.0 32 馬春延日数 846.0 33 馬春延日数 846.0 34 馬春延日数 846.0 35 馬春延日数 762.0 36 病床利用率 52.5% 36 馬春延日数 850.0 36 馬春延日数 828.0 37 馬春延日数 53.1% 31 島春延日数 53.1% 32 島春延日数 837.0	64.0% 900.0 53.8% 877.0 1, 54.1% 910.0 1, 54.4% 49.5% 49.5%		75.2% 1,054.0 60.7% 1,350.0 80.4%		4.0 10.0	661.0	7,489.0	5,644.0	0.0
31 患者延月数 742.0 病床利用率 46.0% 病床利用率 56.3% 病床利用率 56.3% 病床利用率 53.2% 病床利用率 52.5% 病床利用率 48.8% 病床利用率 52.5% 病床利用率 48.8% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 53.1% 病床利用率 53.1% 病素延日数 53.1% 湯 患者延日数 病株利用率 53.1% 病株利用率 53.1%	53.8% 877.0 1, 54.1% 910.0 1, 54.4% 828.0 1, 49.5% 1919.0 1,		1,054.0 60.7% 1,350.0 80.4%	4.0%	66.3% 5.6%	36.7%	56.4%	59.5%	0.0%
30 患者延日数 46.0% 31 患者延日数 878.0 31 患者延日数 857.0 31 患者延日数 846.0 30 患者延日数 762.0 31 患者延日数 850.0 32 患者延日数 52.5% 33 患者延日数 850.0 34 患者延日数 828.0 35 患者延日数 828.0 36 患者延日数 53.1% 31 患者延日数 837.0	53.8% 877.0 1, 54.1% 910.0 1, 54.4% 828.0 1, 49.5%		60.7% 1,350.0 80.4% 1,456.0	369.0	942.0 0.0	702.0	6,783.0	5,139.0	0.0
30 島者延月数 878.0 病床利用率 56.3% 病床利用率 53.2% 病床利用率 52.5% 病床利用率 762.0 病床利用率 850.0 病床利用率 52.5% 病床利用率 52.5% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 53.1% 病房利用率 53.1% 病房和 837.0	54.1% 910.0 11, 54.4% 828.0 49.5% 11,		1,350.0 80.4% 1,456.0	24.8% 51	51.5% 0.0%	37.7%	49.4%	52.5%	0.0%
少 病床利用率 56.3% 31 患者延日数 857.0 32 患者延日数 846.0 34 病床利用率 52.5% 35 患者延日数 762.0 36 病床利用率 52.5% 31 患者延日数 850.0 31 病床利用率 52.7% 海床利用率 52.7% 海床利用率 52.7% 海床利用率 53.1% 海水利用率 53.1% 海水利用率 53.1% 海水利用率 53.1%	54.1% 910.0 1, 54.4% 828.0 1, 49.5% 1,	1,	80.4%	795.0 1,000.0	0.0 0.0	633.0	7,735.0	6,102.0	0.0
31 患者延月数 857.0 病床利用率 53.2% 患者延日数 846.0 30 患者延日数 762.0 病床利用率 48.8% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 53.1% 病床利用率 53.1% 場者延日数 837.0	910.0 1, 54.4% 828.0 1, 49.5% 919.0 1,	1,	1,456.0	55.2% 56	56.5% 0.0%	35.2%	58.2%	64.4%	0.0%
31 唐者延日数 846.0 30 唐者延日数 762.0 31 唐者延日数 762.0 31 唐者延日数 850.0 病床利用率 850.0 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 唐者延日数 828.0 1, 病床利用率 53.1% 唐者延日数 837.0	54.4% 828.0 1, 49.5% 919.0 1,			747.0 1,133.0	3.0 0.0	717.0	8,158.0	6,308.0	0.0
31 患者延月数 846.0 病床利用率 52.5% 患者延日数 762.0 病床利用率 850.0 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 53.1% 病床利用率 53.1% 海床利用率 53.1% 場者延日数 837.0	828.0 49.5% 919.0		83.9%	50.2% 61	61.9% 0.0%	38.5%	59.4%	64.4%	0.0%
30	49.5% 919.0 1,		1,137.0	689.0	842.0 0.0	692.0	7,080.0	5,546.0	0.0
30 患者延日数 762.0 病床利用率 48.8% 病床利用率 52.7% 病床利用率 52.7% 病床利用率 53.1% 病床利用率 53.1% 患者延日数 837.0	919.0		65.5%	46.3% 46	46.0% 0.0%	37.2%	51.6%	26.6%	0.0%
31 患者延日数 48.8% 病床利用率 52.7% 30 患者延日数 828.0 1, 病床利用率 53.1% 農者延日数 837.0			1,432.0	762.0	0.00 0.06	804.0	7,831.0	6,037.0	0.0
31 患者延日数 850.0 病床利用率 52.7% 病者延日数 828.0 1, 病床利用率 53.1% 患者延日数 837.0		% 25.5%	85.2%	52.9% 55	55.9% 0.0%	44.7%	28.9%	63.7%	0.0%
A 病床利用率 52.7% 患者延日数 828.0 1 病床利用率 53.1% 患者延日数 837.0		0 1,158.0	1,314.0	664.0 1,266.0	0.0 0.0	785.0	8,310.0	6,259.0	0.0
30 患者延日数 828.0 1 病床利用率 53.1% 31 患者延日数 837.0		%6.79%	75.7%	44.6% 69	69.2% 0.0%	42.2%	60.5%	63.9%	0.0%
の 病床利用率 53.1% 患者延日数 837.0	1	0 1,245.0	1,358.0	480.0 1,327.0	7.0 27.0	855.0	8,531.0	6,322.0	0.0
31 患者延日数 837.0		75.5%	80.8%	33.3% 75	75.0% 15.0%	47.5%	64.2%	%2.99	0.0%
1 1		0,1,169.0	1,447.0	608.0 1,29	,299.0	0.989	8,332.0	6,339.0	0.0
病床利用率 51.9% 51	1.9% 51.5% 86.2%	%9.89	83.4%	40.9%	71.0% 4.3%	36.9%	%2.09	64.7%	0.0%
3] 患者延日数 854.0 1,156.0	1	0 1,247.0	1,443.0	0.0 1,480.0	0.0	744.0	8,353.0	6,113.0	0.0
7		73.1%	83.1%	0.0%	80.9% 8.6%	40.0%	80.8%	62.4%	0.0%
9月 98	1	0 1,182.0	1,238.0	0.0 1,330.0	0.0	898.0	7,743.0	5,515.0	0.0
		%8.9%	79.0%	0.0%	80.5% 0.0%	53.5%	62.4%	62.3%	0.0%
3月 31 患者延日数 967.0 1,286.0	1	0 1,389.0	1,436.0	0.0 1,515.0	5.0 12.0	995.0	9,028.0	6,506.0	0.0
		81.5%	82.7%	0.0%	82.8% 6.5%	53.5%	65.7%	66.4%	0.0%

0.0%

62.3%

59.0%

71,830.0

95,373.0

14. 年度別科別平均在院日数

診療科名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
呼循内	19.3	15.3	14.3	15.3	13.0
消血腫	13.9	12.1	11.3	9.7	12.8
内代神	20.4	18.4	18.1	15.9	13.8
小児科	7.4	5.1	5.8	5.4	5.8
神経精神科	57.1	48.7	56.1	50.1	50.7
外科	14.2	14.7	13.5	14.5	14.5
産婦人科	6.5	6.6	6.4	6.5	5.7
眼科	3.8	3.8	4.9	6.3	_
耳鼻咽喉科	10.2	9.2	7.7	6.8	7.8
整形外科	27.2	25.6	29.7	25.3	26.8
泌尿器科	10.1	1.6	9.8	10.8	10.3
皮膚科	-	-	_	_	-
脳神経外科	15.0	15.4	14.6	15.6	15.0
放射線科	-	-	_	-	-
麻酔科	_		_	_	_
呼吸器外科	10.4	11.8	9.9	9.0	7.3
歯科口腔外科	4.0	4.0	4.8	6.2	6.4

[※]地域包括ケア病棟を除いた一般病棟における診療科別の数字(眼科は除く)

15. 年齡別入院患者分析表

入院患者数(延べ患者数)

子譽	1.5%	0.2%	0.2%	0.7%	3.1%	4.3%	4.6%	7.9%	15.0%	26.3%	27.8%	8.2%	0.2%	100.0%
月平均	115	20	14	25	250	345	365	979	1,194	2,093	2,210	649	12	7,948
岩山	1,381	238	170	679	3,001		4,385		14,325		26,518	7,786	178	95,373
3月	201	14	47	18	181	323	491				2,559	793	1	9,028
2月	120	8	12	44			377		1,158		2,197	612	49	7,743
1月	94	23	10	22	206	308	462		1,156		2,252	612	33	8,353
12月	118	10	18	9	253	968	405	989	1,505	2,204	2,089	620	23	8,332
11月	26	14	17	39	260	368	291	741	1,346	2,330	2,420	202	1	8,531
10月	105	4	18	72	300	426	354	226	1,107	2,253	2,380	732	0	8,310
9月	66	16	17	20	240	487	380	252	[1,233]	1,991	2,224	543	30	7,831
8月	120	35	25	92	365	283	273	548	1,234	[1,713]	1,874	531	3	7,080
7月	142	33	1	93	287	281	245	271	1,426	2,075	2,250	744	10	8,158
6月	148	28	0	25	220	372	338	262	1,029	1,997	2,207	745	2	7,735
5月	99	29	3	24	229	331	383	533	606	1,833	1,757	635	21	6,783
4月	22	24	2	40	241	376	386	496	1,207	1,816	2,309	512	2	7,489
年齡	0~2歲未満	2歳~6歳未満	6歳~10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上	수計

入院患者数(実患者数)

	~ 0	% %	∞	≫	≫	% 0	%	%	∞	% 0	% 0	% 0	%	%
比松	3.8%	%9 . 0	0.4%	1.2°	4.7%	9.9	3.9%	8.3%	15.3%	24.7°	23.4%	6.9°	0.2°	100.0%
月平均	30	2	4	6	38	25	31	9	122	961	186	92	1	793
√ □	357	26							1,461				16	9.518
3月	40	9	8	12	28	54	30	74	123	235	195	71	1	877
2月	26	4	4	6	36	39	32	64	110	188	177	25	3	744
1月	30	9	3	9	31	38	34	89	115	202	187	20	2	772
12月	27	3	2	3	38	25	38	64	133	193	182	19	2	801
11月	25	4	2	8	34	48	31	73	124	217	206	09	Т	836
10月	36	2	4	11	40	99	33	9	121	211	212	65	0	863
9月	32	2	3	8	34	09	27	72	135	200	187	43	2	808
8月	29	2	9	16	54	19	17	99	133	179	165	45	1	692
7月	39	8	1	14	47	25	18	89	129	202	197	25	1	838
6月	31	2	0	11	33	54	27	9	115	187	190	89	1	222
5月	18	2	1	8	33	19	37	99	106	166	126	19	1	692
4月	24	4	2	9	42	22	44	20	117	174	173	49	T	741
年齢	0~2歲未満	2歳~6歳未満	6歳~10歳未満	10歳代	20歳代	30歲代	40歳代	50歳代	60歲代	70歲代	80歳代	90歲代	100歳以上	

16. 年齡別外来患者分析表

外来患者数(延べ患者数)

光	1.7%	1.4%	1.0%	2.7%	3.1%	5.5%	7.6%	10.2%	18.2%	25.4%	19.8%	3.4%	0.0%	100.0%
月平均	317	275	185	218	583	1,040	1,433	1,920	3,436	4,802	3,734	647	2	18,897
무무	3,800	3,301	2,224	6,216	6,995	12,474	17,197	23,039	41,230	57,623	44,807	292,7	68	226,760
3月	332	290	258	729	029	1,129	1,673	2,146	3,694	5,462	4,192	830	2	21,410
2月	276	230	169	463	278	957	1,373	1,711	3,147	4,283	3,307	263	12	17,069
1月	285	246	201	199	929	1,015	1,339	1,813	3,239	4,595	3,496	989	17	17,999
12月	344	250	212	492	268	1,073	1,441	1,861	3,459	4,873	3,938	746	9	19,233
11月	276	264	190	488	261	1,030	1,415	1,857	3,151	4,462	3,490	265	8	17,784
10月	351	310	180	538	614	1,156	1,568	2,133	3,647	5,113	3,969	643	4	20,226
6月	306	292	190	511	610	1,112	1,497	2,072	3,600	5,013	3,886	654	2	19,748
8月	301	286	508	635	630	993	1,370	1,867	3,339	4,445	3,559	611	4	18,249
7月	359	284	182	292	620	1,117	1,516	2,176	3,642	4,992	3,939	649	2	20,048
6月	316	309	156	489	553	1,045	1,417	1,939	3,529	5,114	3,961	092	2	19,595
12日	317	277	145	365	491	982	1,288	1,661	3,153	4,410	3,248	535	6	16,764
4月	337	263	132	378	544	385	1,300	1,803	3,660	4,861	3,822	546	2	18,635
年齢	0~2歳未満	2歳~6歳未満	6歳~10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上	

外来患者数(実患者数)

光	2.0%	1.7%	1.3%	3.4%	3.7%		7.7%		16.9%				0.1%	000
月平均	202	172	129					1,015					9	L
<u></u>	2,423	2,062	1,547	4,088	4,474	7,145	9,295	12,176	20,295	28,587	23,567	4,458	29	7 00 7
3月	203	184	184	485	421	637	855	1,069	1,768	2,539	2,078	446	2	1
2月	183	171	121	307	370	222	748	912	1,577	2,134	1,775	341	11	1
1月	186	120	136	382	369	289	762	266	1,636	2,310	1,854	352	8	1
12月	226	166	140	339	372	989	811	1,029	1,732				4	0
11月	185	172	127	312	351	909	784	1,009			1,886	349	2	000
10月	211	187	122	333	381	641	839	1,109	1,760	2,486	2,049	370	4	0 0 1
9月	213	173	124	323	378	635	800	1,079	1,739	2,535	2,023	386	2	0
8月	188	172	152	419	393	273	922	1,012	1,657	2,275	1,887	352	4	
7月	215	174	134	371	396	622	821	1,075	1,724	2,412	2,060	368	4	1
6月	208	184	105	310	320	571	740	1,014	1,715	2,504	2,058	396	9	1
5月	199	160	96	254	321	513	664	911	1,600	2,239	1,829	335	9	1
4月	206	160	106	253	998	999	716	096	1,749	2,380	2,029	346	2	0
年齢	0~2歲末滿	2歳~6歳未満	6歳~10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歲代	80歳代	90歳代	100歳以上	- 11 <

17. 診療科別·病棟別平均在院日数

R2年度平均在院日数

[科別在院日数]一般病床

精神	8,992	175	180	50.7
		51	16	11.6
一般病床 +結核病床	66,487	6,051	5,416	
歯科口 腔外科	499	78	79	6.4
呼吸器 外科	2,872	400	390	7.3
脳神経 外科	5,068	397	278	15.0
皮膚科	0	0	0	I
泌尿器科	5,429	549	510	10.3
整形外科	11,586	202	360	26.8
耳鼻 咽喉科	2,033	265	259	7.8
眼科	0	0	0	ı
産婦人科	6,685	1,173	1,163	5.7
外科	8,661	637	554	14.5
小児科	1,170	195	207	5.8
内代神	3,174	242	219	13.8
消血腫	4,572 14,738	374 1,236	1,069	12.8
呼循内	4,572	374	328	13.0
科別	在院数	新入院	退院	平均在院日数

[科別在院日数]地域包括ケア病床

.1=	-6	2	~	~
地域包括 ケア病床	13,145	202	1,153	15.8
歯科口 腔外科	0	0	0	1
呼吸器 外科	287	11	23	16.9
脳神経 外科	2,037	2	115	34.0
皮膚科	0	0	0	ı
泌尿器科	282	25	99	12.9
整形外科	4,972	61	207	37.1
耳鼻 咽喉科	54	2	11	6.8
眼科	0	0	0	ı
産婦人科	28	0	9	19.3
外科	1,613	74	166	13.4
小児科	0	0	0	1
内代神	312	0	16	39.0
消血腫	2,448	325	479	6.1
呼循内	477	1	64	24.0
科別	在院数	新入院	退院	平均在院日数

88,624 6,733 6,749 13.1

[病棟別在院日数]

第11病棟 合計	4,786	494	458	10.1
丰口	88,624	6,733	6,749	13.1
精神科 病棟	8,992	175	180	50.7
結核 病棟	68	8	5	10.5
地域包括 ケア病棟	13,145	202	1,153	15.8
一般病棟 合計	66,419	6,043	5,411	11.6
第11病棟 一般	4,718	486	453	10.0
第9病棟	14,860	1,239	1,068	12.9
第8病棟	12,626	1,181	1,011	11.5
第7病棟	14,778	744	278	22.4
第6病棟	10,936	965	856	12.0
第5病棟	8,501	1,428	1,445	5.9
病棟別	在院数	新入院	退 院	平均在院日数

66,419

6,043 5,411

--般病棟 +ドック

18. 分娩件数

分娩形年月	自然分娩	吸引分娩 鉗子分娩	骨盤位分娩 (経腟)	帝王切開	分娩件数	出生数	双子数	うち死産
令和2年4月	48	1	0	6	55	55	0	0
令和2年5月	29	0	0	5	34	34	1	1
令和2年6月	34	0	0	10	44	44	0	0
令和2年7月	36	0	0	12	48	49	1	1
令和2年8月	41	2	0	7	50	49	0	1
令和2年9月	32	2	0	6	40	41	1	0
令和2年10月	41	3	0	5	49	49	0	0
令和2年11月	32	4	0	6	42	41	0	1
令和2年12月	38	0	0	5	43	42	0	1
令和3年1月	34	0	0	3	37	38	1	0
令和3年2月	26	2	0	3	31	30	0	1
令和3年3月	35	0	0	7	42	41	0	1
合計	426	14	0	75	515	513	4	7

19. 外来化学療法件数

区分 診療月	外来化学療法加算1A	外来化学療法加算1B
令和2年4月	253	38
令和2年5月	253	30
令和2年6月	259	31
令和2年7月	272	31
令和2年8月	258	29
令和2年9月	266	34
令和2年10月	274	39
令和2年11月	229	32
令和2年12月	243	33
令和3年1月	250	30
令和3年2月	240	32
令和3年3月	276	30
合計	3,073	389
1月あたりの 算定件数	256.1	32.4
1日あたりの 算定件数 (診療日数243日)	12.6	1.6

20. 年度別麻酔件数

年度	全身麻酔	全身麻酔+ 硬膜外麻酔	硬膜外 麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数	1日平均麻 酔実施件数	診療日 実日数
平成26年度	970	0	0	294	54	1	1,514	3	2,836	7.8	365
平成27年度	973	12	2	280	61	0	1,422	2	2,752	7.5	366
平成28年度	921	7	1	267	61	0	1,454	0	2,711	7.4	365
平成29年度	941	14	1	277	102	3	1,392	1	2,731	7.5	365
平成30年度	919	4	2	280	100	2	1,537	10	2,854	7.8	365
令和元年度	999	3	0	323	101	10	1,602	6	3,044	8.3	366
令和2年度	911	15	0	330	89	3	1,383	0	2,731	7.5	365

21. 月別麻酔件数

区分 診療月	全身麻酔	全身麻酔+ 硬膜外麻酔	硬膜外 麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数
令和2年4月	60	1	0	21	4	0	109	0	195
令和2年5月	53	0	0	17	4	0	98	0	172
令和2年6月	73	2	0	39	7	0	110	1	232
令和2年7月	79	0	0	32	6	0	114	0	231
令和2年8月	65	0	0	22	6	0	85	0	178
令和2年9月	80	0	1	31	8	2	114	0	236
令和2年10月	102	0	0	27	9	0	128	1	267
令和2年11月	82	0	0	26	11	1	120	1	241
令和2年12月	80	0	1	33	10	0	119	0	243
令和3年1月	80	0	0	30	6	0	125	0	241
令和3年2月	79	0	0	21	7	0	100	0	207
令和3年3月	92	0	0	28	11	0	161	0	292
合計	925	3	2	327	89	3	1,383	3	2,735
1月あたりの算定件数	77.1	0.3	0.2	27.3	7.4	0.3	115.3	0.3	227.9
1日あたりの算定件数 (診療日数365日)	2.5	0.0	0.0	0.9	0.2	0.0	3.8	0.0	7.5

22. 診療科別麻酔件数

区分 診療月	全身麻酔	全身麻酔+ 硬膜外麻酔	硬膜外 麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数
外科	352	0	0	60	0	0	203	0	615
産婦人科	146	0	0	96	0	0	13	0	255
整形外科	142	0	1	83	81	0	80	1	388
脳神経外科	13	0	0	0	0	0	43	0	56
泌尿器科	28	0	1	88	8	0	101	0	226
耳鼻咽喉科	108	0	0	0	0	0	36	1	145
眼科	1	0	0	0	0	0	885	1	887
歯科口腔外科	70	0	0	0	0	3	7	0	80
神経精神科	2	0	0	0	0	0	0	0	2
呼吸器外科	63	3	0	0	0	0	3	0	69
その他	0	0	0	0	0	0	12	0	12
合計	925	3	2	327	89	3	1,383	3	2,735
1月あたりの算定件数	77.1	0.3	0.2	27.3	7.4	0.3	115.3	0.3	227.9
1日あたりの算定件数 (診療日数365日)	2.5	0.0	0.0	0.9	0.2	0.0	3.8	0.0	7.5

23. 救急患者来院数

診療月	救急			救急	息患者取	扱い時間	帯		
砂凉刀	患者数	平日時	間内	時間	外	休	目	深	夜
令和2年4月	490	68	13.9%	228	46.5%	101	20.6%	93	19.0%
令和2年5月	632	65	10.3%	268	42.4%	195	30.9%	104	16.5%
令和2年6月	538	61	11.3%	279	51.9%	81	15.1%	117	21.7%
令和2年7月	633	68	10.7%	296	46.8%	147	23.2%	122	19.3%
令和2年8月	716	115	16.1%	303	42.3%	165	23.0%	133	18.6%
令和2年9月	639	82	12.8%	267	41.8%	172	26.9%	118	18.5%
令和2年10月	582	83	14.3%	296	50.9%	68	11.7%	135	23.2%
令和2年11月	573	103	18.0%	237	41.4%	138	24.1%	95	16.6%
令和2年12月	589	78	13.2%	253	43.0%	145	24.6%	113	19.2%
令和3年1月	581	50	8.6%	270	46.5%	188	32.4%	73	12.6%
令和3年2月	492	69	14.0%	207	42.1%	107	21.7%	109	22.2%
令和3年3月	519	65	12.5%	233	44.9%	108	20.8%	113	21.8%
計	8,895	1,076		3,137		1,615		1,325	
1月あたりの 来院数	741.3	89.7	13.0%	261.4	44.9%	134.6	23.1%	110.4	19.0%
1日あたりの 来院数	24.4	3.0		8.6		4.4		3.6	

24. 救急車搬入件数及び転送件数

診療月	救急車搬入数	うち時間内 搬送数	うち時間外・ 休日搬送数	うち深夜搬送数 (再掲)	救急車転送数
令和2年4月	159	53	106	27	8
令和2年5月	174	49	125	21	11
令和2年6月	189	50	139	32	6
令和2年7月	180	68	112	29	5
令和2年8月	183	58	125	33	4
令和2年9月	207	75	132	34	5
令和2年10月	199	72	127	26	1
令和2年11月	194	64	130	30	3
令和2年12月	200	75	125	30	6
令和3年1月	188	66	122	30	4
令和3年2月	155	65	90	29	4
令和3年3月	181	68	113	28	7
計	2,209	763	1,446	349	64
1月あたりの 来院数	184.1	63.6	120.5	29.1	5.3
1日あたりの来院数	6.1	2.1	4.0	1.0	_

25. 来院方法別救急患者数

診療月	独歩・ 自家用車	救急車	ヘリコプター
令和2年4月	331	159	0
令和2年5月	458	174	0
令和2年6月	349	189	0
令和2年7月	453	180	0
令和2年8月	533	183	0
令和2年9月	432	207	0
令和2年10月	383	199	0
令和2年11月	379	194	0
令和2年12月	389	200	0
令和3年1月	393	188	0
令和3年2月	337	155	0
令和3年3月	338	181	0
計	4,775	2,209	0

26. 人間ドック受診者数

	受入	受入数(人)	稼働率	半日ドック(人)	半日ドック(人)	比	率
	可能数(人)	文八剱(八)	修 割争	(しっかりコース)	(標準コース)	しっかり	標準
4月	30	23	76.7%	8	15	22.6%	64.5%
5月	31	25	80.6%	6	19	20.0%	80.0%
6月	40	40	100.0%	11	29	25.0%	75.0%
7月	37	37	100.0%	9	28	27.8%	72.2%
8月	34	34	100.0%	2	32	33.3%	66.7%
9月	35	35	100.0%	9	26	20.0%	80.0%
10月	40	37	92.5%	10	27	20.0%	80.0%
11月	34	34	100.0%	3	31	18.2%	81.8%
12月	36	36	100.0%	9	27	35.5%	64.5%
1月	34	31	91.2%	5	25	37.5%	62.5%
2月	31	29	93.5%	7	22	31.3%	68.8%
3月	23	19	82.6%	5	14	18.2%	81.8%
計	405	380	93.8%	84	295	26.0%	73.0%

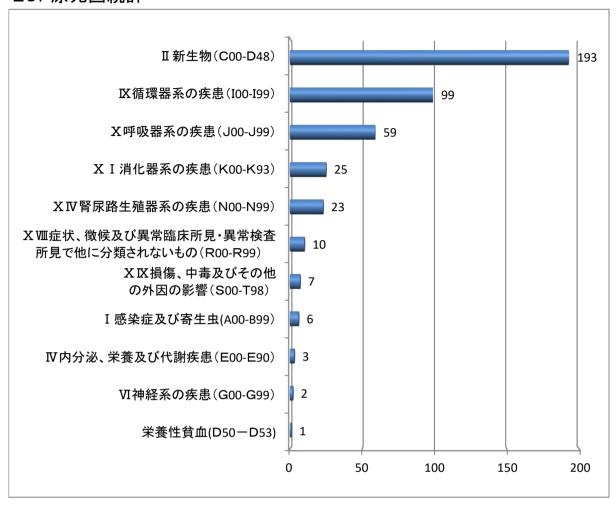
27. 診療情報開示請求件数

		診療報 酬 明細書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	種類	画像記 録	3	1	7	7	0	2	2	5	1	2	1	2	33
	提供種類	診療錄	1	4	2	1	3	4	9	9	1	1	1	2	35
		検査記 録	1	2	1	2	1	4	7	9	1	1	0	2	34
提供種類		診療月	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	令和2年9月	令和2年10月	令和2年11月	令和2年12月	令和3年1月	令和3年2月	令和3年3月	수류
		がん補装具申請	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3
		診断の確認	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	2	8
	目的	訴訟準備	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
	使用	労災認定	0	3	0	0	1	0	1	2	0	0	0	1	8
		保険金· 年金請求	4	0	2	3	2	0	3	2	2	1	2	4	25
		B型肝炎 訴訟	1	2	0	0	0	2	2	0	I	1	0	9	14
使用目的别		診療月	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	令和2年9月	合和2年10月	令和2年11月	合和2年12月	令和3年1月	令和3年2月	令和3年3月	투다
			0	0	0	0	1	0	0	0	П	0	0	0	2
	辪	家族· 親族													
	申請者	本人	<i>L</i>	9	2	3	3	3	6	9	4	2	2	12	29
申請者別		診療月	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	令和2年9月	令和2年10月	令和2年11月	令和2年12月	令和3年1月	令和3年2月	令和3年3月	슈큐

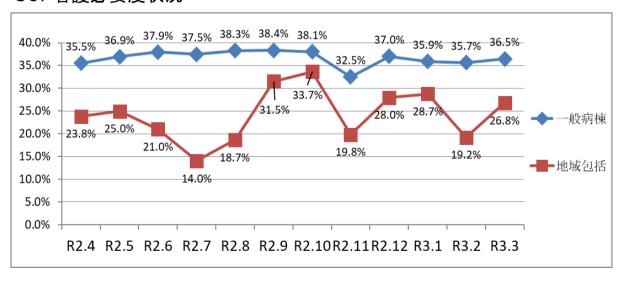
28. 診療科別疾病統計

総数			402		1606		000	208		189		749		1192		279			209		288		414		255		ģ	424		8869
その他			30.8%		40.3%		300 00	30.3%		21.7%		28.2%		34.1%		39.8%			32.7%		24.0%		5.1%		31.0%			3.8%		8.8%
76			124		648		o c	63		41		211		406		111		i d	197		141		21		62			qr		7
10位	98 3	体液量減少(症)	12 3.0%	C24 その他及び部位不明の 胆道の悪性新生物	39 2.4%	920	河开入甲入兴	5 2.4% F70	軽度知的障害<精神 遅滞〉	4 2.1%	膵の悪性新生物	9 1.2%	9090	30 2.5%	その他の難聴	7 2.5%	M46	その他の炎症性脊椎障害	17 2.8% N20	腎結石及び尿管結 石	13 2.2%	頭部の表在損傷	2 0.5%	ETO インスリン依存性糖 尿病〈IDDM〉	5 2.0%	S22	助骨, 胸骨及び胸 椎骨折	2 0.5% C04	ロ(腔)底の悪性新 生物	1 1.3%
9位	163	脳梗塞	13 3.2%	C83 びまん性非ホジキンベnon- Hodgkinソリンパ腫	40 2.5%	NOO けいれん〈痙攣〉,他に	分類されないもの	5 2.4% G31	神経系のその他の変性疾 患,他に分類されないもの	5 2.6% K35	急性虫垂炎	34 4.5%	D27 卵巣の良性新生物	34 2.9%	50名の他及び部位不 明の悪性新生物	7 2.5%	M17	膝関節症[膝の関節 症]	18 3.0% N13	閉塞性尿路疾患及 び逆流性尿路疾患	15 2.6%	505 髄膜の良性新生物	3 0.7%	その他の筋障害	5 2.0%	C37	胸腺の悪性新生物	2 U.5% C06	その他及び部位不明の 口腔の悪性新生物	2 2.5%
8位	184	その他の間質性肺 疾患	13 3.2%	K57 腸の憩室性疾患	42 2.6%	ivos 尿路系のその他の	虚量	6 Z.9% F05	せん妄、アルコールその他の精 神作用物質によらないもの	6 3.2%	呼吸器及び消化器の続 発性悪性新生物	52 6.9%	048 遷延妊娠	36 3.0%	三日軍野社専次及 びアレルギー社鼻		S52	腕の骨折	19 3.2% N41	前立腺の炎症性疾 患	18 3.1%	頭部の開放創	4 1.0%	急性腎不全	6 2.4%	J84	その他の間質性肺疾患	4 U.9% K13	ロ唇及びロ腔粘膜 のその他の疾患	2 2.5%
7位	148	心房細動及び粗動	13 3.2%	Cl5 食道の悪性新生物	45 2.8%	成染症と推定される	下痢及び胃腸炎	6 2.9% F43	重度ストレスへの反 応及び適応障害	7 3.7% K80	胆石症	53 7.1%	D25 子宮平滑筋腫	47 3.9%	大 生 大 生 を 大 生 が 生 が	8 2.9%	L03	蜂巢炎<蜂窩織炎	25 4.2% C66	尿管の悪性新生物	21 3.6%	G#5 一過性脳虚血発作 及び関連症候群	10 2.4%	た (本 液 量 減 少 (症)	6 2.4%	J18	肺炎,病原体不詳	/ L./%	垂液腺疾患	3 3.8%
6 <u>ff</u>	T82	心臓及び血管のプロステーシス, 挿入物及び移植片の合併 症	16 4.0%	C22 肝及び肝内胆管の 悪性新生物	51 3.2%	F22 新生児の呼吸窮<促	型人	/ 3.4% F44	解離性[転換性]障 害	7 3.7%	胃の悪性新生物	53 7.1%	042 前期破水	47 3.9%	中国頭の悪性新生 物	10 3.6%	M48	山の脊椎	26 4.3% N17	急性腎不全	23 3.9%	てんかん	11 2.7%	ため その他の体液, 電解質 及び酸塩基平衡障害	8 3.1%	98f	膿胸(症)	10 2.4% K04	歯髄及び根尖部歯 周組織の疾患	3 3.8%
50%	121	急性心筋梗塞	16 4.0%	C25 膵の悪性新生物	86 5.4%	J02 4.种田苗火	放 型 上 -	10 4.8% F31	双極性感情障害<躁 うつ病>	9 4.8%	直腸の悪性新生物	27 7.6%	C54 子宮体部の悪性新 生物	65 5.5%	局機及びアデノイド の慢性疾患	12 4.3%	S42	肩及び上腕の骨折	35 5.8% C64	腎盂を除く腎の悪性 新生物	30 5.1%	くも膜下出血	25 6.0%	R路系のその他の 障害	8 3.1%	S27	その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷	13 3.1% K01	埋伏歯	3 3.8%
4位	144	房室ブロック及び左 脚ブロック	19 4.7%	C18 結腸の悪性新生物	94 5.9%	7 4 7 1		12 5.8% F32	うつ病エピソード	16 8.5% K40	そけ、<単径>ヘル ニア	62 8.3%	P70 胎児及び新生児に特異的な一 過性糖質代謝障害	70 5.9%	慢性副鼻腔炎	21 7.5%	S22	助骨, 胸骨及び胸 椎骨折	43 7.1% N10	急性尿細管間質性 腎炎	69 11.7%	頭蓋內損傷	37 8.9%	10.5 脳梗塞	13 5.1%	C38	心臓, 縦隔及び胸膜の悪性新生物	15 3.5% D16	骨及び関節軟骨の 良性新生物	5 6.3%
3位	J18	肺炎,病原体不詳	25 6.2%	K80 間石旗	97 6.0%	118有害作用,他に分	いれない	13 6.3% G30	アルツハイマー 〈Alzheimer〉病	26 13.8%	乳房の悪性新生物	71 9.5%	C56 卵巣の悪性新生物	78 6.5%	に記 喉頭の悪性新生物	22 7.9%	S82)骨折, 矩 含む	52 8.6% N18	慢性腎不全	72 12.2%	102 その他の非外傷性 頭蓋内出血	42 10.1%	JOS 国形物及び液状物 による肺臓炎	17 6.7%	193	《酒》	17 4.0% K10	他の疾	8 10.0%
2位	120	狭心症	41 10.2%	C16 胃の悪性新生物	127 7.9%	FUI 妊娠期間短縮及び低出産体重 デー門当中を除っている。	に対理 9 20年音, 他に万須さ れないもの	17 8.2% F10	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	26 13.8% K56	床準性イレウス及び腸閉塞, ヘ ルニアを伴わないもの	71 9.5%	O24 妊娠中の糖尿病	89 7.5%	睡眠障害	32 11.5%	S32	及び骨盤の折	80 13.3% C67	膀胱の悪性新生物	76 12.9%	101 服内出血	95 22.9%	J10 肺炎,病原体不詳	24 9.4%	C78	呼吸器及び消化器の続 発性悪性新生物	18 4.2% K07	歯顎顔面(先天)異常 [不正咬合を含む]	15 18.8%
1位	150	心不全	110 27.4%	D12 結腸,直腸,肛門及び 肛門管の良性新生物	337 21.0%	画	よる新生児黄疸	64 30.8% F20	合失調症	42 22.2%	新生物	76 10.1%	080 単胎自然分娩	290 24.3%	前庭機能障害	42 15.1%	S72	題。	90 15.0%	前立腺の悪性新生物	110 18.7%	IN I	164 39.6%	インスリン非依存性 糖尿病〈NIDDM〉	84 32.9%	_	を及び肺の悪 は新生物	320 (3.5% K09	口腔部のうく嚢>胞, 他に 分類されないもの	31 38.8%
_	ICD10コード	疾患名	人数 割合%	ICDI03一ド 疾患名	人数 割合%	<u>-</u>	が受ける	人数 割合% ICD10コード	疾患名	人数 割合% ICD1021下	疾患名	人数 割合%	ICDI03一ド 疾患名	人数 割合%	疾患名	人数 割合%)10=	疾患名	人数 割合% ICD10コード	疾患名	人数 割合% 150107107	疾患名	人数 割合%		人数 割合%	ICD10コード	疾患名	人数 割合% ICD10コード	疾患名	人数 割合%
ļ	星	作循内	-	流 4		÷	民	İ	集程	1	₹		選螺-	₹	芦嘴		i	割形文	1	浴尿器		簽文	#	K #	ŧ	Ľ	序文	1	窗口外	

29. 原死因統計



30. 看護必要度状況



V. 臨床指標

<<全国自治体病院協議会 臨床指標(一般)>>

※類似病院:病床数400以上の病院

※類似病院: 病床数400以上の病院	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	類似病院 2年度平均値
入院患者満足度	95.6%	なし	なし	96.7%	95.9%
外来患者満足度	96.0%	なし	なし	95.2%	96.2%
紹介率【一般】	52.9%	54.0%	56.2%	49.2%	70.1%
逆紹介率【一般】	17.1%	21.2%	29.1%	25.1%	59.8%
新入院患者紹介率	28.6%	28.7%	29.1%	27.9%	35.9%
在宅復帰率	92.3%	91.6%	88.8%	93.6%	89.4%
地域医療機関サポート率	92.4%	90.9%	92.9%	88.3%	64.0%
地域分娩貢献率	93.7%	104.1%	112.2%	113.8%	34.3%
地域救急貢献率	58.8%	59.2%	58.7%	58.5%	34.9%
転倒・転落レベル2以上発生率	0.00068	0.00073	0.00044	0.00051	0.00124
褥瘡推定発生率	0.008	0.010	0.000	0.009	0.016
手術開始前1時間以內予防的抗菌薬投与率	94.3%	93.6%	93.6%	92.7%	82.3%
肺血栓塞栓症予防対策実施率	91.4%	88.4%	89.5%	95.0%	92.4%
クリニカルパス使用率【患者数】	29.4%	35.7%	39.4%	42.5%	45.5%
クリニカルパス使用率【日数】	11.9%	14.4%	16.3%	19.7%	27.3%
脳卒中連携パス使用率	20.5%	7.8%	0.0%	0.0%	14.7%
大腿骨地域連携パス使用率	0.0%	0.0%	なし	0.0%	19.9%
精神科病院入院からの身体疾患受入れ頻度	0.9	0.8	1.5	1.0	2.1
院内他科入院中の精神科診察依頼頻度	17.9	19.1	18.5	19.1	29.5
脳梗塞入院1週間以内リハビリ強度	10.0	7.2	14.2	9.5	13.3
脳梗塞ADL改善度	21.4	なし	23.0	17.8	20.6
誤嚥性肺炎摂食指導実施率	0.0%	6.3%	6.2%	3.4%	19.7%
誤嚥性肺炎再入院率	5.1%	2.1%	14.6%	4.4%	5.9%
急性心筋梗塞バイアスピリン処方率	60.0%	66.7%	46.7%	63.6%	86.1%
急性心筋梗塞急性期PCI実施率	0.0%	0.0%	なし	0.0%	76.4%
急性心筋梗塞急性期PCI実施患者死亡率	なし	なし	なし	なし	3.2%
糖尿病入院栄養指導実施率	84.5%	89.7%	83.3%	74.4%	75.9%
脳梗塞急性期t-PA治療施行率【地域医療計画】		なし	なし	0.0%	87.9%
急性心筋梗塞PCI doortoballoon 90分施行率		なし	なし	なし	76.1%
胃癌低侵襲手術率(内視鏡)		71.1%	73.9%	60.9%	60.4%
胃癌低侵襲手術率(腹腔鏡)		4.8%	5.8%	0.0%	29.5%
がん患者サポート率		13.6%	19.0%	23.9%	11.9%
迅速細胞診実施率(胃癌)		0.0%	0.0%	0.0%	28.3%
放射線専門医診断寄与率		44.5%	44.8%	53.7%	58.0%
安全管理薬剤指導率	なし	なし	42.4%	45.3%	40.7%
術後せん妄推定発生率		なし	6.9%	7.0%	8.6%

<<全国自治体病院協議会 臨床指標(精神)>>

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	総合病院精神科 有床 2年度平均値
入院患者満足度【精神科再掲】	66.7%	なし	なし	100.0%	94.1%
紹介率【一般精神科再掲】	62.2%	45.7%	78.8%	72.4%	67.0%
逆紹介率【一般精神科再掲】	71.2%	33.3%	5.3%	60.3%	104.8%
新入院頻度【精神科】	69.6	77.1	84.2	72.9	95.5
緊急措置件数【精神科】	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
措置入院件数【精神科】	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
退院患者頻度【精神科】	77.1	74.2	92.1	75.0	98.0
在院3か月以内の退院率【精神科】	88.1%	80.3%	87.8%	88.9%	80.9%
退院後3か月以内の再入院率【精神科】	10.2%	5.9%	13.4%	12.0%	13.4%
在宅復帰率【精神科再掲】	88.5%	79.0%	76.5%	81.6%	77.4%
救急車来院件数【精神科】	26.8	27.5	25.5	25.0	12.7
警察関係車両来院件数【精神科】	1.0	4.0	25.5	1.0	2.2
転倒・転落レベル2以上発生率【精神科再掲】	0.00149	0.00155	0.00038	0.00100	0.00123
褥瘡推定発生率【精神科再掲】	0.000	0.000	0.000	0.000	0.009
クリニカルパス使用率【患者数精神科再掲】	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.5%
クロザピン処方実人数【入院】	0.8	0.8	1.3	1.3	2.2
クロザピン処方実人数【外来】	18.5	21.5	27.5	17.0	7.0
電気痙攣療法延べ人数【入院:全麻】	0.0	0.0	0.0	2.0	34.0
作業療法延べ人数【入院】	579.8	650.0	730.8	848.8	960.2
作業療法延べ人数【外来】	0.0	0.0	0.0	なし	85.0
訪問看護延べ人数【外来】	169.8	87.5	91.3	112.3	174.5
アルコール依存患者数【外来】		8.3	3.5	4.0	4.3
アルコール依存患者数【入院】		3.8	1.8	4.0	2.0
薬物依存症患者数【外来】		0.0	0.0	0.8	0.7
薬物依存症患者数【入院】		0.0	0.0	0.5	0.3

大館市立総合病院年報第10号編集にあたって

大館市立総合病院年報第10号(令和2年度)をお届けします。病院年報という形式としては10回目の刊行となりました。論文発表が主な内容であった業績集に、各診療科、各部門の臨床統計が加わったものを、現在、病院年報として発行しております。毎年、委員会で掲載内容を検討して内容の充実を図り、現在のページ数は200ほどとなっております。

今年度の病院年報では、昨年度に引き続き「全国自治体病院協議会 医療の質評価・公表等事業」における臨床指標を掲載しております。掲載内容は簡易的ではありますが、今後も、さらなる検討を重ね、内容を充実させていきたいと考えております。もちろん、臨床指標のみでなく、病院年報全体としても、内容の充実に加えて読みやすさも追求できるよう努めてまいりますのでよろしくお願いします。

最後になりますが、第10号の発行にご協力いただいた原稿担当者の皆さまに感謝申し上げます。

院内年報編集委員会令和4年3月18日記

院内年報編集委員会

 委員長
 橋本
 浩(副院長)

 委員
 丹代
 諭(小児科部長)

石 田 和 子 (看護部長)佐々木 藍 (臨床検査科)佐々木 晶 香 (放射線科)

佐々木 晶 香 (放射線科) 國 安 和 仁 (薬剤科) 虻 川 愛 美 (栄養科)

豊 口 卓 (リハビリテーション科)

瀬 尾 学 (経営企画課) 佐 藤 拓 人 (経営企画課) 木 下 諭 (経営企画課)

大館市立総合病院年報

令和2年4月~令和3年3月 第10号 令和4年3月18日 発行

発行所 大館市立総合病院

〒017-8550 秋田県大館市豊町3-1 TEL(0186)42-5370